

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2012-517476

(P2012-517476A)

(43) 公表日 平成24年8月2日(2012.8.2)

(51) Int.Cl.

C07H 15/04 (2006.01)
AO1N 43/16 (2006.01)
AO1P 7/04 (2006.01)
AO1N 25/00 (2006.01)

F 1

C07H 15/04
AO1N 43/16
AO1P 7/04
AO1N 25/00

C S P A
A
AO1P
AO1N

テーマコード(参考)

4 C O 5 7
4 H O 1 1
1 O 2

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 65 頁)

(21) 出願番号 特願2011-550223 (P2011-550223)
(86) (22) 出願日 平成22年2月11日 (2010.2.11)
(85) 翻訳文提出日 平成23年10月11日 (2011.10.11)
(86) 國際出願番号 PCT/US2010/023852
(87) 國際公開番号 WO2010/093764
(87) 國際公開日 平成22年8月19日 (2010.8.19)
(31) 優先権主張番号 61/151,549
(32) 優先日 平成21年2月11日 (2009.2.11)
(33) 優先権主張国 米国(US)

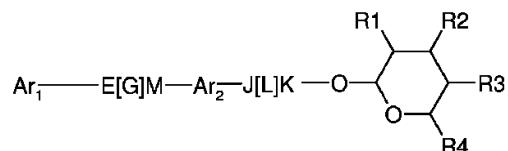
(71) 出願人 501035309
ダウ アグロサイエンシズ エルエルシ
ー
アメリカ合衆国 インディアナ州 462
68, インディアナポリス, ジオナス
ヴィレ ロード, 9330
(74) 代理人 100092783
弁理士 小林 浩
(74) 代理人 100095360
弁理士 片山 英二
(74) 代理人 100120134
弁理士 大森 規雄
(74) 代理人 100126354
弁理士 藤田 尚

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】殺虫剤組成物

(57) 【要約】

本書面において開示される発明は、殺虫剤及び害虫駆除におけるその使用の分野に関連する。下記の構造を有する化合物が開示される。

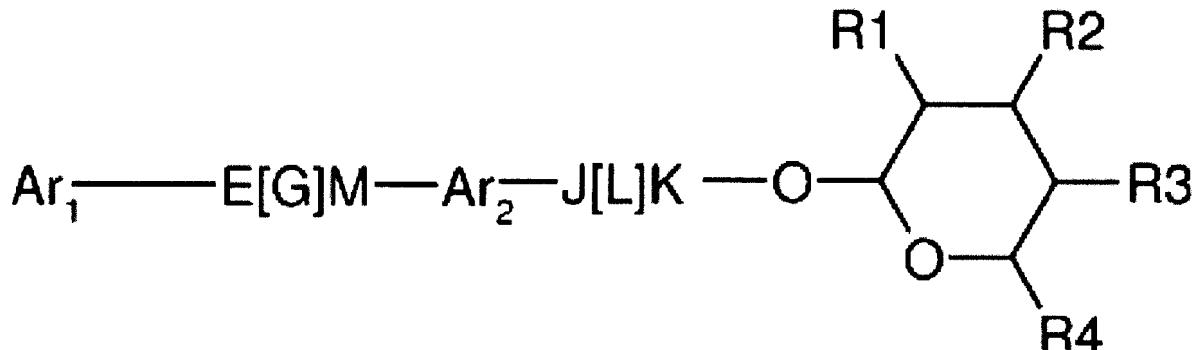


【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記の式を有する化合物：

【化 3 7】



10

20

30

40

50

式中、

(a) Ar₁ は、

(1) フラニル、フェニル、ピリダジニル、ピリジル、ピリミジニル、チエニル、或いは
(2) 置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル又は置換チエニル

であり、

但し、前記置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル及び置換チエニルは、H、F、C1、Br、I、CN、NO₂、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ハロアルキル、C₁～C₆ヒドロキシアルキル、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆ハロシクロアルキル、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ、C₃～C₆ハロシクロアルコキシ、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルコキシ、C₁～C₆アルコキシ、C₁～C₆ハロアルコキシ、C₂～C₆アルケニル、C₂～C₆アルキニル、S(=O)_n(C₁～C₆アルキル)、S(=O)_n(C₁～C₆ハロアルキル)、OSO₂(C₁～C₆アルキル)、OSO₂(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)H、C(=O)NR_xR_y、(C₁～C₆アルキル)NR_xR_y、C(=O)(C₁～C₆アルキル)、C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、C(=O)(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)O(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)O(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)(C₂～C₆アルケニル)、C(=O)O(C₂～C₆アルケニル)、(C₁～C₆アルキル)O(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆アルキル)S(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆ハロアルキル)O(C₁～C₆ハロアルキル)O、C₁～C₆(ヒドロキシ)ハロアルキル、C(=O)(C₁～C₆アルキル)C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、フェニル、フェノキシ、置換フェニル及び置換フェノキシから独立して選択される1つ又はそれ以上の置換基を有する(但し、そのような置換フェニル及び置換フェノキシは、H、F、C1、Br、I、CN、NO₂、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ハロアルキル、C₁～C₆ヒドロキシアルキル、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆ハロシクロアルキル、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ、C₃～C₆ハロシクロアルコキシ、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルコキシ、C₁～C₆アルコキシ、C₁～C₆ハロアルコキシ、C₂～C₆アルケニル、C₂～C₆アルキニル、S(=O)_n(C₁～C₆アルキル)、OSO₂(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)H、C(=O)NR_xR_y、(C₁～C₆アルキル)NR_xR_y、C(=O)(C₁～C₆アルキル)、C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、C(=O)(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)O(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)O(C₃～C₆シクロアルキル))。

O) O (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、C (=O) (C₂ ~ C₆ アルケニル)、C (=O) O (C₂ ~ C₆ アルケニル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (=O) O (C₁ ~ C₆ アルキル) フェニル及びフェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する) ;

(b) E は、N、C 又は CR5 である;

(c) G は二重結合又は三重結合である;

(d) M は、N、C 又は CR5 である(但し、E が窒素原子「N」であるとき、M は窒素原子「N」であり、かつ、E が炭素原子「C」であるとき、M は炭素原子「C」であり、かつ、E が「CR5」であるとき、M は「CR5」である);

(e) Ar₂ は、

(1) フラニル、フェニル、ピリダジニル、ピリジル、ピリミジニル、チエニル、或いは
(2) 置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル又は置換チエニル

であり、

但し、前記置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル及び置換チエニルは、H、F、Cl、Br、I、CN、NO₂、C₁ ~ C₆ アルキル、C₁ ~ C₆ ハロアルキル、C₁ ~ C₆ ヒドロキシアルキル、C₃ ~ C₆ シクロアルキル、C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキル、C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルキル、C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、C₃ ~ C₆ ハロシクロアルコキシ、C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルコキシ、C₁ ~ C₆ アルコキシ、C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、C₂ ~ C₆ アルケニル、C₂ ~ C₆ アルキニル、S (=O)_n (C₁ ~ C₆ アルキル)、S (=O)_n (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、OSO₂ (C₁ ~ C₆ アルキル)、OSO₂ (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) H、C (=O) NR_x R_y、(C₁ ~ C₆ アルキル) NR_x R_y、C (=O) (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、C (=O) O (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、C (=O) (C₂ ~ C₆ アルケニル)、C (=O) O (C₂ ~ C₆ アルケニル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル)、(C₁ ~ C₆ ハロアルキル) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) O、C₁ ~ C₆ (ヒドロキシ)(ハロ)アルキル、C (=O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (=O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、フェニル、フェノキシ、置換フェニル及び置換フェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する(但し、そのような置換フェニル及び置換フェノキシは、H、F、Cl、Br、I、CN、NO₂、C₁ ~ C₆ アルキル、C₁ ~ C₆ ハロアルキル、C₁ ~ C₆ ヒドロキシアルキル、C₃ ~ C₆ シクロアルキル、C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキル、C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルキル、C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、C₃ ~ C₆ ハロシクロアルコキシ、C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルコキシ、C₁ ~ C₆ アルコキシ、C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、C₂ ~ C₆ アルケニル、C₂ ~ C₆ アルキニル、S (=O)_n (C₁ ~ C₆ アルキル)、S (=O)_n (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、OSO₂ (C₁ ~ C₆ アルキル)、OSO₂ (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) H、C (=O) NR_x R_y、(C₁ ~ C₆ アルキル) NR_x R_y、C (=O) (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、C (=O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、C (=O) O (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、C (=O) (C₂ ~ C₆ アルケニル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、(C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル)、C (=O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (=O) O (C₁ ~ C₆ アルキル) フェニル及びフェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する) ;

(d) J は、O、N、NR5、CR5 又は C = O である;

(e) L は単結合又は二重結合である;

10

20

30

40

50

(f) K は、 C R 5 、 C = O 、 N 、 N R 5 又は C = S である；

(g) R 1 は、 H 、 OH 、 F 、 Cl 、 Br 、 I 、 オキソ、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニルオキシ、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルコキシ) 、 OC (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 OC (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル) 、 OC (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 OC (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル) 又は NR_x R_y である；

(h) R 2 は、 H 、 F 、 Cl 、 Br 、 I 、 オキソ、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニルオキシ、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルコキシ) 、 OC (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル) 、 OC (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 OC (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル) 又は NR_x R_y である；

(i) R 3 は、 H 、 OH 、 F 、 Cl 、 Br 、 I 、 オキソ、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニルオキシ、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルコキシ) 、 OC (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル) 、 OC (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 OC (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル) 又は NR_x R_y である；

(j) R 4 は、 H 、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニルオキシ、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル) である；

(k) R 5 は (それぞれが独立して) 、 H 、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルキル又は C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキルである；かつ

(l) R_x 及び R_y は独立して、 H 、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ ヒドロキシアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニル、 C₂ ~ C₆ アルキニル、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 OSO₂ (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 OSO₂ (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 C (= O) H 、 C (= O) OH 、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 C (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 C (= O) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) 、 C (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル) 、 C (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル) 、 C (= O) O (C₂ ~ C₆ アルケニル) 、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 (C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル) 、 フェニル及びフェノキシから選択される。

【請求項 2】

化合物 1 ~ 化合物 22 に従う構造を有する、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

請求項 2 に記載される化合物の、殺虫剤として許容可能な酸付加塩である化合物。

【請求項 4】

請求項 1 に記載される化合物を害虫駆除のための場所に適用することを含むプロセス。

【請求項 5】

請求項 2 に記載される化合物と、少なくとも 1 つの他の殺虫剤との混合物を含む組成物。

【請求項 6】

請求項 1 に記載される化合物を種子に適用するプロセス。

【請求項 7】

10

20

30

40

50

請求項 1 に記載される化合物を、 1 つ又はそれ以上の特殊化された形質を発現するため
に遺伝子的に形質転換されている種子に適用するプロセス。

【請求項 8】

請求項 1 に記載される化合物を、 1 つ又はそれ以上の特殊化された形質を発現するため
に遺伝子的に形質転換されている遺伝子的に形質転換された植物に適用するプロセス。

【請求項 9】

請求項 1 に記載される化合物を動物に経口投与又は適用するプロセス。

【請求項 10】

請求項 1 に記載される化合物を含む製造物についての製造物登録承認を得るために、 請
求項 1 に記載される化合物に関連するデータを政府当局に提出することを含むプロセス。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本出願は米国仮特許出願第 61 / 151,549 号（2009 年 2 月 11 日出願）の利益を主張する（その全開示が本明細書により、参照によって組み込まれる）。本書面において開示される発明は、殺虫剤及び害虫駆除におけるその使用の分野に関連する。

【背景背景】

【0002】

害虫により、世界中で数百万人の人々が毎年、死亡している。その上、農業において損失を引き起こす害虫が 1 万種を超える。これらの農業損失が毎年、数十億ドルに達する。シロアリにより、様々な構造物（例えば、家屋など）に対する被害が引き起こされている。これらのシロアリ被害損失が毎年、数十億ドルに達する。最後の留意事項として、多くの貯蔵食品害虫により、貯蔵食品が食害され、その品質が低下している。これらの貯蔵食品損失が毎年、数十億ドルに達しており、しかし、より重要なことに、これらの貯蔵食品損失は、必要な食品を人々から奪っている。

20

【0003】

新しい殺虫剤に対する必要性は深刻である。様々な昆虫が、現在使用されている殺虫剤に対する抵抗性を発達させ続けている。数百の昆虫種が 1 つ又はそれ以上の殺虫剤に対して抵抗性である。より以前の殺虫剤のいくつか（例えば、DDT、カルバマート系殺虫剤及び有機リン酸系殺虫剤など）に対する抵抗性の発達が周知である。しかし、抵抗性が今では、より新しい殺虫剤のいくつかに対して発達さえしている。従って、新しい殺虫剤、具体的には、新しい作用様式を有する殺虫剤が求められている。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

米国仮特許出願第 61 / 151,549 号（2009 年 2 月 11 日出願）

【発明の概要】

【0005】

[発明が解決しようとする課題]

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

置換基（非網羅的列挙）

置換基について示される例は、（ハロを除いて）非網羅的であり、本文書において開示される発明を限定するものとして解釈してはならない。

【0007】

「アルケニル」は、炭素及び水素からなる、非環式の、不飽和（少なくとも 1 つの炭素 - 炭素二重結合）を有する枝分かれ置換基又は非枝分かれ置換基を意味し、例えば、ビニル、アリル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニル、ヘプテニル、オクテニル、ノネニル及びデセニルを意味する。

50

【0008】

「アルケニルオキシ」は、さらには炭素 - 酸素単結合からなるアルケニルを意味し、例えば、アリルオキシ、ブテニルオキシ、ペンテニルオキシ、ヘキセニルオキシ、ヘプテニルオキシ、オクテニルオキシ、ノネニルオキシ及びデセニルオキシを意味する。

【0009】

「アルコキシ」は、さらには炭素 - 酸素単結合からなるアルキルを意味し、例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、1 - ブトキシ、2 - ブトキシ、イソブトキシ、*t e r t* - ブトキシ、ペントキシ、2 - メチルブトキシ、1 , 1 - ジメチルプロポキシ、ヘキソキシ、ヘプトキシ、オクトキシ、ノノキシ及びデコキシを意味する。

【0010】

「アルキル」は、炭素及び水素からなる、非環式の、飽和した枝分かれ置換基又は非枝分かれ置換基を意味し、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、1 - ブチル、2 - ブチル、イソブチル、*t e r t* - ブチル、ペンチル、2 - メチルブチル、1 , 1 - ジメチルプロピル、ヘキシリル、ヘプチル、オクチル、ノニル及びデシルを意味する。

【0011】

「アルキニル」は、炭素及び水素からなる、非環式の、不飽和（少なくとも1つの炭素 - 炭素三重結合及び任意の二重結合）を有する枝分かれ置換基又は非枝分かれ置換基を意味し、例えば、エチニル、プロパルギル、ブチニル、ベンチニル、ヘキシニル、ヘプチニル、オクチニル、ノニニル及びデシニルを意味する。

【0012】

「ハロ」は、フルオロ、クロロ、ブロモ及びヨードを意味する。
 「ハロアルコキシ」は、さらには炭素 - 酸素単結合からなるハロアルキルを意味し、例えば、フルオロメトキシ、ジフルオロメトキシ及びトリフルオロメトキシ、2 - フルオロエトキシ、1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエトキシ、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロ - 2 - ブロモエトキシ、並びに、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエトキシを意味する。

【0013】

「ハロアルキル」は、さらには1つのハロ～最大可能な数の同一又は異なるハロからなるアルキルを意味し、例えば、フルオロメチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、2 - フルオロエチル、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチル、クロロメチル、トリクロロメチル及び1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエチルを意味する。

【0014】

「ハロフェニルオキシ」は、1つのハロ、或いは、2つ以上の同一又は異なるハロを有するフェニルオキシを意味する。

【0015】

「ヒドロキシアルキル」は、1つ又はそれ以上のヒドロキシ基を有するアルキルを意味する。

【発明を実施するための形態】

【0016】

本発明の化合物は下記の式を有する：

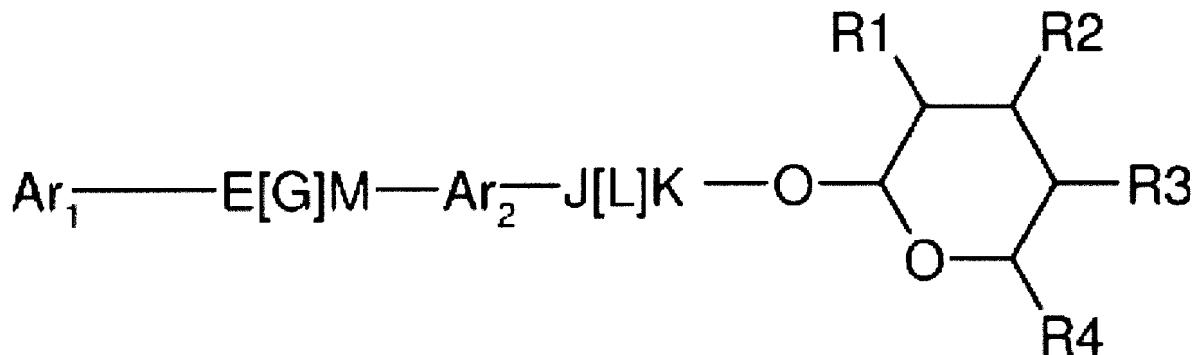
10

20

30

40

【化1】



10

式中、

(a) Ar₁は、

- (1) フラニル、フェニル、ピリダジニル、ピリジル、ピリミジニル、チエニル、或いは
 (2) 置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル又は置換チエニル

であり、

但し、前記置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル及び置換チエニルは、H、F、C1、Br、I、CN、NO₂、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ハロアルキル、C₁～C₆ヒドロキシアルキル、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆ハロシクロアルキル、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ、C₃～C₆ハロシクロアルコキシ、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルコキシ、C₁～C₆アルコキシ、C₁～C₆ハロアルコキシ、C₂～C₆アルケニル、C₂～C₆アルキニル、S(=O)_n(C₁～C₆アルキル)、S(=O)_n(C₁～C₆ハロアルキル)、OSO₂(C₁～C₆アルキル)、OSO₂(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)H、C(=O)NR_xR_y、(C₁～C₆アルキル)NR_xR_y、C(=O)(C₁～C₆アルキル)、C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、C(=O)(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)O(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)O(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)(C₂～C₆アルケニル)、C(=O)O(C₂～C₆アルケニル)、(C₁～C₆アルキル)O(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆アルキル)S(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆ハロアルキル)O(C₁～C₆ハロアルキル)O、C₁～C₆(ヒドロキシ)ハロアルキル、C(=O)(C₁～C₆アルキル)C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、フェニル、フェノキシ、置換フェニル及び置換フェノキシから独立して選択される1つ又はそれ以上の置換基を有する(但し、そのような置換フェニル及び置換フェノキシは、H、F、C1、Br、I、CN、NO₂、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ハロアルキル、C₁～C₆ヒドロキシアルキル、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆ハロシクロアルキル、C₃～C₆ヒドロキシシクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ、C₃～C₆ハロシクロアルコキシ、C₂～C₆アルケニル、C₂～C₆アルキニル、S(=O)_n(C₁～C₆アルキル)、S(=O)_n(C₁～C₆ハロアルキル)、OSO₂(C₁～C₆アルキル)、OSO₂(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)H、C(=O)NR_xR_y、(C₁～C₆アルキル)NR_xR_y、C(=O)(C₁～C₆アルキル)、C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、C(=O)(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)O(C₁～C₆ハロアルキル)、C(=O)(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)O(C₃～C₆シクロアルキル)、C(=O)(C₂～C₆アルケニル)、C(=O)O(C₂～C₆アルケニル)、(C₁～C₆アルキル)O(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆アルキル)S(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆アルキル)C(=O)O(C₁～C₆アルキル)、(C₁～C₆アルキル)C(=O)(C₁～C₆アルキル))C 40

20

30

40

50

(= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル) フェニル及びフェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する) ;

(b) E は、 N、 C 又は C R 5 である ;

(c) G は二重結合又は三重結合である ;

(d) M は、 N、 C 又は C R 5 である (但し、 E が窒素原子「 N 」であるとき、 M は窒素原子「 N 」であり、かつ、 E が炭素原子「 C 」であるとき、 M は炭素原子「 C 」であり、かつ、 E が「 C R 5 」であるとき、 M は「 C R 5 」である) ;

(c) A r₂ は、

(1) フラニル、フェニル、ピリダジニル、ピリジル、ピリミジニル、チエニル、或いは

(2) 置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル又は置換チエニル

であり、

但し、前記置換フラニル、置換フェニル、置換ピリダジニル、置換ピリジル、置換ピリミジニル及び置換チエニルは、 H、 F、 C 1、 B r、 I、 C N、 N O₂、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ ヒドロキシアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニル、 C₂ ~ C₆ アルキニル、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ アルキル)、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 O S O₂ (C₁ ~ C₆ アルキル)、 O S O₂ (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) H、 C (= O) N R_x R_y、 (C₁ ~ C₆ アルキル) N R_x R_y、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル)、 C (= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、 C (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、 C (= O) O (C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ)、 C (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル)、 C (= O) O (C₂ ~ C₆ アルケニル)、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、 (C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル)、 (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル) O、 C₁ ~ C₆ (ヒドロキシ) (ハロ) アルキル、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、 フェニル、フェノキシ、置換フェニル及び置換フェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する (但し、そのような置換フェニル及び置換フェノキシは、 H、 F、 C 1、 B r、 I、 C N、 N O₂、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ ヒドロキシアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルキル、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ハロシクロアルコキシ、 C₃ ~ C₆ ヒドロキシシクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハロアルコキシ、 C₂ ~ C₆ アルケニル、 C₂ ~ C₆ アルキニル、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ アルキル)、 S (= O)_n (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 O S O₂ (C₁ ~ C₆ アルキル)、 O S O₂ (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) H、 C (= O) N R_x R_y、 (C₁ ~ C₆ アルキル) N R_x R_y、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル)、 C (= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、 C (= O) (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) O (C₁ ~ C₆ ハロアルキル)、 C (= O) (C₃ ~ C₆ シクロアルキル)、 C (= O) O (C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ)、 C (= O) (C₂ ~ C₆ アルケニル)、 (C₁ ~ C₆ アルキル) O (C₁ ~ C₆ アルキル)、 (C₁ ~ C₆ アルキル) S (C₁ ~ C₆ アルキル)、 C (= O) (C₁ ~ C₆ アルキル) C (= O) O (C₁ ~ C₆ アルキル) フェニル及びフェノキシから独立して選択される 1 つ又はそれ以上の置換基を有する) ;

(d) J は、 O、 N、 N R 5、 C R 5 又は C = O である ;

(e) L は単結合又は二重結合である ;

(f) K は、 C R 5、 C = O、 N、 N R 5 又は C = S である ;

(g) R 1 は、 H、 O H、 F、 C 1、 B r、 I、 オキソ、 C₁ ~ C₆ アルキル、 C₁ ~ C₆ ハロアルキル、 C₁ ~ C₆ アルコキシ、 C₃ ~ C₆ シクロアルコキシ、 C₁ ~ C₆ ハ

10

20

30

40

50

ロアルコキシ、 $C_2 \sim C_6$ アルケニルオキシ、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルキル)、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルコキシ)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $OC(=O)(C_3 \sim C_6$ シクロアルキル)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $OC(=O)(C_2 \sim C_6$ アルケニル)又は NR_xR_y である；

(h) R_2 は、H、F、Cl、Br、I、オキソ、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ、 $C_2 \sim C_6$ アルケニルオキシ、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルキル)、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルコキシ)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $OC(=O)(C_3 \sim C_6$ シクロアルキル)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $OC(=O)(C_2 \sim C_6$ アルケニル)又は NR_xR_y である；

(i) R_3 は、H、OH、F、Cl、Br、I、オキソ、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ、 $C_2 \sim C_6$ アルケニルオキシ、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルキル)、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルコキシ)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $OC(=O)(C_3 \sim C_6$ シクロアルキル)、 $OC(=O)(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $OC(=O)(C_2 \sim C_6$ アルケニル)又は NR_xR_y である；

(j) R_4 は、H、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ、 $C_2 \sim C_6$ アルケニルオキシ、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルキル)である；

(k) R_5 は(それが独立して)、H、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル又は $C_3 \sim C_6$ ハロシクロアルキルである；かつ

(l) R_x 及び R_y は独立して、H、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ ヒドロキシアルキル、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル、 $C_3 \sim C_6$ ハロシクロアルキル、 $C_3 \sim C_6$ ヒドロキシシクロアルキル、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルコキシ、 $C_3 \sim C_6$ ハロシクロアルコキシ、 $C_3 \sim C_6$ ヒドロキシシクロアルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ、 $C_2 \sim C_6$ アルケニル、 $C_2 \sim C_6$ アルキニル、 $S(=O)_n(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $S(=O)_n(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $OSO_2(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $OSO_2(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $C(=O)H$ 、 $C(=O)OH$ 、 $C(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $C(=O)(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル)、 $C(=O)O(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $C(=O)(C_3 \sim C_6$ シクロアルキル)、 $C(=O)O(C_3 \sim C_6$ シクロアルキル)、 $C(=O)(C_2 \sim C_6$ アルケニル)、 $C(=O)O(C_2 \sim C_6$ アルケニル)、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $O(C_1 \sim C_6$ アルキル)、($C_1 \sim C_6$ アルキル) $S(C_1 \sim C_6$ アルキル)、 $C(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、フェニル及びフェノキシから選択される。

【0017】

本発明の別の実施形態において、

A_{r_1} は置換フェニルであり、この場合、前記置換フェニルは、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ、 $C(=O)(C_1 \sim C_6$ アルキル)、($C_1 \sim C_6$ ハロアルキル) $O(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル) O 及び $C_1 \sim C_6$ (ヒドロキシ)ハロアルキルから独立して選択される1つ又はそれ以上の置換基を有する。

【0018】

本発明の別の実施形態において、

A_{r_1} は置換フェニルであり、この場合、前記置換フェニルは、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルコキシ及び($C_1 \sim C_6$ ハロアルキル) $O(C_1 \sim C_6$ ハロアルキル) O から独立して選択される1つ又はそれ以上の置換基を有する。

【0019】

本発明の別の実施形態において、 A_{r_2} はフェニルである。

【0020】

10

20

30

40

50

本発明の別の実施形態において、Jは、N、N R 5又はC R 5である。

【0021】

本発明の別の実施形態において、KはC=O又はNである。

【0022】

本発明の別の実施形態において、R1、R2及びR3は(それが独立して)C₁~C₆アルコキシである。

【0023】

本発明の別の実施形態において、R4はC₁~C₆アルキルである。

【0024】

本発明の別の実施形態において、R5はHである。

10

【0025】

これらの実施形態が表されているが、他の実施形態、及び、これらの表された実施形態と、他の実施形態との組合せが可能である。

【0026】

ピラノース中間体の調製

広範囲の様々なピラノース系化合物(種々の構造形態で、例えば、D体及びL体)を、本発明の化合物を作製するために使用することができる。例えば、ピラノース系化合物の下記の非網羅的列挙を使用することができる:リボース、アラビノース、キシロース、リキソース、リブロース、キシリロース、アロース、アルトロース、グルコース、マンノース、グロース、イドース、ガラクトース、タロース、プシコース、フルクトース、ソルボース、タガトース、フコース、ミカロース、キノボース、オレアンドロース、ラムノース及びパラトース。下記の例のほとんどにおいて、L-ラムノースが、ピラノース中間体を作製するために使用された。

20

【0027】

一般に、ピラノース中間体は、(L-ラムノースを例として使用して)下記のように作製することができる。O-アルキル化されたラムノース誘導体を、ヨウ化アルキル及び粉末化水酸化カリウム(KOH)を5~15で乾燥ジメチルスルホキシド(DMSO)において使用することによって市販のL-ラムノース又はL-ラムノース水和物から調製することができる。その後、完全アルキル化生成物が、ヘキサン(hexanes)によるDMSO溶液の抽出、続いて、真空下でのヘキサン層の濃縮によって単離される。その後、この中間体アルキルピラノシドが塩酸(HCl)水溶液又は他の酸水溶液により直接に処理され、これにより、フリーのヒドロキシ糖が、通常の場合には-アノマー及び-アノマーの混合物として形成される。

30

【0028】

代替では、ペル-アルキル化(per-alkylated)されたL-ラムノースを、アベルメクチンB₂からのメチルオレアンドロシドの単離について記載される条件(Looewe他、J. Org. Chem., 1994, 59, 7870)と類似する条件を使用して、スピノサド又は他のトリ-(O-アルキル)ラムノシリ化天然産物の加水分解によって単離することができる。従って、工業用スピノサドを乾燥メチルアルコール(MeOH)において過剰な濃硫酸により処理することにより、ラムノース糖の加水分解及びメチルピラノシドへの変換が生じる。その後、純粋なメチルピラノシドをヘキサン(hexanes)又は他の炭化水素溶媒による徹底した抽出によって反応媒体から取り出すことができる。その後、純粋なラムノピラノシドを真空下での粗液体の蒸留によって約65%~75%の全体的収率で単離することができる。

40

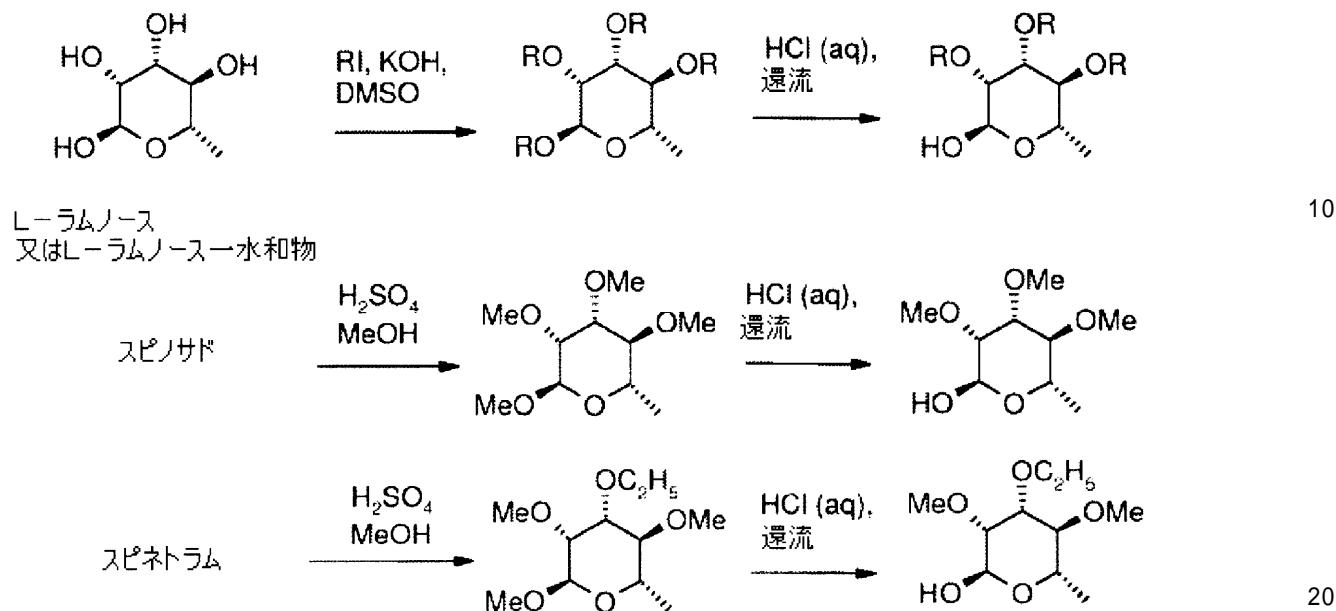
【0029】

3-O-メチル-2,4-ジ-O-メチルラムノースを、スピネトラムから出発して、同様な様式で調製することができる。他のアルキル化誘導体を、適切に官能基化されたスピノソイド誘導体から開始することによって同様に製造することができる。この場合、そのようなスピノソイド誘導体は、米国特許第6,001,981号(De Amicis他、1999)に記載される条件を使用して、1つ又はそれ以上のフリーのヒドロキシル基

50

がラムノースに結合しているいずれかのスピノシン因子（例えば、スピノシンJ）から作製される。

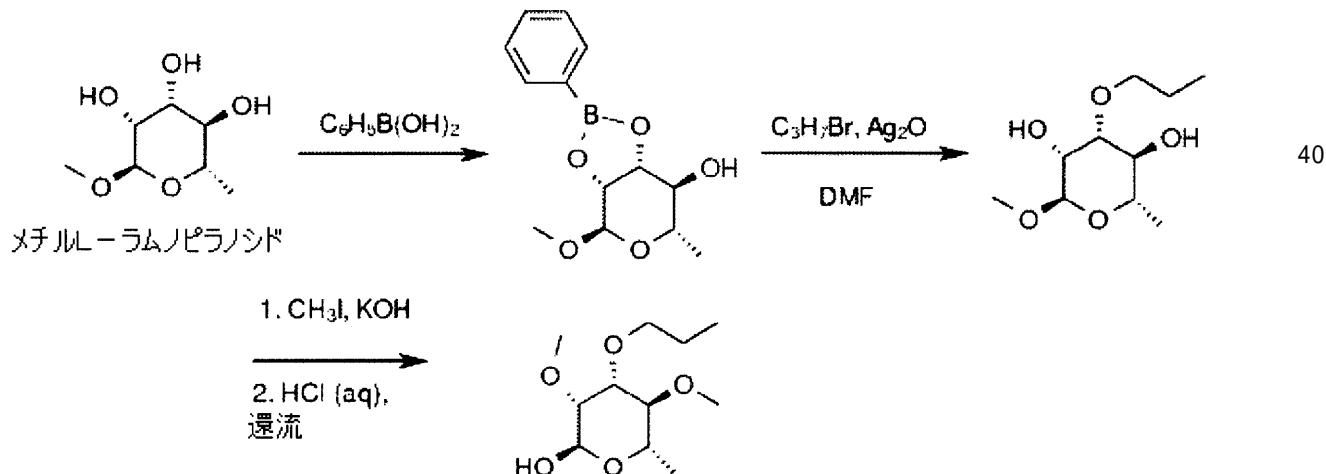
【化2】



【0030】

より大きな置換基によりC3が選択的にアルキル化されるラムノース前駆体が記載されている（例えば、Pozsgay他、Can. J. Chem.、1987、65、2764を参照のこと）。1つの代替経路が下記に記載され、この経路では、スズ試薬の使用が回避される。L-ラムノースのメチルピラノシドを、水の除去を考慮する条件のもとで1当量のフェニルボロン酸と反応することにより、ホウ素アセタールが形成される。このアセタールを0～110度極性の非プロトン溶媒（例えば、N,N-ジメチルホルムアミド（DMF）など）においてヨウ化アルキル及び酸化銀により処理することにより、C3-OHにおける選択的アルキル化が生じ、これにより、3-O-アルキルメチルピラノシドが得られる。その後、この物質はさらに、以前に記載された条件を使用して、2-OH及び4-OHの位置をヨウ化メチルによりメチル化することができる。その後、この完全アルキル化ラムノースは、2,4-ジ-O-メチル-3-O-アルキルL-ラムノースを得るために上記のように加水分解することができる。

【化3】



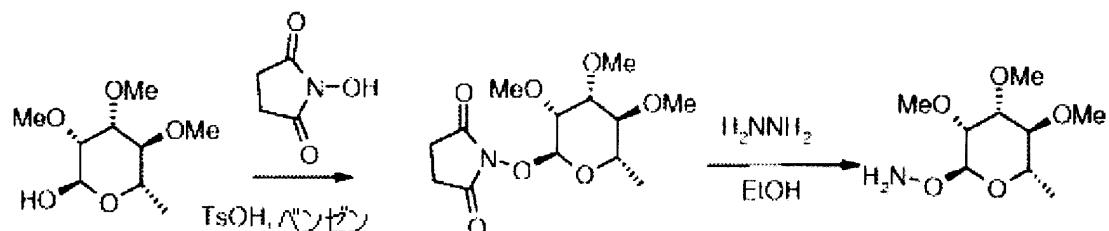
【0031】

そのようなピラノース中間体を作製することの例示が実施例において示される。

【0032】

ヒドロキシルアミノピラノース中間体もまた作製することができる。例えば、ヒドロキシルアミノピラノース中間体を、形成される水が共沸除去されて、N-スクシンイミドイリヒドロキシルアミン付加物を形成する条件のもとで、対応するラムノース誘導体及びN-ヒドロキシスクシンイミド(NHS)から調製することができる。1つの実施形態において、このような条件は、ラムノース及びNHSをトルエン又はベンゼンにおいて一緒にし、触媒量の酸(例えば、p-トルエンスルホン酸(TsOH)など)を加え、ディーン・スターク型トラップを備える装置で加熱還流することを伴う。フリーヒドロキシルアミン中間体への変換が、アルコール性溶媒(例えば、MeOH又はエチルアルコール(EtOH)など)における過剰なヒドラジン水和物又は無水ヒドラジンによるスクシンイミドイル付加物の処理によって達成される。その後、O-ラムノシリヒドロキシルアミンを、周囲温度から還流までにおいて、EtOH又は他の低級アルコール溶媒を使用してアルデヒド又はケトンにより処理することにより、O-ラムノシリオキシムが生じる。

【化4】



【0033】

ジアリール中間体の調製

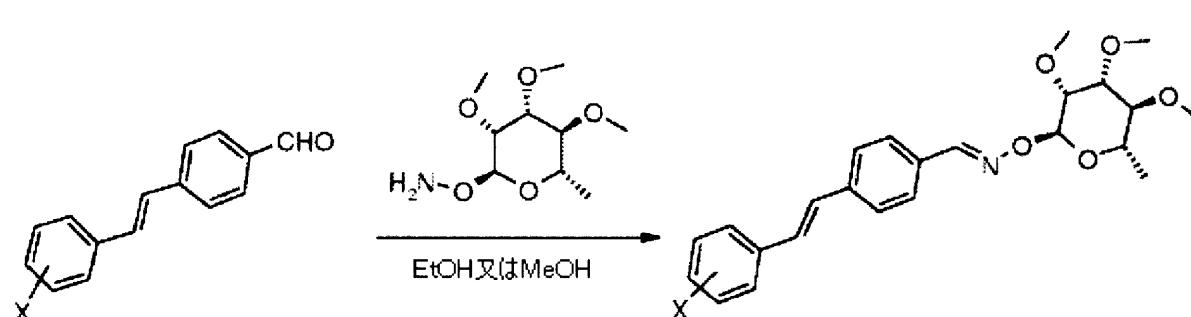
本発明の化合物は、上記で記載されたピラノース系化合物を共有結合リンカーJ[L]KQによってジアリール中間体のAr1-E[G]M-Ar2に連結することによって調製される(これらは上記で定義される)。ジアリール前駆体が、共有結合リンカーを形成するためにピラノース中間体が結合し得るAr2上の好適な官能基を含有する場合、広範囲の様々なジアリール前駆体を、本発明の化合物を調製するために使用することができる。好適な官能基には、アミノ基、オキソアルキル基、ホルミル基又はカルボン酸基が含まれる。これらの中間体は、化学文献に以前に記載された方法によって調製することができる。これらの方法のいくつかが下記に示される。

【0034】

オキシム連結化合物の調製

オキシム連結化合物を、0~100の間の温度で、有機溶媒(例えば、MeOH又はEtOHなど)において、対応する2-ヒドロキシルアミノ糖との反応によって、対応するアリールアルデヒド又はアリールケトンから調製することができる。

【化5】



【0035】

10

20

30

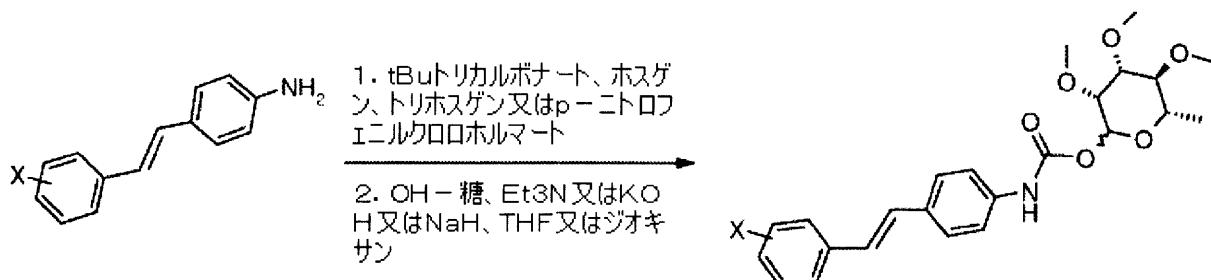
40

50

カルバマート連結化合物の調製

カルバマート連結化合物又はチオカルバマート連結化合物を、イソシアナート、イソチオシアナート又はp-ニトロフェニルカルバマートへの変換、それに続く、0 ~ 100の間の温度での好適な溶媒（例えば、テトラヒドロフラン（THF）など）における適切な-R OH及び有機塩基又は無機塩基による処理によって、対応するアリールアミンから調製することができる。

【化6】



【0036】

これらの反応において、ラムノース部分のC1における-立体配置が通常の場合には主生成物であるものの、少量の-アノマーもまた形成される。これら2つの異性体はクロマトグラフィーによって分離することができ、又は、それらは混合物として使用することができる。

【0037】

本発明の範囲に含まれる化合物の調製を、ピラノース中間体への結合のための、酸官能基、アルデヒド官能基、ケトン官能基又はアミノ官能基を含有する適切な中間体の合成によって行うことができる。

【実施例】

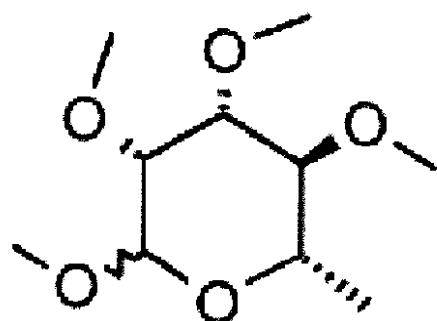
【0038】

これらの実施例は例示目的のためであり、本文書において開示される発明を開示された実施形態のみに限定するものとして解釈してはならない。

【0039】

実施例1：(3R,4R,5S,6S)-2,3,4,5-テトラメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン（化合物E-1）の調製

【化7】



L-ラムノース水和物（40グラム(g)、0.22モル(mol)）を乾燥ジメチルスルホキシド(DMSO; 450ミリリットル(mL))に溶解した溶液を2リットル(L)の3口丸底フラスコに入れ、機械的に攪拌し、その間に、粉末化された水酸化カリウム(KOH; 75g、1.34mol)を一度に加えた。ヨードメタン(187g、1.32mol)を、溶液の温度が30℃未満で維持される速度でこの溶液に加えた。

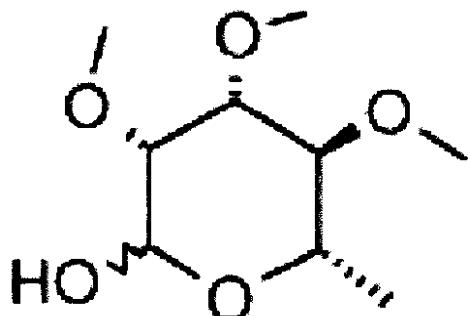
ドライアイス - アセトン浴を間欠的に使用して、この温度を維持した。添加が完了した後（約2時間（h）後）、溶液をさらに3h攪拌し、その後、溶液を周囲温度で一晩放置した。その後、この透明な溶液をヘキサン（hexanes）により抽出し（500mL、4回）、一緒にしたヘキサン溶液をブラインにより洗浄し、その後、乾燥し、溶媒をエバボレーションして、明るいオレンジ色の溶液を得た（44g、92%）。蒸留により、40gの無色のオイルを得た（bp、150（0.5mmHg））。

【0040】

実施例2：（3R, 4R, 5S, 6S）-3, 4, 5-トリメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-オール（化合物E-2）の調製

【化8】

10



20

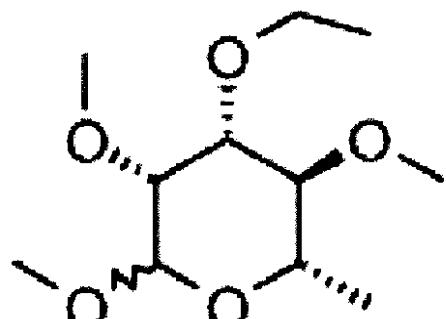
E-1（35.7g、0.162mol）を2N塩酸（HCl；300mL）に溶解した溶液を98で5時間にわたって加熱し、その後、室温に冷却し、ジクロロメタン（C₂H₂C₁₂）により抽出した（170mL、4回）。一緒にした抽出液を硫酸マグネシウム（MgSO₄）で乾燥し、活性炭で脱色した。濃縮により、表題化合物（24.7g、74%）を粘性のオイルとして得た。粗生成物の一部（960ミリグラム（mg））を、クーゲルロール装置を使用して真空蒸留し、これにより、890mgを145～155（1～2mm）で回収した。

【0041】

30

実施例3：（3R, 4R, 5S, 6S）-4-エトキシ-2, 3, 5-トリメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン（化合物E-3）の調製

【化9】



40

硫酸（H₂SO₄、98%；300mL、5.6mol）を4Lの三角フラスコにおけるメチルアルコール（2.5リットル（L））の攪拌溶液にゆっくり加えた。溶液が周囲温度に冷えたとき、3'-OEtスピノシンJ/L（350g、0.47mol）（これは米国特許第6,001,981号（De Amicis他、1999）の場合によく調製された）を加え、得られた溶液を6時間にわたって加熱還流した。冷却された溶液を4

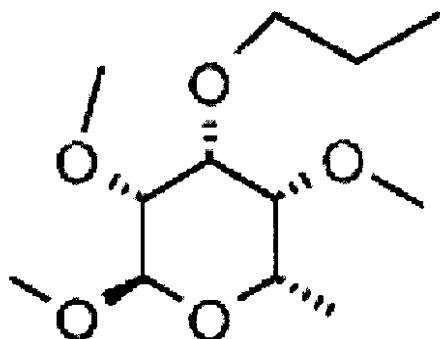
50

Lの分液ロートに移し、ヘキサン(hexanes)により抽出した(1L、3回)。一緒にした有機溶液を乾燥し、真空下で濃縮し、その後、クーゲルロール装置を使用して蒸留して、無色のオイルを得た(65g、60%)(b.p. 165 (10mTorr))。

【0042】

実施例4:(2R,3R,4R,5R,6S)-2,3,5-trimethyl-6-methyl-4-propoxytetrahydropyran(化合物E-5)の調製

【化10】



10

工程1.(2R,3R,4R,5R,6S)-2-メトキシ-6-メチル-4-プロポキシ-テトラヒドロピラン-3,5-ジオール。

メチル-L-フコピラノシドの3,4-ボロナートエステルの調製のためのOshima他(Tetrahedron Lett., 1997, 38, 5001)によって記載される手順に従つて、メチル-L-ラムノピラノシドを2,3-ボロナートエステルに変換した。粗エステル(10.0g, 37.7ミリモル(mmol))をトルエン(150mL)に溶解し、ヨードプロパン(8.0g, 47mmol)、酸化銀(21.8g, 94.3mmol)及びトリエチルアミン(4.77g, 47.1mmol)により処理した。溶液を100℃に加熱し、一晩(16時間)攪拌した。冷却及びろ過の後、溶液をガム状オイルにまで濃縮し、酢酸エチル(EtOAc)-ヘキサンのグラジエントにより溶出するシリカゲルクロマトグラフィーによって精製して、5.9gの純粋な生成物を得た。

20

30

【0043】

工程2.工程1からの物質を、実施例1に記載される条件のもと、MeI及びKOHを使用してメチル化して、化合物E-5を得た。

表1に列挙されるピラノース中間体を、より以前に記載され、また、実施例1～実施例4において例示される経路によって調製した。

【0044】

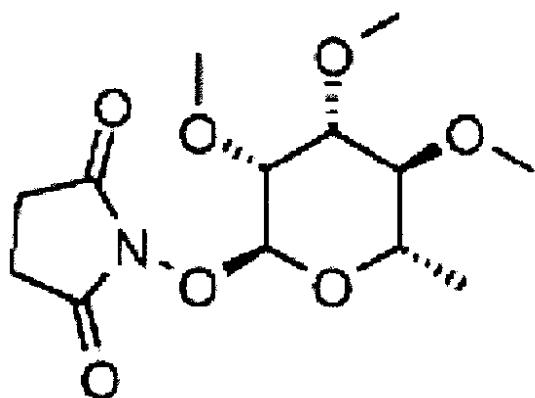
2-O-スクシンイミドイルピラノース中間体を調製する一例が下記に記載される。

【0045】

実施例5:1-((2S,3R,4R,5S,6S)-3,4,5-trimethyl-6-methyl-4-propoxytetrahydropyran-2-iloxo)pyrrolidine-2,5-dion(化合物E-23)の調製

40

【化11】



10

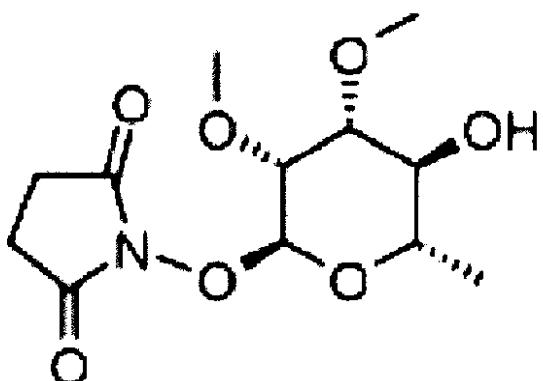
ベンゼン（50 mL）における2, 3, 4 - トリ - O - メチル - L - ラムノース（6.5 g、31.5 mmol）及びN - ヒドロキシスクシンイミド（5.4 g、47 mmol）の攪拌溶液に、p - トルエンスルホン酸（50 mg、触媒）を加えた。溶液を加熱還流し、水（H₂O）を、ディーン・スターク型トラップを使用して集めた。4時間後、溶液を冷却し、上澄みのトルエン層を少量の不溶性ガムから分離した。有機層を重炭酸ナトリウム（NaHCO₃）の飽和溶液（20 mL）により洗浄し、MgSO₄で乾燥し、固体にまで濃縮した。エーテル（Et₂O） - ヘキサン（hexanes）からの再結晶により、表題化合物（4.95 g、52%）を灰白色の固体として得た。

20

【0046】

実施例6：1 - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 5 - ヒドロキシ - 3, 4 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イルオキシ) ピロリジン - 2, 5 - ジオノン（化合物E - 24）の調製

【化12】



30

(2R, 3R, 4R, 5S, 6S) - 5 - ベンジルオキシ - 3, 4 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - オール（これは、Wu他、Carbohydr. Res., 1998, 306, 493に従って調製された；10.5 g、26.6 mmol）、N - ヒドロキシスクシンイミド（5.0 g、50 mmol）及びTsoH（250 mg、触媒）をベンゼン（100 mL）に溶解した溶液を、ディーン・スターク型トラップを使用して H₂O を除きながら、24時間にわたって加熱還流した。褐色の溶液を冷却し、ろ過し、飽和 NaHCO₃ 溶液により洗浄し、濃縮した。ガム状オイルを、70:30 のヘキサン（hexanes） - アセトンにより溶出するシリカゲルクロマトグラフィーによって精製した。その後、純粋なO - スクシンイミド（7.5 g、14.5 mmol）を500 mLのParra水素化装置に移し、Pd(OH)₂ / C（0.95 g）を EtOH（75 mL）において使用して脱ベンジル化した。その後、溶液（この溶液は19ポンド/平方インチ（ps

40

50

i) の水素を 24 時間にわたって取り込んだ) をろ過し、濃縮し、これにより、固体残渣が残り、この固体残渣を EtOH から再結晶して、白色の固体を得た (3.25 g)。

【0047】

表 2 に列挙される O - スクシンイミジルピラノース中間体を、より以前に記載され、また、実施例 5 及び実施例 6 において例示される経路によって調製した。

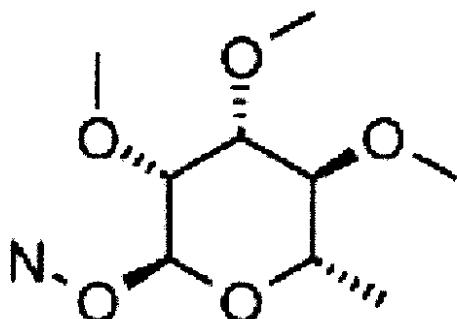
【0048】

2 - ヒドロキシルアミノピラノース中間体を対応する O - スクシンイミドイルピラノース中間体から調製する一例が次に記載される。

【0049】

実施例 7 : O - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 4, 5 - トリメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) ヒドロキシルアミン (化合物 E - 30) の調製

【化13】



10

20

2, 3, 4 - トリ - O - メチル - N - スクシンイミジルラムノース誘導体 E - 23 (0.50 g、1.65 mmol) (これは実施例 5 に従って調製された) を無水 EtOH (5 mL) に溶解し、過剰なヒドラジン水和物 (0.4 g、8 mmol) により処理した。溶液を周囲温度で 60 分間 (min) 換拌した。そのとき、多量の白色の沈殿物が形成された。さらなる EtOH (5 mL) を加え、溶液を周囲温度で一晩換拌した。溶液をろ過し、濃縮し、その後、クロマトグラフィー (100% EtOH) によって精製して、26.5 mg (74% の収率) の標記ヒドロキシルアミンを結晶性固体として得た。

30

【0050】

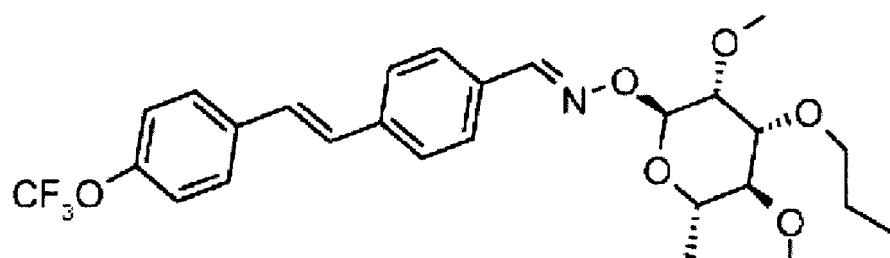
表 3 におけるピラノース中間体を、より以前に記載され、また、実施例 7 において例示されるような経路によって調製した。

【0051】

実施例 8 : 4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメトキシフェニル) ピニル] ベンズアルデヒド O - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - 4 - プロポキシ - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 1) の調製

【化14】

40



50

工程 1 . 4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメトキシフェニル) ビニル] ベンゾニトリル。窒素フラッシュされた丸底フラスコに、三塩基性リン酸カリウム (617 mg, 2.9 mmol) を、ジメチルアセトアミド (DMA ; 2 mL) 、 4 - トリフルオロメトキシプロモベンゼン (500 mg, 2.1 mmol) 及び 4 - シアノビニルベンゼン (322 mg, 2.5 mmol) において加え、続いて、酢酸パラジウム (23 mg, 5 mol %) を加えた。溶液を 12 時間にわたって攪拌とともに 140 °C に加熱した。その後、溶液を室温に冷却し、H₂O に注ぎ、EtOAc により抽出し、ブラインにより洗浄した。一緒にした有機層を MgSO₄ で乾燥し、ろ過し、濃縮した。粗物質をカラムクロマトグラフィー (ヘキサン (hexanes) における EtOAc, 0 ~ 75 %) によって精製して、黄色の固体を得た (543 mg, 90 %)。この固体はガスクロマトグラフィー / 質量スペクトル (GC - MS) 分析によって純粋であった。この物質を、さらに精製することなく、次の反応においてそのまま使用した。

10

【 0052 】

工程 2 . 4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメトキシフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド。シアノジフェニルスチレン (543 mg, 1.88 mmol) を乾燥 CH₂C_l₂ (10 mL) に溶解し、ドライアイス / アセトン浴で -78 °C に冷却した。この溶液に、ヘキサン (hexanes) におけるジイソブチルアルミニウムヒドリド (3.7 mL, 3.7 mmol) を滴下により加えた。反応液を、室温に加温しながら 4 時間にわたって攪拌した。所望されるアルデヒドが、GC - MS によって、もっぱら形成された。水及びメタノールを反応混合物に加えた。これにより、発泡し、ゲルが形成された。この不均一な混合物を CH₂C_l₂ により希釈し、Biotage 相分離器フリットでろ過した。有機層を集め、濃縮して、黄色の固体を得た (450 mg, 81 %)。これは GC - MS によって純粋な生成物であった。この生成物を、さらに精製することなく、次の反応においてそのまま使用した。

20

【 0053 】

工程 3 . 4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメトキシフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - 4 - プロポキシ - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム。工程 1 で調製されたアルデヒド (0.1 g, 0.3 mmol) 及び化合物 E - 32 (0.3 mmol) を無水 EtOH (10 mL) に溶解し、溶液を、一晩、攪拌とともに 40 °C に加熱した。その後、水 (5 mL) を、冷却された溶液に加えた。これにより、白色の沈殿物が形成された。溶液を、H₂O (5 mL) と、EtOAc (5 mL, 3 回) との間で分配し、一緒にした有機層を MgSO₄ で乾燥し、ろ過し、濃縮して、暗黄色の固体を得た。順相カラムクロマトグラフィー (EtOAc - ヘキサン (hexanes) のグラジェント) による精製により、所望の生成物 (72 mg, 40 %) を明黄色の固体として得た : mp, 124 ~ 132 °C ; ¹H NMR (300 MHz, CDCl₃) δ 8.13 (s, 1H), 7.63 (d, J = 9.0 Hz, 2H), 7.54 (m, 4H), 7.21 (d, J = 9.0 Hz, 2H), 7.11 (d, J = 9.0 Hz, 2H), 5.63 (s, 1H), 3.71 (m, 1H), 3.70-3.50 (m, 4H), 3.59 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 3.20 (t, J = 9.0 Hz, 1H), 1.68 (m, 2H), 1.31 (d, J = 6.0 Hz, 3H), 0.98 (t, J = 7.6 Hz, 3H); ESIMS m/z 524 ([M+H]⁺)

30

【 0054 】

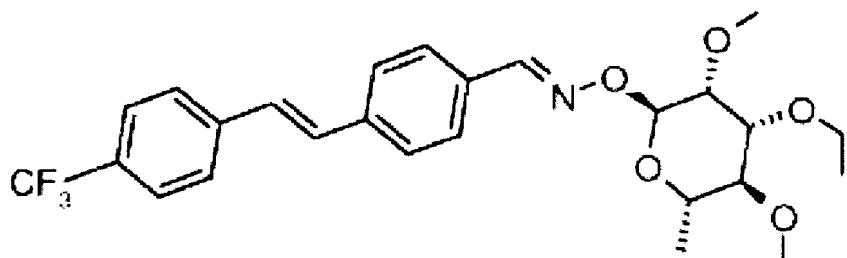
下記の化合物を、実施例 8 において概略が示される条件を使用して調製した。

40

【 0055 】

4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメチルフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 4 - エトキシ - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 2)

【化15】



10

オキシム形成により、60%の収率で、黄褐色の固体を得た：mp、150～153

;

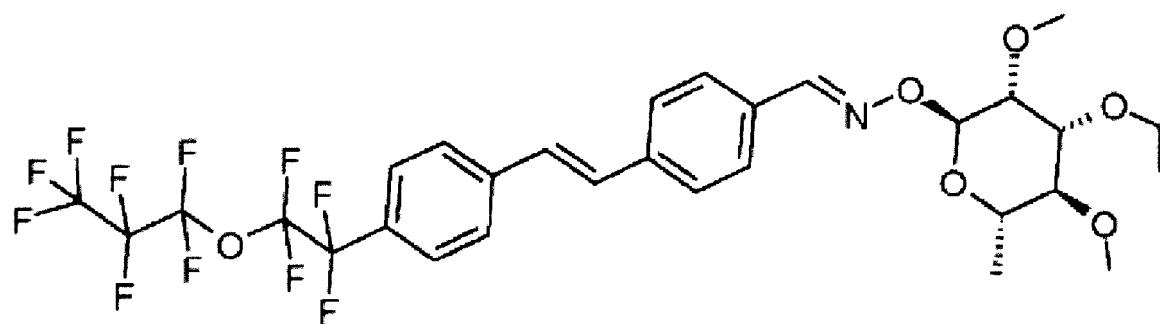
¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.41 (s, 1H), 7.84 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 7.75-7.67 (m, 6H), 7.46 (s, 2H), 5.49 (d, J = 2.0 Hz, 1H), 3.73-3.66 (br s, 2H), 3.56-3.47 (m, 3H), 3.45 (s, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.04 (t, J = 10.0 Hz, 1H), 1.17 (m, 6H); ESI MS m/z 494 ([M+H]⁺).

【0056】

4 - { (E) - 2 - [4 - (1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロ - 2 - ヘプタフルオロブロピルオキシ - エチル) フェニル] ビニル } ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - エトキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 3)

20

【化16】



30

オキシム形成により、84%の収率で、明黄色のオイルを得た：

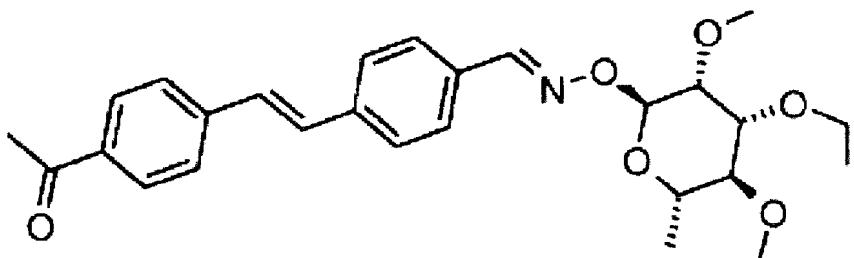
¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.40 (s, 1H), 7.68 (m, 4H), 7.50 (m, 3H), 7.40 (d, J = 4.0 Hz, 1H), 7.15 (d, J = 8.0 Hz, 1H), 5.48 (s, 1H), 3.74 (m, 1H), 3.67 (m, 1H), 3.55-3.46 (m, 4H), 3.45 (s, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.04 (t, J = 9.2 Hz, 1H), 1.17 (m, 6H); ESIMS m/z 707 ([M-H]⁻).

【0057】

4 - [(E) - 2 - (4 - アセチル - フェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - エトキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 4)

40

【化17】



10

オキシム形成により、56%の収率で、黄褐色の固体を得た：mp、164～167

；

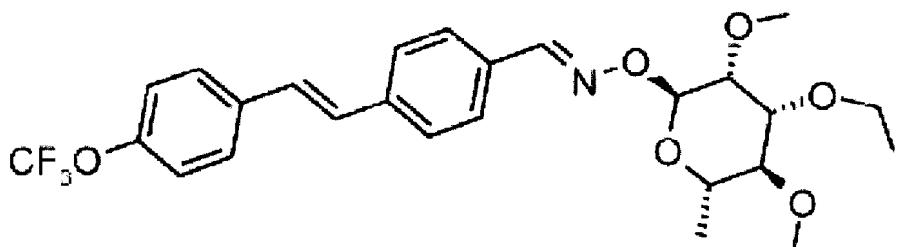
¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.41 (s, 1H), 7.97 (d, J = 8.0 Hz, 2H), 7.77 (d, J = 8.0 Hz, 2H), 7.72 (d, J = 8.0 Hz, 2H), 7.68 (d, J = 8.3 Hz, 2H), 7.45 (s, 2H), 5.48 (s, 1H), 3.86 (s, 3H), 3.74 (br s, 1H), 3.73-3.66 (m, 1H), 3.54-3.46 (m, 3H), 3.45 (s, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.04 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.17 (m, 6H); ESIMS m/z 485 ([M+H₂O]⁺).

【0058】

4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメトキシフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - エトキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 5)

20

【化18】



30

オキシム形成により、24%の収率で、明黄色の固体を得た：mp、91～101

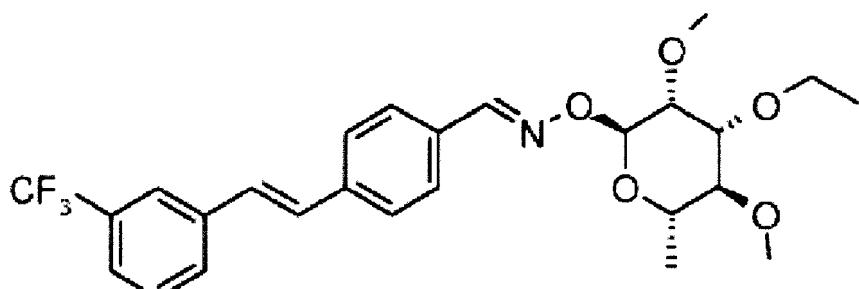
¹H NMR (300 MHz, CDCl₃)：δ 8.13 (s, 1H), 7.63 (d, J = 9.0 Hz, 2H), 7.55-7.51 (m, 3H), 7.23-7.17 (m, 3H), 7.11 (d, J = 9.0 Hz, 2H), 5.64 (d, J = 3.0 Hz, 1H), 3.79-3.60 (m, 5H), 3.59 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 3.20 (t, J = 9.0 Hz, 1H), 1.32-1.24 (m, 6H); ESIMS m/z 532 ([M+Na]⁺).

【0059】

4 - [(E) - 2 - (3 - トリフルオロメチルフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - エトキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 6)

40

【化19】



50

オキシム形成により、62%の収率で、褐色のオイルを得た：

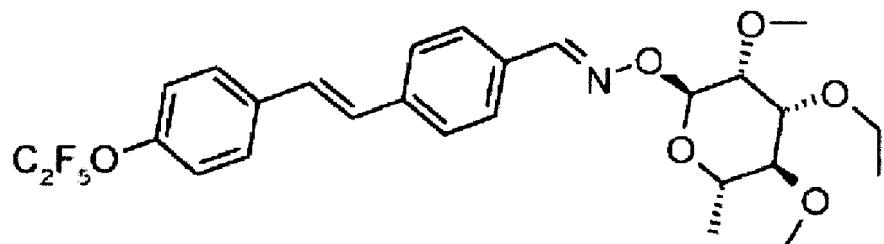
¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.40 (s, 1H), 7.99 (s, 1H), 7.94 (br s, 1H), 7.72-7.63 (m, 6H), 7.47 (s, 2H), 5.48 (s, 1H), 3.74 (m, 1H), 3.73-3.68 (m, 1H), 3.54-3.47 (m, 3H), 3.45 (s, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.04 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.17 (m, 6H); ESIMS m/z 494 ([M+H]⁺).

【0060】

4 - [(E) - 2 - (4 - ペンタフルオロエチルオキシフェニル) ビニル] ベンズアルデヒドO - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 4 - エトキシ - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物7)

10

【化20】



20

オキシム形成により、7mg(6%)の明黄色のガラスを得た：

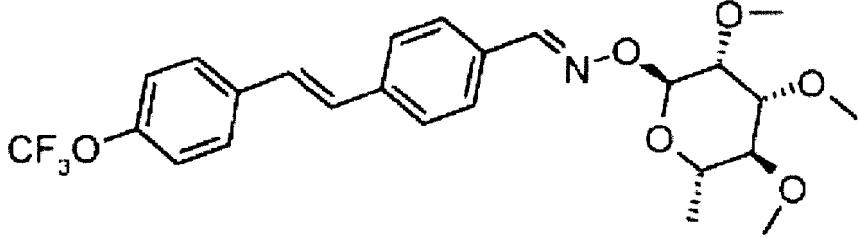
¹H NMR (300 MHz, CDCl₃) δ 8.13 (s, 1H), 7.63 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 7.56-7.51 (m, 5H), 7.24 (d, J = 4.5 Hz, 2H), 7.11 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 5.63 (d, J = 1.8 Hz, 1H), 3.79-3.60 (m, 5H), 3.59 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 1.32-1.25 (m, 6H); ESIMS m/z 582 ([M+H]⁺).

【0061】

4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメチルオキシフェニル) ビニル] ベンズアルデヒドO - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 4, 5 - トリメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物8)

30

【化21】



オキシム形成により、37mg(30%)の白色の固体を得た：mp、120~128

40

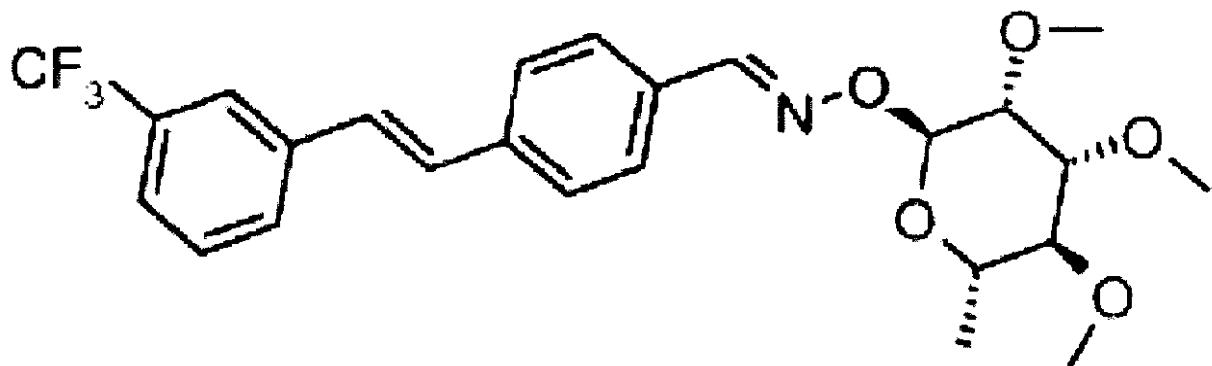
;

¹H NMR (400 MHz, CDCl₃) δ 8.40 (s, 1H), 7.75 (d, J=8.0 Hz, 2H), 7.68-7.65 (m, 4H), 7.42-7.30 (m, 4H), 5.50 (s, 1H), 3.80-3.79 (m, 1H), 3.56-3.52 (m, 1H), 3.43 (s, 3H), 3.42 (s, 3H), 3.40-3.37 (m, 1H), 3.38 (s, 3H), 3.05 (t, J=8.0 Hz, 1H), 1.17 (d, 3H, J = 4.0 Hz). ESIMS m/z 496 ([M+H]⁺)

【0062】

4 - [(E) - 2 - (3 - トリフルオロメチルフェニル) ビニル] ベンズアルデヒドO - ((2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 4, 5 - トリメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物9)

【化22】



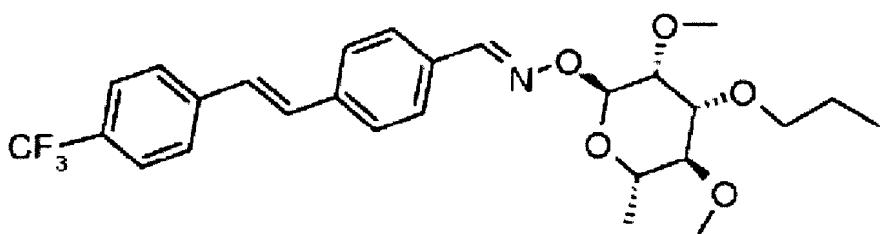
この物質 (6.5 mg、50%) を透明なガラスとして単離した：

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.40 (s, 1H), 7.98 (s, 1H), 7.72 (br s, 1H), 7.70 (dd, J = 12.0, 8.0 Hz, 4H), 7.64 (br s, 2H), 7.48 (s, 2H), 5.51 (br s, 1H), 3.56-3.43 (m, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.42 (s, 3H), 3.38 (s, 3H), 3.05 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.17 (d, J = 4.0 Hz, 3H); ESIMS m/z 480 ([M+H]⁺).

【0063】

4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメチルフェニル) ビニル] ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - プロポキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 10)

【化23】



この物質 (2.10 mg、77%) を無色の固体として単離した：mp、163 ~ 166 °C;

¹H NMR (300 MHz, CDCl₃) δ 8.16 (s, 1H), 7.66 (d, J = 8 Hz, 2H), 7.63 (s, 4H), 7.56 (d, J = 8 Hz, 2H), 7.2 (s, 2H), 5.66 (s, 1H), 3.73 - 3.57 (m, 10H), 3.23 (t, J = 9 Hz, 1H), 1.71 (m, 2H), 1.33 (d, J = 6 Hz, 2H), 1.0 (t, J = 7.5 Hz, 3H)

【0064】

4 - { (E) - 2 - [4 - (2 , 2 , 2 - トリフルオロメチル - エチル) フェニル] ビニル } ベンズアルデヒド O - ((2 S , 3 R , 4 R , 5 S , 6 S) - 4 - エトキシ - 3 , 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル) オキシム (化合物 11)

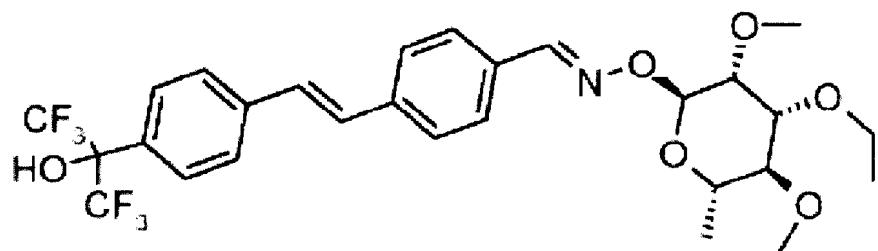
10

20

30

40

【化24】



10

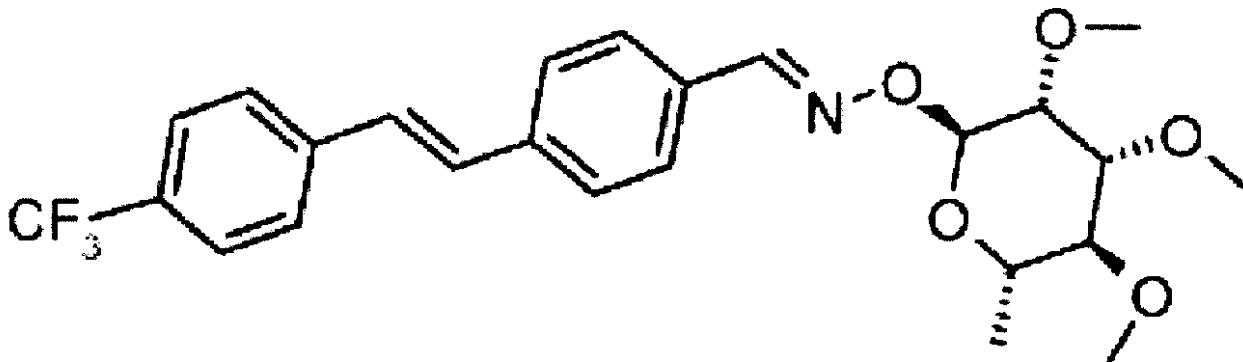
この物質(250mg、86%)を黄色のガムとして単離した：

¹H NMR (300 MHz, CDCl₃) δ 8.16 (s, 1H), 7.74 (d, J = 8 Hz, 2H), 7.65-7.45 (m, 6H), 7.15 (s, 2H), 5.62 (d, J = 1.4 Hz, 1H), 4.67 (s, 1H), 4.8-4.5 (m, 11H), 3.22 (t, J = 8 Hz, 1H), 1.35-1.2 (m, 6H); ESIMS m/z 614 ([M+Na]⁺).

【0065】

4-[((E)-2-(4-トリフルオロメチルフェニル)ビニル]ベンズアルデヒドO-((2S,3R,4R,5S,6S)-3,4,5-トリメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イル)オキシム(化合物12)

【化25】



20

30

この物質(95mg、56%)を白色の固体として単離した：mp、147~151

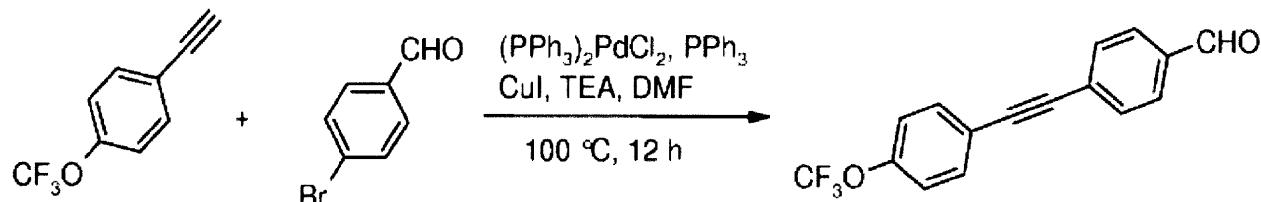
;

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.42 (s, 1H), 7.85 (d, J = 8.0 Hz, 2H), 7.76-7.67 (m, 6H), 7.47 (s, 2H), 5.52 (d, J = 4.0 Hz, 1H), 3.80 (t, J = 4.0 Hz, 1H), 3.56-3.51 (m, 1H), 3.43 (s, 3H), 3.42 (s, 3H), 3.41-3.39 (m, 1H), 3.38 (s, 3H), 3.04 (t, J=8.0 Hz, 1H), 1.17 (d, J = 4.0 Hz, 3H).

【0066】

実施例9：プロモベンゼンへのアルキンカップリングのための一般的手順

【化26】



40

アルキン(0.5g、2.7mmol)、プロモベンズアルデヒド(0.45g、2.4mmol)、Pd触媒(0.04g、0.06mmol)、CuI(0.02g、0.

50

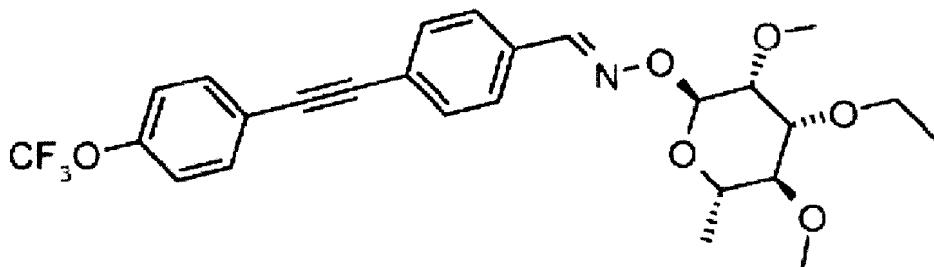
1.2 mmol)、トリフェニルホスフィン(0.03 g、0.12 mmol)及びトリエチルアミン(3.5 mL)を1.5 mLの無水DMFにおいて一緒にした。溶液を、合計で12時間にわたって窒素雰囲気下での搅拌とともに100℃に加熱した。その後、溶液を室温に冷却し、セライトでろ過し、褐色の固体にまで濃縮した。この固体を順相カラムクロマトグラフィー(ヘキサン(hexanes)におけるEtOAc)によって精製して、ジアリール化アセチレンを得た(512 mg、65%)。これを、さらに特徴づけることなく、そのまま使用した。

【0067】

実施例10：4-(4-トリフルオロメトキシフェニルエチニル)ベンズアルデヒドO-((2S,3R,4R,5S,6S)-4-エトキシ-3,5-ジメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イル)オキシム(化合物13)の調製

10

【化27】



20

EtOH(10 mL)におけるアルデヒド(0.12 g、0.42 mmol)をヒドロキシリルアミン中間体E-31(0.10 g、0.42 mmol)により処理し、溶液を搅拌とともに50℃に加熱した。反応が(LC-MS分析によって)完了したとき、溶液を室温に冷却し、H₂Oにより希釈し、EtOAcにより抽出した(10 mL、3回)。一緒にした有機層をMgSO₄で乾燥し、ろ過し、濃縮して、黄色の固体を得た。この固体を順相カラムクロマトグラフィー(ヘキサン(hexanes)におけるEtOAc)によって精製した。所望の生成物(120 mg、56%)を粘着性の黄色の固体として単離した:mp、82~87℃;

30

¹H NMR(300 MHz, CDCl₃) δ 8.13(s, 1H), 7.63(d, J = 9.0 Hz, 2H), 7.55(m, 4H), 7.21(d, J = 9.0 Hz, 2H), 5.63(s, 1H), 3.75-3.60(m, 5H), 3.59(s, 3H), 3.55(s, 3H), 3.19(t, J = 9.0 Hz, 1H), 1.32-1.27(m, 6H); ESIMS m/z 509 ([M+H]⁺).

【0068】

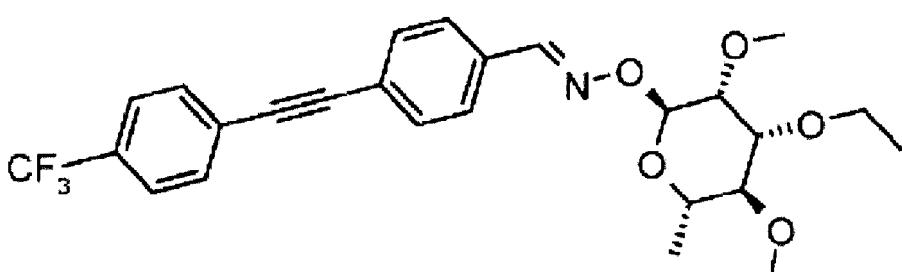
下記の化合物を、実施例9及び実施例10において概略が示される条件を使用して調製した。

【0069】

4-(4-トリフルオロメチルフェニルエチニル)ベンズアルデヒドO-((2S,3R,4R,5S,6S)-4-エトキシ-3,5-ジメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イル)オキシム(化合物14)

40

【化28】



50

生成物を灰白色の固体として単離した (137 mg、76%) : mp、130~132

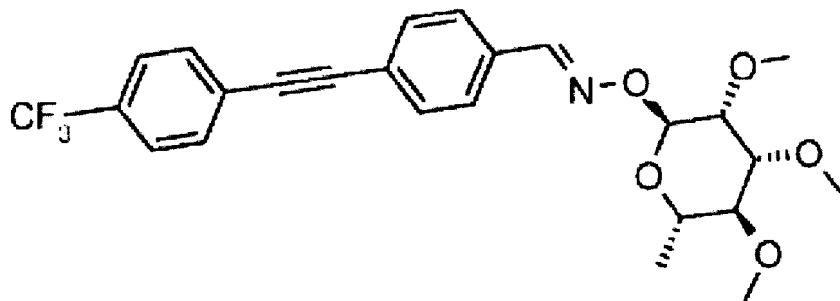
;

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆) δ 8.46 (s, 1H), 7.81 (s, 4H), 7.73 (d, J = 8 Hz, 2H), 7.70 (d, J = 8 Hz, 2H), 5.49 (s, 1H), 3.75 (br s, 1H), 3.52 (m, 1H), 3.51-3.46 (m, 3H), 3.45 (s, 3H), 3.43 (s, 3H), 3.04 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.19-1.15 (m, 6H); ESIMS m/z 492 ([M+H]⁺).

【0070】

4 - (4 - トリフルオロメチルフェニルエチニル)ベンズアルデヒドO - ((3R, 4R, 5S, 6S) - 3, 4, 5 - トリメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イル)オキシム (化合物15)

【化29】



10

20

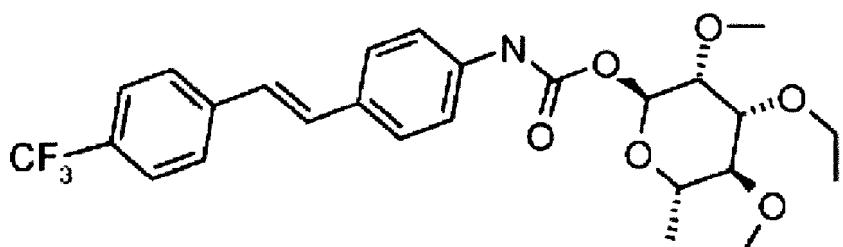
生成物 (78 mg、84%) を白色の固体として単離した : mp、128~136
; ¹H NMR (400 MHz, CDCl₃) δ 8.14 (s, 1H), 7.65-7.63 (m, 6H), 7.56 (d, J = 8.0 Hz, 2H), 5.65 (s, 1H), 3.76-3.75 (m, 1H), 3.68-3.64 (m, 1H), 3.58 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 3.54 (s, 3H), 3.51-3.49 (m, 1H), 3.20 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.32 (d, J = 4.0 Hz, 3H); ESIMS m/z 500 ([M+Na]⁺).

【0071】

実施例11 : {4 - [(E) - 2 - (4 - トリフルオロメチルフェニル)ビニル]フェニル}カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 4 - エトキシ - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イルエステル (化合物16) の調製

30

【化30】



40

40

4 - (4 - トリフルオロメチルフェニルビニル)フェニルアミン (25 mg、0.095 mmol) を乾燥 THF (4 mL) に溶解した溶液に、4 - ニトロフェニルクロロホルマート (19 mg、0.095 mmol) を加えた。溶液を窒素下で 1 時間にわたって攪拌し、その後、ラムノピラノース (化合物E-8; 20 mg、0.095 mmol) を加え、続いて、粉末化 KOH (25 mg、0.4 mmol) を加えた。溶液を周囲温度で 4 時間にわたって攪拌し、その後、Et₂O (25 mL) により希釈し、H₂O により洗浄し、MgSO₄ で乾燥し、濃縮した。赤色の粗オイルをシリカゲルクロマトグラフィーによって精製して、化合物16を得た：

¹H NMR (300 MHz, CDCl₃): δ 7.61 (s, 4H), 7.52 (d, J = 8 Hz, 2H), 7.47 (d, J = 8

50

Hz, 2H), 7.2 (d, J = 15 Hz, 1H), 7.05 (d, J = 15 Hz, 1H), 6.74 (s, 1H), 6.2 (d, J = 1.5 Hz, 1H), 3.8-3.5 (m, 11H), 3.23 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.33-1.25 (m, 6H); ESIMS m/z 531 ([M+Na]⁺).

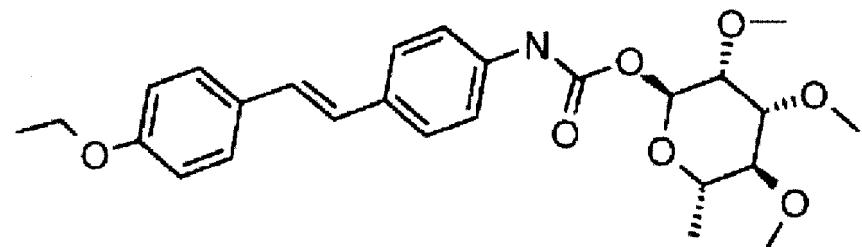
【0072】

下記の化合物を、実施例 1-1 に記載される条件を使用して調製した。

【0073】

{4-[(E)-2-(4-エトキシフェニル)ビニル]フェニル}カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S)-3,4,5-トリメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イルエステル (化合物 17)

【化31】



10

この物質 (6.8 mg、40%) を黄色の泡状物として単離した：

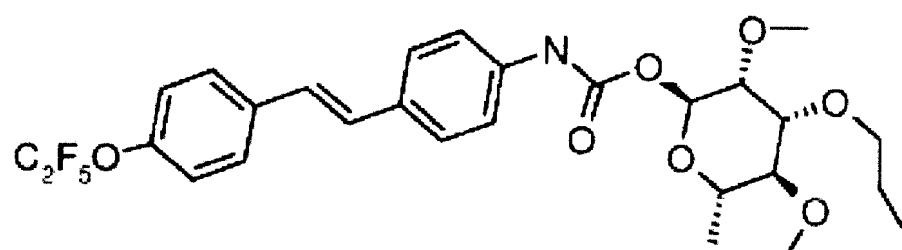
20

¹H NMR (300 MHz, CDCl₃) δ 7.38-7.22 (m, 8H), 6.84 (d, J = 8.24 Hz, 2H), 6.64 (s, 1H), 5.65 (s, 1H), 4.06 (q, J = 7.24 Hz, 2H), 3.76-3.75 (m, 1H), 3.68-3.64 (m, 1H), 3.58 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 3.54 (s, 3H), 3.51-3.49 (m, 1H), 3.20 (t, J = 8.0 Hz, 1H), 1.38-1.28 (m, 6H); ESI m/z 485 ([M]⁺).

【0074】

{4-[(E)-2-(4-ペンタフルオロエチルオキシフェニル)ビニル]フェニル}カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S)-4-プロポキシ-3,5-ジメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イルエステル (化合物 18)

【化32】



30

この物質 (1.8 mg、12%) をガム状の固体として単離した：

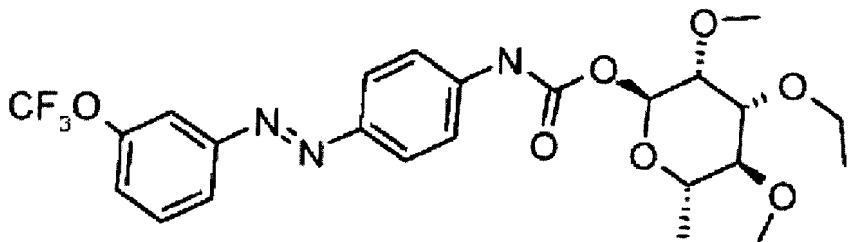
¹H NMR (300 MHz, CDCl₃): δ 7.5-7.45 (m, 6H), 7.21 (d, J = 8.4 Hz, 2H), 7.05 (s, 2H), 6.91 (s, 1H), 5.27 (br s, 1H), 3.8 (m, 1H), 3.69-3.50 (m, 10H), 3.23 (t, J = 8 Hz, 1H), 1.69 (m, 2H), 1.3 (d, J = 6 Hz, 3H), 0.98 (t, J = 7.5 Hz, 3H); ESIMS m/z 591 ([M+H]⁺).

40

【0075】

実施例 1-2 : [4-(3-トリフルオロメトキシフェニルアゾ)フェニル]カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S)-3,5-ジメトキシ-4-エトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イルエステル (化合物 19) の調製

【化33】



10

工程1.4-(3-トリフルオロメトキシフェニルアゾ)アニリン。3-トリフルオロメトキシアニリン(2.0g、11mmol)をCH₂C₁₂(20mL)に溶解し、H₂O(20mL)においてOxone(商標)の混合物(11g、18mmol)により処理し、溶液を25℃で20時間にわたって攪拌した。有機相を分離し、水相をCH₂C₁₂により抽出し(20mL、2回)、一緒にした有機相を乾燥し(Na₂SO₄)、エバボレーションした。粗ニトロソ化合物を酢酸(40mL)に溶解し、p-フェニレンジアミン(2.0g、19mmol)により処理し、60時間にわたって攪拌した。揮発物を真空下で除き、残渣を0%~20%のEtOAc/ヘキサンによるシリカゲルクロマトグラフィーによって精製して、標記アゾアニリン(900mg、27%)をオレンジ色のオイルとして得た：

20

¹H NMR(300MHz, CDCl₃): δ 7.77-7.84(m, 3H), 7.71(s, 1H), 7.46-7.52(m, 1H), 7.22-7.26(m, 1H), 6.71-6.75(m, 2H), 4.12(br s, 2H); ESIMS m/z 282 ([M+H]⁺).

【0076】

工程2. 化合物19。4-(3-トリフルオロメトキシフェニルアゾ)アニリン(200mg、0.71mmol)を無水THF(5mL)に溶解し、4-ニトロフェニルクロロホルマート(170mg、0.82mmol)により処理し、25℃で1時間にわたって攪拌した。(3R, 4R, 5S, 6S)-4-エトキシ-3, 5-ジメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-オール(175mg、0.78mmol)及び95%水素化ナトリウム(NaH; 35mg、2.1mmol)を加え、混合物を2時間にわたって攪拌した。H₂O(20μL、1mmol)を加え、攪拌を1時間にわたって続けた。混合物をH₂O(10mL)及びEtOAc(15mL)により希釈した。分離された有機相をH₂O(5mL)及びブライン(5mL)により洗浄し、乾燥し(Na₂SO₄)、濃縮した。残渣を0%~30%のEtOAc/ヘキサンによるシリカゲルクロマトグラフィーによって精製して、表題化合物(220mg、59%)をオイルとして得た：

30

¹H NMR(400MHz, CDCl₃): δ 7.87-7.97(m, 3H), 7.77(s, 1H), 7.54-7.57(m, 4H), 6.94(s, 1H), 6.22(s, 1H), 3.56-3.78(m, 11H), 3.24(t, J = 9.2 Hz, 1H), 1.28-1.36(m, 6H); ESIMS m/z 528 ([M+H]⁺).

【0077】

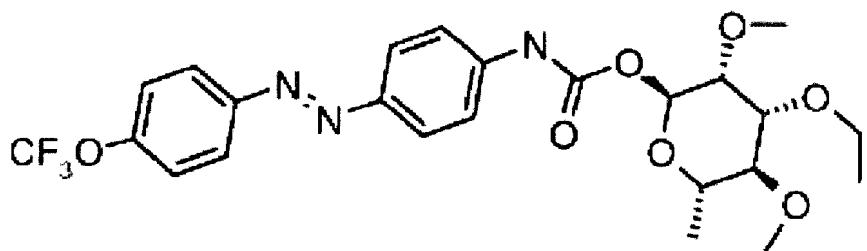
下記の化合物を、実施例12に記載される条件を使用して調製した。

40

【0078】

[4-(4-トリフルオロメトキシフェニルアゾ)フェニル]カルバミン酸(2S, 3R, 4R, 5S, 6S)-4-エトキシ-3, 5-ジメトキシ-6-メチル-テトラヒドロピラン-2-イルエステル(化合物20)

【化34】



10

工程1. 4 - (4 - トリフルオロメチオキシ (methyoxy) フェニルアゾ) アニリン。

¹H NMR (300MHz, CDCl₃): d 7.79-7.83 (m, 4H), 7.25-7.33 (m, 2H), 6.72-6.75 (m, 2H), 4.09 (br s, 2H); ESIMS m/z 282 (M+H).

工程2. 化合物20。mp、158~159；

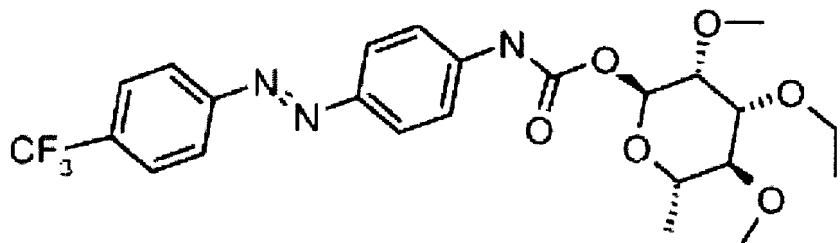
¹H NMR (400 MHz, CDCl₃) d 7.95-7.92 (m, 4H), 7.59-7.57 (d, J = 8.6Hz, 2H), 7.34 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 6.86 (s, 1H), 6.21 (s, 1H), 3.8-3.5 (m, 11H), 3.22 (t, J = 9.4 Hz, 1H), 1.35-1.25 (m, 6H); ESIMS m/z 528 ([M+H]⁺).

【0079】

[4 - (4 - トリフルオロメチルフェニルアゾ) フェニル] カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 4 - エトキシ - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イルエステル (化合物21)

20

【化35】



30

工程1. 4 - (4 - トリフルオロメチルフェニルアゾ) アニリン。

¹H NMR (CDCl₃, 300MHz): d 7.81-7.91 (m, 4H), 7.72 (d, J= 8.2 Hz, 2H), 6.71-6.75 (m, 2H), 4.12 (br s, 2H); ESIMS m/z 266 ([M+H]⁺).

【0080】

工程2. 化合物21。mp、186~188；

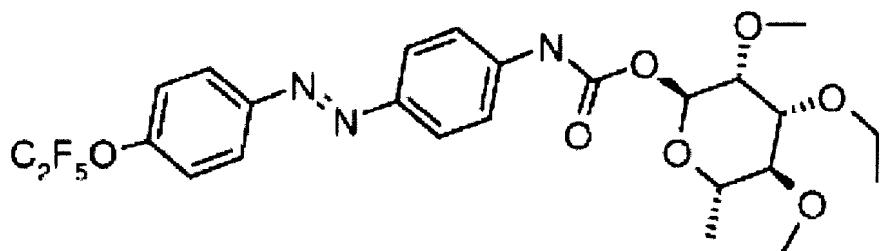
¹H NMR (400 MHz, CDCl₃) d 7.89-8.2 (m, 4H), 7.77 (d, J= 8.3 Hz, 2H), 7.60 (d, J = 8.6 Hz, 2H), 6.91 (s, 1H), 6.21(s, 1H), 3.77-3.57 (m, 11H), 3.22 (t, J = 9.4 Hz, 1H), 1.34-1.28 (m, 6H); ESIMS m/z 512 ([M+H]⁺).

40

【0081】

[4 - (4 - ペンタフルオロエチルオキシフェニルアゾ) フェニル] カルバミン酸 (2S, 3R, 4R, 5S, 6S) - 4 - エトキシ - 3, 5 - ジメトキシ - 6 - メチル - テトラヒドロピラン - 2 - イルエステル (化合物22)

【化36】



10

工程 1 . 4 - (4 - ペンタフルオロエトキシフェニルアゾ) アニリン。

^1H NMR (CDCl_3 , 300MHz) δ 7.79-7.89 (m, 4H), 7.32 (d, $J = 8.5$ Hz, 2H), 6.73-6.76 (m, 2H), 4.09 (br s, 2H); ESIMS m/z 332 ($[\text{M}+\text{H}]^+$).

【0082】

工程 2 . 化合物 2 2 。

^1H NMR (300 MHz, CDCl_3) δ 7.96-7.92 (m, 4H), 7.60-7.57 (m, 2H), 7.38-7.35 (m, 2H), 6.86 (s, 1H), 6.26 (s, 1H), 3.75-3.45 (m, 11H), 3.22 (t, $J = 9.3$ Hz, 1H), 1.33-1.26 (m, 6H); ESIMS m/z 578 ($[\text{M}+\text{H}]^+$).

【0083】

化合物の試験

20

シロイチモンジヨトウ (B A W ; *Spodoptera exigua* : 鱗翅目) に対するバイオアッセイを、96 ウエル・マイクロタイター・プレートに基づくハイスループット (H T S) バイオアッセイ、又は、128 ウエルの餌トレーアッセイのどちらかを使用して行った。 H T S アッセイは、L e w e r 他、J. Nat. Prod.、2006、69、1506 の改変に基づく。 B A W の卵を 96 ウエル・マイクロタイター・プレートの各ウエルにおいて人工餌 ($100 \mu \text{L}$) の上部に置いた。餌は、液体取り扱いシステムを使用して餌の上部に重層され、その後、数時間乾燥させられた試験化合物 ($30 \mu \text{L}$ の D M S O - アセトン - H_2O 混合物に溶解された $12 \mu \text{g}$) により前処理された。その後、寄生させたプレートを無菌の精製綿の層及びプレートのふたで覆い、その後、29 で暗所において保った。死亡数を処理後 6 日で記録した。それぞれのプレートが 6 つの反復実験を有した。死亡率を 6 つの反復実験の平均から計算した。128 ウエル餌アッセイの場合には、3 匹 ~ 5 匹の第 2 齢の B A W 幼虫が、 $50 \mu \text{g} / \text{cm}^2$ の試験化合物 (90 : 10 のアセトン - 水の混合物の $50 \mu \text{L}$ に溶解された) が (8 個のウエルのそれぞれに) 加えられ、その後、乾燥させられた 1mL の人工餌で事前に満たされた餌トレーの各ウエル (3mL) に置かれた。トレーを透明な粘着性カバーで覆い、6 日間にわたって 14 : 10 の明暗で、25 で保った。死亡率をそれぞれのウエルにおける幼虫について記録した：その後、8 個のウエルにおける活性を平均化した。結果が表 4 に示される。表 4 において、B A W H T S の項目欄及び B A W 50 の項目欄の両方において、「A」は、化合物が試験され、少なくとも 50 パーセントの死亡が観測されたことを意味し、これに対して、「B」は、(1) 化合物が試験され、50 パーセント未満の死亡が観測されたか、又は、(2) 化合物が試験されなかったかのどちらかを意味する。

30

40

【表 1】

#	A	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	bp	^1H NMR (CDCl_3 , δ)
—般式									
E-1	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L		150 °C (0.5 mm Hg)	5.28 (m, 1H), 3.85 (m, 1H), 3.66 (m, 1H), 3.60-3.50 (m, 1H), 3.58 (s, 3H), 3.53 (s, 6H), 3.37 (s, 3H), 3.16 (t, 1H), 1.31 (d, J = 6.2 Hz, 3H)	
E-2	OH	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L	145-155 °C (1 mm Hg)	5.28 (s, 1H), 3.83 (m, 1H), 3.7-3.45 (m, 1H), 3.16 (t, J = 9.2 Hz, 1H), 3.0 (s, 1H), 1.31 (d, J = 6 Hz, 3H)	
E-3	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L	202.9 (M-MeOH) (10 mTorr)	4.71 (d, J = 1.8 Hz, 1H), 3.77-3.50 (m, 1H), 3.37 (s, 3H), 3.13 (t, J = 9.4 Hz, 1H), 1.32 (d, J = 6.3 Hz, 3H), 1.27 (t, J = 7.0 Hz, 3H)	
E-4	OC ₂ H ₅	OC ₂ H ₅	OC ₂ H ₅	OC ₂ H ₅	CH ₃	L- β -D- α -L	299.1 (M+Na) (10 mTorr)	180 °C (series of m, 10H), 3.2 (m, 2H), 1.3-1.1 (m, 15H)	
E-5	OCH ₃	OCH ₃	OC ₂ H ₇	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L	175 °C (10 mTorr)	4.70 (d, J = 1.8 Hz, 1H), 3.77-3.50 (m, 1H), 3.37 (s, 3H), 3.13 (t, J = 9.4 Hz, 1H), 1.62 (m, 2H), 1.32 (d, J = 6.3 Hz, 3H), 0.98 (t, J = 7.5 Hz, 3H)	

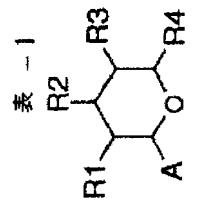
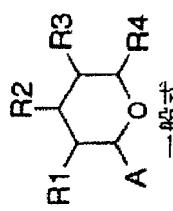
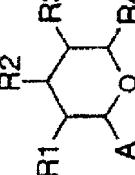


表 - 1



#	A	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	bp	^1H NMR (CDCl_3 , δ)
E-6	OCH_3	OCH_3	O-allyl	OCH_3	CH_3	L- β -ムノ- γ -ヌ		175 °C (10 mTorr)	5.98 (m, 1H), 5.32 (d, 1H), 5.20 (d, 1H), 4.50 (s, 1H), 4.18 (d, 2H), 3.62-3.50 (m, 9H), 3.28 (s, 3H), 3.17 (t, $J = 6.3$ Hz, 1H), 1.33 (d, $J = 6.3$ Hz, 3H)
E-7	OCH_3	OCH_3	OC_4H_9	OCH_3	CH_3	L- β -ムノ- γ -ヌ		165 °C (5 mTorr)	4.71 (s, 1H), 3.62-3.50 (m, 11H), 3.35 (s, 3H), 3.17 (t, 1H), 1.6 (m, 2H), 1.4 (m, 2H), 1.33 (t, $J = 6.3$ Hz, 3H), 0.98 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)
E-8	OH	OCH_3	OC_2H_5	OCH_3	CH_3	L- β -ムノ- γ -ヌ	202.9 (M- H_2O)	165 °C (9 mTorr)	5.35 (m, $J = 3.2$, 2.0 Hz, 1H), 3.84-3.62 (m, 5H), 3.59 (s, 3H), 3.53 (s, 3H), 3.16 (t, $J = 9.5$ Hz, 1H), 2.73 (d, $J = 3.4$ Hz, 1H), 1.33-1.26 (m, 6H)
E-9	OH	OC_2H_5	OC_2H_5	OC_2H_5	CH_3	L- β -ムノ- γ -ヌ	248.2 (M+)	203 °C (5 mTorr)	5.2 (s) and 4.65 (dd, $J = 1.2$, 9 Hz, α -ラ-ブロ-シジガナル, 合計 ^1H ピーク 64.36 α : β :4.10-3.45 (m, 8H), 3.36-3.20 (m, 2H), 1.37-1.13 (m, 12H)
E-10	OH	OCH_3	OC_3H_7	OCH_3	CH_3	L- β -ムノ- γ -ヌ	220.2 (M+)	185 °C (5 mTorr)	5.25 (dd, $J = 3.2$, 2.0 Hz) & 4.61 (m, 合計 ^1H 3.80 (m, 1H), 3.70-3.50 (m, 9H), 3.36-3.05 (m, 1H), 1.60 (m, 2H), 1.30 (m, 5H), 0.95 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)

表 - 1

 一般式

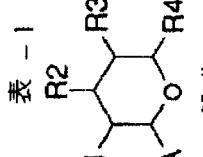
#	A	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	δ_{p}	$^1\text{H NMR} (\text{CDCl}_3, \delta)$
E-11	OH	OCH ₃	O-allyl	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L	254.9 (M+Na) (10 mTorr)	175 °C (10 mTorr)	5.95 (m, 1H), 5.3 (m, 1H), 5.19 (m, 1H), 5.21 及U 4.61 (重複*, m, α 及U β)及U 4.20 (m, 2H), 3.80 (m, 1H), 3.70-3.50 (m, 7H), 3.40-3.10 (m, 3H), 1.3 (m, 3H).
E-12	OH	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	L- β -D- α -L	248.2 (M+) (5 mTorr)	189 °C (5 mTorr)	5.35 (dd, $J = 3.2, 2.0$ Hz) and 4.45 (m, 合計 1H), 3.80 (m, 1H), 3.70-3.50 (m, 10H), 3.36- 3.05 (m, 1H), 2.73 (d, $J = 3.4$ Hz, 1H), 1.60 (m, 2H), 1.40 (m, 2H), 1.33 (d, $J = 6$ Hz, 3H), 0.95 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)
E-13	-OH	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	CH ₂ O- CH ₃	L- β -D- α -L			5.32 (s, 1H), 3.9 (m, 1H), 3.66-3.53 (-重の m, 4H), 3.52 (s, 3H), 3.51 (s, 3H), 3.49 (s, 3H), 3.40 (s, 3H), 3.35 (m, 1H), 3.18 (d, $J = 3$ Hz, 1H)
E-14	-OH	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	CH ₂ O- CH ₃	D- β -D- α -X			5.33 (d, $J = 3.6$ Hz)及U 4.60 (d, $J = 4$ Hz, α 及U β)及U 5 及U m, 14H), 3.9 (m, 1H), 3.6-3.3 (-重の s 及U m, 3H), 3.28 (m, 3H), 1.7 (s, 1H)

表 -1
 一般式

$$\begin{array}{c} \text{R}_2 \\ | \\ \text{R}_1-\text{C}-\text{C}-\text{R}_3 \\ | \quad | \\ -\text{OCH}_3 \quad -\text{OCH}_3 \\ | \\ \text{A} \end{array}$$

$$\begin{array}{c} \text{R}_4 \\ | \\ \text{C}-\text{O}-\text{C}-\text{R}_4 \end{array}$$

#	A	R ₁	R ₂	R ₃	R ₄	糖	M.S.	bp	¹ H NMR (CDCl ₃ , δ)
E-15	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-H ₂	L-キシロース	207 (M+H)		4.77 (d, <i>J</i> = 3.5 Hz) 及び 4.15 (d, <i>J</i> = 7.4 Hz, 合計 1H), 27.1 (θ α:β H ^c), 4.00 (dd, <i>J</i> = 11.6, 5.0 Hz, 1H), 4.03-2.93 (一連の s 及び m, 16H)
E-16	-OH	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-H ₂	L-キシロース	175 (M-H ₂ O)		5.23 (t, <i>J</i> = 3.4 Hz) 及び 4.60 (t, <i>J</i> = 6.3 Hz, 合計 1H, 15.1 (θ α:β H ^c), 4.01-2.97 (一連の s 及び m, 15H)
E-17	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-H ₂	L-リキゾース	207 (M+H)		4.69 (d, <i>J</i> = 3.0 Hz, 1H, α:β) 及び 3.77 (dd, <i>J</i> = 10.8, 4.7 Hz, 1H), 3.62-3.32 (一連の s 及び m, 16H)
E-18	-OH	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-H ₂	L-リキゾース	175 (M-H ₂ O)		5.18-5.11 (m, 1H, α 及び βアノマーの混合物), 4.84 (d, <i>J</i> = 10.1 Hz, 0.4H), 3.98- 3.37 (一連の s 及び m, 14H), 3.11 (d, <i>J</i> = 4.2 Hz, 0.6H)
E-19	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	CH ₂ O- CH ₃	L-ダルコース	205 (M- CH ₂ OCH ₃)		(600 MHz, CDCl ₃) 4.83 (d, <i>J</i> = 4.1 Hz) 及び 4.14 (d, <i>J</i> = 7.8 Hz, 合計 1H, 0.21 (θ α:β 比で), 3.66-3.36 (一連の s 及び m, 18H), 3.29-3.26 (m, 1H), 3.17-3.13 (m, 1H), 3.01- 2.94 (m, 1H)



一般式

#	A	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	hp	¹ H NMR (CDCl ₃ , δ)
E-20	-OH	-OCH ₃	-OCH ₃	-OCH ₃	CH ₂ O-	L-ガルコ- λ	191 °C (M- CH ₂ OCH ₃)	mp 63-67 °C	5.33 (d, <i>J</i> = 3.7 Hz) & U 4.58 (d, <i>J</i> = 7.9 Hz, 合計 1H, 2.51① α;βH ^T), 3.92-3.86 (m, 0.8H), 3.65-3.08 (一連の s & U m, 18H), 2.96 (dd, <i>J</i> = 8.8, 7.8 Hz, 0.2H)
E-21	-OCH ₃	-H ₂	-OCH ₃	-OCH ₃	CH ₂ O-	2-デキシ-D- ガルコ- λ	220 (M ⁺)		4.81 (dd, <i>J</i> = 3.6, 1.1 Hz) & U 4.34 (dd, <i>J</i> = 9.5, 1.9 Hz, 合計 1H ② 0.29;③ α;βH ^T), 3.71-3.23 (m, 16H), 3.18-3.05 (m, 1H), 2.33- 2.16 (m, 1H), 1.60-1.41 (m, 1H)
E-22	-OCH ₃	-H ₂	-OCH ₃	OH	CH ₃	L- オレアノフロ- λ			4.78 (d, <i>J</i> = 3.3 Hz, 1H), 3.52 (m, 1H), 3.47 (m, 1H), 3.45 (s, 3H), 3.30 (s, 3H), 3.19 (m, 1H), 2.67 (br s, 1H), 2.29 (dd, <i>J</i> = 4.8, 12.9 Hz, 1H), 1.51 (m, 1H), 1.32 (d, <i>J</i> = 6.3 Hz, 3H)

【表 2】

#	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	mp	^1H NMR (CDCl_3 , δ)
E-23	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	1- $\bar{\gamma}$ L ₄ J-2	326.1 [M+Na] ⁺	135 °C	5.35 (d, $J = 2.0$ Hz, 1H), 4.29 (m, 1H), 3.89 (dd, $J = 3.3$, 2.1 Hz, 1H), 3.55 (s, 3H), 3.54 (s, 3H), 3.52 (s, 3H), 3.51 (m, 1H), 3.18 (t, $J = 9.3$ Hz, 1H), 2.74 (s, 4H), 1.27 (d, $J = 6.1$ Hz, 3H)
E-24	OCH ₃	OCH ₃	OH	CH ₃	1- $\bar{\gamma}$ L ₄ J-2	288 [M-H]	163-166 °C	5.42 (s, 1H), 4.40 (m, 1H), 4.0 (m, 1H), 3.63 (d, $J = 8$ Hz, 1H), 3.55-3.45 (m, 7H), 2.78 (s, 4H), 2.22 (br s, 1H), 1.30 (d, $J = 6.3$ Hz, 3H)
E-25	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	1- $\bar{\gamma}$ L ₄ J-2			5.35 (m, 1H), 4.29 (m, 1H), 3.85 (m, 1H), 3.78-3.50 (m, 9H), 3.19 (t, $J = 9.5$ Hz, 1H), 2.75 (s, 4H), 1.33-1.26 (m, 6H)
E-26	OCH ₃	OC ₂ H ₇	OCH ₃	CH ₃	1- $\bar{\gamma}$ L ₄ J-2	354 [M+Na] ⁺	69-71 °C	5.35 (s, 1H), 4.29 (m, 1H), 3.84 (m, 1H), 3.78-3.50 (m, 9H), 3.19 (t, $J = 9.5$ Hz, 1H), 2.75 (s, 4H), 1.64 (m, 2H), 1.25 (d, $J = 6.1$ Hz, 3H), 0.95 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)
E-27	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	1- $\bar{\gamma}$ L ₄ J-2			5.32 (d, $J = 1.8$ Hz, 1H), 4.29 (m, 1H), 3.84 (m, 1H), 3.6-3.45 (m, 9H), 3.17 (t, $J = 9.3$ Hz, 1H), 2.73 (s, 4H), 1.6 (m, 2H), 1.4 (m, 2H), 1.26 (d, $J = 5.7$ Hz, 3H), 0.93 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)

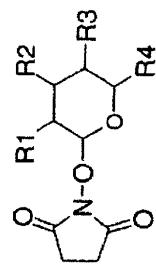
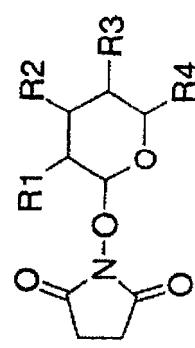


表 - 2

表 - 2

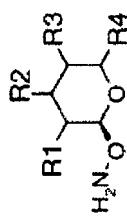


#	R ₁	R ₂	R ₃	R ₄	糖	M.S.	mp	¹ H NMR (CDCl ₃ , δ)
E-28	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₂ OCH ₃	D-ガルコ-2			5.52 (d, <i>J</i> = 4 Hz, 1H), 4.45 (d, <i>J</i> = 10 Hz, 1H), 3.68-3.47 (m, 12H), 3.4-3.27, (一連の m, 5H), 2.72 (s, 4H)
E-29	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₂ OCH ₃	L-マンノ-2			5.44 (s, 1H), 4.29 (m, 1H), 3.90 (m, 1H), 3.7-3.55 (m, 3H), 3.54 (s, 3H), 3.53 (s, 3H), 3.52 (s, 3H), 3.53 (m, 1H), 3.38 (s, 3H), 2.73 (s, 4H)

【表 3】

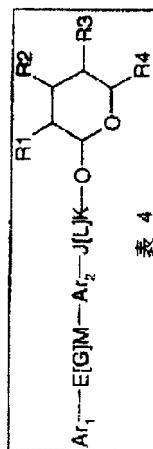
#	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	Mp	^1H NMR (CDCl_3 , δ)
E-30	OC_2H_5	OC_2H_5	OCH_3	CH_3	L^- $\bar{\gamma}_{\text{L}}/\bar{\gamma}_{\text{R}} \sim 2$	221.7 (M+H $^+$)	55 °C	5.51 (s, 2H), 4.98 (d, $J = 1.8$ Hz, 1H), 3.60 (m, 2H), 3.55 (s, 3H), 3.50 (s, 3H), 3.48 (s, 3H), 3.35 (dd, $J = 9.2, 3.3$ Hz, 1H), 3.13 (t, $J = 9.4$ Hz, 1H), 1.34 (d, $J = 6.2$ Hz, 3H)
E-31	OCH_3	OC_2H_5	OCH_3	CH_3	L^- $\bar{\gamma}_{\text{L}}/\bar{\gamma}_{\text{R}} \sim 2$	258.1 (M+Na $^+$)	88 °C	5.51 (s, 2H), 4.98 (d, $J = 1.8$ Hz, 1H), 3.60 (m, 4H), 3.55 (s, 3H), 3.48 (s, 3H), 3.35 (dd, $J = 9.2, 3.3$ Hz, 1H), 3.13 (t, $J = 9.4$ Hz, 1H), 1.34-1.26 (m, 6H)
E-32	OCH_3	OC_2H_5	OCH_3	CH_3	L^- $\bar{\gamma}_{\text{L}}/\bar{\gamma}_{\text{R}} \sim 2$	249.1 (M+H $^+$)	49 °C	5.6 (s, 2H), 4.95 (d, $J = 1.8$ Hz, 1H), 3.6-3.3 (m, 11H), 3.13 (t, $J = 9.3$ Hz, 1H), 1.65 (m, 2H), 1.34 (d, $J = 6.2$ Hz, 3H), 0.97 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)
E-33	OCH_3	OC_2H_5	OCH_3	CH_3	L^- $\bar{\gamma}_{\text{L}}/\bar{\gamma}_{\text{R}} \sim 2$		40-42 °C	5.6 (s, 2H), 4.97 (d, $J = 1.8$ Hz, 1H), 3.6-3.3 (m, 11H), 3.13 (t, $J = 9.3$ Hz, 1H), 1.62 (m, 2H), 1.40 (m, 2H), 1.34 (d, $J = 6.2$ Hz, 3H), 0.94 (t, $J = 7.5$ Hz, 3H)
E-34	OC_2H_5	OC_2H_5	OC_2H_5	CH_3	L^- $\bar{\gamma}_{\text{L}}/\bar{\gamma}_{\text{R}} \sim 2$	264.1 (M+Na $^+$)	Oil	5.5 (s, 2H), 4.90 (s, 1H), 3.9 (m, 1H), 3.80-3.50 (m, 7H), 3.4 (m, 1H), 3.25 (t, $J = 9$ Hz, 1H), 1.35 (d, $J = 6.3$ Hz, 3H), 1.27 (m, 9H)

表 - 3

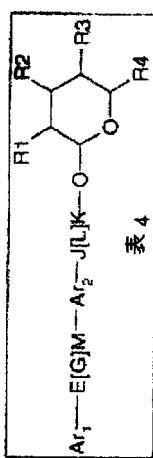


#	R1	R2	R3	R4	糖	M.S.	Mp	¹ H NMR (CDCl ₃ , δ)
E-35	OCH ₃	OCH ₃	OH	CH ₃	L- D,L-J-2	268 (M+AcOH)	Oil	5.6 (br s, 2H), 4.96 (s, 1H), 3.7-3.5 (m, 3H), 3.48 (s, 3H), 3.42 (s, 3H), 3.25 (dd, J = 10, 3 Hz, 1H), 2.75 (br s, 1H), 1.7 (d, J = 7 Hz, 3H)
E-36	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₂ OCH ₃	L-2D,L-J-2	251.1 (M+H ⁺)	58 °C	5.5 (br s, 2H), 5.04 (d, J = 2 Hz, 1H), 3.65-3.58 (m, 4H), 3.52 (s, 3H), 3.48 (2D, s, 6H), 3.42 (s, 3H), 3.45-3.39 (m, 2H)
E-37	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	L-2D,J-2		91 °C	5.58 (s, 2H), 5.1 (d, J = 4 Hz, 1H), 3.60 (q, J = 6.8 Hz, 1H), 3.66 (m, 1H), 3.60 (s, 3H), 3.53 (s, 3H), 3.51 (s, 3H), 3.5-3.4 (m, 2H), 1.34 (d, J = 6.4 Hz, 3H)
E-38	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₂ OCH ₃	D-2D,L-J-2	251.8 (M+H) ⁺	82 °C	5.6 (br s, 2H), 5.1 (d, J = 4 Hz, 1H), 3.7 (s, 3H), 3.55 (s, 3H), 3.53 (s, 3H), 3.41 (s, 3H), 3.65-3.35 (-D, m, 3H), 3.4 (m, 1H), 3.2 (m, 2H)

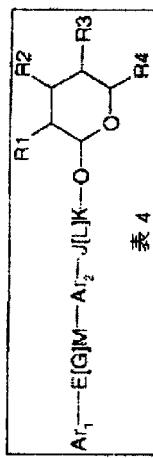
【表4】



BAW 50		BAW H1S		化合物		Ar1	E	G	M	Ar2	J	L	K	R1	R2	R3	R4	ア)マ-	糖
A	A	1		<chem>CF3Oc1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₇	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
A	A	2		<chem>CF3c1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₆	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
B	B	3		<chem>C(F)(OC(F)F)c1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₆	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
B	B	4		<chem>CC(=O)c1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₇	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
A	B	5		<chem>CF3Oc1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₇	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
A	A	6		<chem>CF3c1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₆	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
A	B	7		<chem>C(F)(OC(F)F)c1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OC ₂ H ₆	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	
A	A	8		<chem>CF3Oc1ccc(cc1)E</chem>		CH	二重結合	CH	<chem>Mc1ccc(cc1)J</chem>	CH	=重結合	N	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	α	1,2-LJ-3	



BAW 50 BAW HTS	化合物	Ar1		E		G		M		Ar2		J		L		K		R1		R2		R3		R4		ア)ア-		塘				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z					
A	8	9		<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	CH		二重結合	CH	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>OCH3</chem>	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>													
A	9	10		<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	CH		二重結合	CH	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>															
B	11			<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	CH		二重結合	CH	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>															
A	12			<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	CH		二重結合	CH	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>															
A	13			<chem>CF3Oc1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	C		三重結合	C	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>															
A	14			<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	C		三重結合	C	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>															
A	15			<chem>CF3c1ccccc1</chem>	<chem>E</chem>	C		三重結合	C	<chem>M</chem>	<chem>c1ccc(cc1)J</chem>	CH		二重結合	N	<chem>OCH3</chem>	<chem>CH3</chem>	<chem>CH3</chem>														



BAW 50 BAW HTS	化合物	Ar1		E	G	M	Ar2	J	L	K	R1	R2	R3	R4	アノマー	糖	
		A	B														
A	A	16		CH		M	Phenyl	NH			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
A	B	17		CH		M	Phenyl	NH			CO	OCH ₃	OCH ₃	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
A	B	18		CH		M	Phenyl	NH			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
A	A	19		CF ₃ O		M	Phenyl	N			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
A	A	20		CF ₃ O		M	Phenyl	N			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
B	A	21		CF ₃ O		M	Phenyl	N			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス
A	A	22		CF ₃ O		M	Phenyl	N			CO	OCH ₃	OC ₂ H ₅	OCH ₃	CH ₃	α	L-ラムダ-ス

【 0 0 8 4 】

酸誘導体 & 塩誘導体 及び溶媒和物

本発明において開示される化合物は、殺虫剤として許容可能な酸付加塩の形態が可能である。

【0085】

限定されない例として、アミン機能は、塩酸、臭化水素酸、硫酸、リン酸、酢酸、安息香酸、クエン酸、マロン酸、サリチル酸、リンゴ酸、フマル酸、シュウ酸、コハク酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、アスパラギン酸、ベンゼンスルホン酸、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、ヒドロキシメタンスルホン酸及びヒドロキシエタンスルホン酸との塩を形成することができる。

【0086】

加えて、限定されない例として、酸機能は、アルカリ金属又はアルカリ土類金属に由来する塩、並びに、アンモニア及びアミンに由来する塩を含めて、様々な塩を形成することができる。好ましいカチオンの例としては、ナトリウムカチオン、カリウムカチオン、マグネシウムカチオン及びアミニウムカチオンが挙げられる。

【0087】

これらの塩は、フリーの塩基形態を、塩を作製するための十分な量の所望される酸と接触させることによって調製される。フリーの塩基形態が、塩を好適な薄い塩基水溶液（例えば、薄い水酸化ナトリウム水溶液（NaOH）、炭酸カリウム水溶液、アンモニア水溶液及び重炭酸ナトリウム水溶液など）により処理することによって再生され得る。一例として、多くの場合、殺虫剤は、より水溶性の形態に変更される。例えば、(2,4-ジクロロフェノキシ)酢酸ジメチルアミン塩は、周知の除草剤である(2,4-ジクロロフェノキシ)酢酸のより水溶性の形態である。

【0088】

本発明において開示される化合物はまた、複合体非形成の溶媒分子が化合物から除かれた後もそのままである溶媒分子との安定な複合体を形成することができる。これらの複合体は多くの場合、「溶媒和物」と呼ばれる。

【0089】

立体異性体

本発明において開示されるある種の化合物は1つ又はそれ以上の立体異性体として存在することができる。様々な立体異性体には、幾何異性体、ジアステレオマー及びエナンチオマーが含まれる。従って、本発明において開示される化合物には、ラセミ混合物、個々の立体異性体、及び、光学活性な混合物が含まれる。1つの立体異性体がそれ以外の立体異性体よりも活性であり得ることが当業者によって理解される。個々の立体異性体、及び、光学活性な混合物を、選択的合成手順によって、又は、分割された出発物質を使用する従来の合成手順によって、又は、従来の分割手順によって得ることができる。

【0090】

害虫

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、害虫を駆除するために使用することができる。

【0091】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、線形動物門(Nematoda)の害虫を駆除するために使用することができる。

【0092】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、節足動物門(Arthropoda)の害虫を駆除するために使用することができる。

【0093】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、鋸角亜門(Chelicera)の害虫を駆除するために使用することができる。

【0094】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、クモガタ綱(Arachnida)の害虫を駆除するために使用することができる。

10

20

30

40

50

【0095】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、多足亜門（Myriapoda）の害虫を駆除するために使用することができる。

【0096】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、コムカデ綱（Symphyla）の害虫を駆除するために使用することができる。

【0097】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、六脚亜門（Hexapoda）の害虫を駆除するために使用することができる。

【0098】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、昆虫綱（Insecta）の害虫を駆除するために使用することができる。

【0099】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、鞘翅類（Coleoptera）（コウチュウ）を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アカントセリデス・エスピーピー（*Acanthoscelides spp.*）（ゾウムシ）、アカントセリデス・オブテクトス（*Acanthoscelides obtectus*）（インゲンマメゾウムシ）、アグリルス・プラニペニス（*Agrilus planipennis*）（アオナガタマムシ）、アグリオテス・エスピーピー（*Agriotes spp.*）（ハリガネムシ）、アノプロホラ・グラブリペニス（*Anoplophora glabripennis*）（ツヤハダゴマダラカミキリ）、アントノムス・エスピーピー（*Anthonomus spp.*）（ゾウムシ）、アントノムス・グランジス（*Anthonomus grandis*）（ワタミハナゾウムシ）、アフィジウス・エスピーピー（*Aphidius spp.*）、アピオン・エスピーピー（*Apion spp.*）（ゾウムシ）、アポゴニア・エスピーピー（*Apogonia spp.*）（地虫）、アタエニウス・スプレツルス（*Ataenius spretulus*）（Black Turfgrass Ataenius）、アトマリア・リネアリス（*Atomaria linearis*）（pygmy mangold beetle）、アウラコホレ・エスピーピー（*Aulacophore spp.*）、ボチノデレス・ punctiventris（*Bothynoderes punctiventris*）（beet root weevil）、ブルクス・エスピーピー（*Bruchus spp.*）（ゾウムシ）、ブルクス・ピソルム（*Bruchus pisorum*）（エンドウマメゾウムシ）、カコエシア・エスピーピー（*Cacoecia spp.*）、カロソブルクス・マクラツス（*Callosobruchus maculatus*）（ヨツモンマメゾウムシ）、カルポフィルス・ヘミプテラス（*Carpophilus hemipterus*）（クリヤケシキスイ）、カッシダ・ビッタタ（*Cassida vittata*）、セロステルナ・エスピーピー（*Cerosterna spp.*）、セロトマ・エスピーピー（*Cerotoma spp.*）（ハムシ）、セロトマ・トリフルカタ（*Cerotoma trifurcata*）（bean leaf beetle）、コイトリンクス・エスピーピー（*Ceuthorhynchus spp.*）（ゾウムシ）、コイトリンクス・アッシミリス（*Ceuthorhynchus assimilis*）（cabbage seedpod weevil）、コイトリンクス・ナビ（*Ceuthorhynchus napi*）（cabbage curculio）、カエトクネマ・エスピーピー（*Chaetocnema spp.*）（ハムシ）、コラスピス・エスピーピー（*Colaspis spp.*）（土壤コウチュウ）、コノデルス・スカラリス（*Conoderus scalaris*）、コノデルス・スチグモスス（*Conoderus stigmosus*）、コノトラケルス・ネヌファル（*Conotrachelus nenuphar*）（スモモゾウムシ）、コチヌス・ニチジス（*Cotinus nitidis*）（Green June beetle）、クリオセリス・アスパラギ（*Crioceris asparagi*）（アスパラガスハムシ）、クリプトレステス・フェルギネウス（*Cryptolestes ferrugineus*）（サビカクムネヒラタムシ）、クリプトレステス・プシリス（*Cryptolestes pusillus*）（カクムネヒラタムシ）、クリプトレステス・ツルシクス（*Cryptolestes turcicus*）（トルコカクムネヒラタムシ）、クテニセラ・エスピーピー（*Ctenicera spp.*）（ハリガネムシ）、クルクリオ・エスピーピー（*Curculio spp.*）（ゾウムシ）、シクロセファラ・エスピーピー（*Cyclocephala spp.*）（地虫）、シリンドロクプツルス・アドスペルスス（*Cylindroctenus adspersus*）（sunflower stem weevil）、デボラウス・マルギナツス（*Deporaus marginatus*）（mango leaf-cutting weevil）、デルメステス・ラルダリウス（*Dermestes lardarius*）（オビカツオブシムシ）、デルメス

10

20

30

40

50

テス・マクラテス (*Dermestes maculatus*) (ハラジロカツオブシムシ)、ジアプロチカ・エスピーピー (*Diabrotica spp.*) (ハムシ)、エピラクナ・バリベスチス (*Epilachna varivestis*) (インゲンテントウ)、ファウスチヌス・クバエ (*Faustinus cubae*)、ヒロビウス・パレス (*Hylobius pales*) (*pales weevil*)、ヒペラ・エスピーピー (*Hypera spp.*) (ゾウムシ)、ヒペラ・ポスチカ (*Hypera postica*) (アルファルファタコゾウムシ)、ヒペルドエス・エスピーピー (*Hyperdoes spp.*) (スズメノカタビラオサゾウムシ)、ヒポテネムス・ハンペイ (*Hypothenemus hampei*) (コーヒーノミキクイムシ)、イプス・エスピーピー (*Ips spp.*) (キクイムシ)、ラシオデルマ・セリコルネ (*Lasiocerma serricorne*) (タバコシバンムシ)、レプチノタルサ・デセムリネアタ (*Leptinotarsa decemlineata*) (コロラドハムシ)、リオゲニス・フスクス (*Liogenys fuscus*)、リオゲニス・スツラリス (*Liogenys suturalis*)、リッソロプトルス・オリゾフィルス (*Lissorhoptrus oryzophilus*) (イネミズゾウムシ)、リクトス・エスピーピー (*Lyctus spp.*) (キクイムシ / ヒラタキクイムシ)、マエコラスピス・ジョリベチ (*Maecolaspis joliveti*)、メガセリス・エスピーピー (*Megascelis spp.*)、メラノツス・コンムニス (*Melanotus communis*)、メリゲテス・エスピーピー (*Meligethes spp.*)、メリゲテス・アエネウス (*Meligethes aeneus*) (blossom beetle)、メロロンタ・メロロンタ (*Melolontha melolontha*) (ヨーロッパコフキコガネ)、オベレア・ブレビス (*Oberea brevis*)、オベレア・リネアリス (*Oberea linearis*)、オリクテス・リノセロス (*Oryctes rhinoceros*) (タイワンカブトムシ)、オリザエフィルス・メルカトル (*Oryzaephilus mercator*) (オオメノコギリヒラタムシ)、オリザエフィルス・スリナメンシス (*Oryzaephilus surinamensis*) (ノコギリヒラタムシ)、オチオリンクス・エスピーピー (*Otiorrhynchus spp.*) (ゾウムシ)、オウレマ・メラノpus (*Oulema melanopus*) (クビアカクビホソハムシ)、オウレマ・オリザエ (*Oulema oryzae*)、パントモルス・エスピーピー (*Pantomorus spp.*) (ゾウムシ)、フィロファガ・エスピーピー (*Phyllophaga spp.*) (コフキコガネ)、フィロファガ・クヤバナ (*Phyllophaga cuyabana*)、フィロトレタ・エスピーピー (*Phyllotreta spp.*) (ハムシ)、フィンキテス・エスピーピー (*Phynchites spp.*)、ポピリア・ジャポニカ (*Popillia japonica*) (マメコガネ)、プロステファヌス・トルンカテス (*Prostephanus truncates*) (オオコナナガシンケイ)、リゾペルタ・ドミニカ (*Rhizopertha dominica*) (コナナガシンケイ)、リゾトログス・エスピーピー (*Rhizotrogus spp.*) (コフキコガネ)、リンコホルス・エスピーピー (*Rhynchophorus spp.*) (ゾウムシ)、スコリツス・エスピーピー (*Scolytus spp.*) (キクイムシ)、シェノホルス・エスピーピー (*Shenophorus spp.*) (ゾウムシ)、シトナ・リネアツス (*Sitona lineatus*) (アカアシチビコフキゾウムシ)、シトフィルス・エスピーピー (*Sitophilus spp.*) (コクゾウムシ)、シトフィルス・グラナリエス (*Sitophilus granaries*) (グラナリアコクゾウムシ)、シトフィルス・オリザエ (*Sitophilus oryzae*) (ココクゾウムシ)、ステゴビウム・パニセウム (*Stegobium paniceum*) (ジンサンシバンムシ)、トリボリウム・エスピーピー (*Tribolium spp.*) (flour beetle)、トリボリウム・カステナエウム (*Tribolium castaneum*) (コクヌストモドキ)、トリボリウム・コンフスム (*Tribolium confusum*) (ヒラタコクヌストモドキ)、トロゴデルマ・バリアビレ (*Trogoderma variabile*) (キマダラカツオブシムシ) 及びザブルス・テネビオイデス (*Zabrus tenebrioides*)。

【0100】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、革翅類 (*Dermoptera*) (ハサミムシ) を駆除するために使用することができる。

【0101】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、網翅類 (*Dictyoptera*) (ゴキブリ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：ブラッテラ・ゲルマニカ (*Blattella germanica*) (チャバネゴキブリ)、ブラッタ・オリエンタリス (*Blatta orientalis*) (トウヨウゴキブリ)、パルコブラッタ・ペンシリバニカ (*Parcoblatta pennsylvanica*)

10

20

30

40

50

、ペリプランタ・アメリカナ (*Periplaneta americana*) (ワモンゴキブリ)、ペリプランタ・アウストラロアシアエ (*Periplaneta australoasiae*) (コワモンゴキブリ)、ペリプランタ・ブルンネア (*Periplaneta brunnea*) (トビイロゴキブリ)、ペリプランタ・フリギノサ (*Periplaneta fuliginosa*) (クロゴキブリ)、ピクノセルス・スリナメンシス (*Pycnoscelus surinamensis*) (オガサワラゴキブリ) 及びスペラ・ロンギパルバ (*Supella longipalpa*) (チャオビゴキブリ)。

【0102】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、双翅類 (Diptera) (ハエ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アエデス・エスピーピー (*Aedes spp.*) (カ) 10
 、アグロミザ・フロンテラ (*Agromyza frontella*) (alfalfa blotch leafminer)、アグロミザ・エスピーピー (*Agromyza spp.*) (ハモグリバエ)、アナストレファ・エスピーピー (*Anastrepha spp.*) (ミバエ)、アナストレファ・ススペンサ (*Anastrepha suspensa*) (カリブカイミバエ)、アノフェレス・エスピーピー (*Anopheles spp.*) (カ)、バトロセラ・エスピーピー (*Batrocera spp.*) (ミバエ)、バクトロセラ・ククルビタエ (*Bactrocera cucurbitae*) (ウリミバエ)、バクトロセラ・ドルサリス (*Bactrocera dorsalis*) (ミカンコミバエ)、セラチチス・エスピーピー (*Ceratitis spp.*) (ミバエ)、セラチチス・カピタタ (*Ceratitis capitata*) (チチュウカイミバエ)、クリソプス・エスピーピー (*Chrysops spp.*) (メクラアブ)、コクリオミイア・エスピーピー (*Cochliomyia spp.*) (アメリカオビキンバエ)、コンタリニア・エスピーピー (*Contarinia spp.*) (タマバエ)、クレキス・エスピーピー (*Culex spp.*) (カ)、ダシノイラ・エスピーピー (*Dasineura spp.*) (タマバエ)、ダシノイラ・ブラッシカエ (*Dasineura brassicae*) (ダイコンタマバエ)、デリア・エスピーピー (*Delia spp.*)、デリア・プラツラ (*Delia platura*) (タネバエ)、ドロソフィラ・エスピーピー (*Drosophila spp.*) (ショウジョウバエ)、ファンニア・エスピーピー (*Fannia spp.*) (filth flies)、ファンニア・カニクラリス (*Fannia canicularis*) (ヒメイエバエ)、ファンニア・スカラリス (*Fannia scalaris*) (コブアシヒメイエバエ)、ガステロフィルス・インテスチナリス (*Gasterophilus intestinalis*) (ウマバエ)、グラシリア・ペルセアエ (*Gracillia perseae*)、ハエマトビア・イリタンス (*Haematobia irritans*) (ノサシバエ)、ヒレミイア・エスピーピー (*Hylemyia spp.*) (ネクイムシ)、ヒポデルマ・リネアツム (*Hypoderma lineatum*) (キスジウシバエ)、リリオミザ・エスピーピー (*Liriomyza spp.*) (ハモグリバエ)、リリオミザ・ブラッシカエ (*Liriomyza brassicae*) (アブラナハモグリバエ)、メロファグス・オビヌス (*Melophagus ovinus*) (ヒツジシラミバエ)、ムスカ・エスピーピー (*Musca spp.*) (muscid fly)、ムスカ・アウツムナリス (*Musca autumnalis*) (face fly)、ムスカ・ドメスチカ (*Musca domestica*) (イエバエ)、オエストルス・オビス (*Oestrus ovis*) (ヒツジバエ)、オシネラ・フリト (*Oscinella frit*) (frit fly)、ペゴミイア・ベタエ (*Pegomyia betae*) (beet leafminer)、ホルビア・エスピーピー (*Phorbia spp.*)、ブシラ・ロサエ (*Psila rosae*) (ニンジンサビバエ)、ラゴレチス・セラシ (*Rhagoletis cerasi*) (ヨーロッパオウトウミバエ)、ラゴレチス・ポモネラ (*Rhagoletis pomonella*) (リンゴミバエ)、シトジプロシス・モセラナ (*Sitodiplosis mosellana*) (ムギアカタマバエ)、ストモキシス・カルシトランス (*Stomoxys calcitrans*) (サシバエ)、タバヌス・エスピーピー (*Tabanus spp.*) (ウマバエ) 及びチプラ・エスピーピー (*Tipula spp.*) (ガガンボ)。
 20
 30
 40

【0103】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、半翅類 (Hemiptera) (カメムシ類) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アクロステルヌム・ヒラレ (*Acrosternum hilare*) (green stink bug)、ブリッスス・ロイコプテルス (*Blissus leucopterus*) (アメリカコバネナガカメムシ)、カロコリス・ノルベギクス (*Calocoris norvegicus*) (potato mirid)、シメキス・ヘミプテルス (*Cimex hemipterus*) (ネッタイトコジラ
 50

ミ)、シメキス・レクツラリウス (*Cimex lectularius*) (トコジラミ)、ダグベルツス・ファシアツス (*Dagbertus fasciatus*)、ジケロプス・フルカツス (*Dichelops furcatus*)、ジスデルクス・スツレルス (*Dysdercus suturellus*) (アカホシカムシ)、エデッサ・メジタブンダ (*Edessa meditabunda*)、オイリガステル・マウラ (*Eurygaster maura*) (cereal bug)、オイスキツツス・ヘロス (*Euschistus heros*)、オイスキツツス・セルブス (*Euschistus servus*) (brown stink bug)、ヘロペルチス・アントニイ (*Helopeltis antonii*)、ヘロペルチス・ティボラ (*Helopeltis theivora*) (tea blight plantbug)、ラギノトムス・エスピーピー (*Lagynotomus spp.*) (カムシ)、レプトコリサ・オラトリウス (*Leptocoris oratorius*)、レプトコリサ・バリコルニス (*Leptocoris varicornis*)、リグス・エスピーピー (*Lygus spp.*) (メクラカムシ)、リグス・ヘスペルス (*Lygus hesperus*) (western tarnished plant bug)、マコネリコックス・ヒルスツス (*Maconellicoccus hirsutus*)、ノイロコルプス・ロンギロストリス (*Neurocolpus longirostris*)、ネザラ・ビリズラ (*Nezara viridula*) (ミナミオアカムシ)、フィトコリス・エスピーピー (*Phytocoris spp.*) (メクラカムシ)、フィトコリス・カリホルニクス (*Phytocoris californicus*)、フィトコリス・レラチブス (*Phytocoris relativus*)、ピエゾドルス・グイルジング (*Piezodorus guildingii*)、ポエシロカブスス・リネアツス (*Poecilocapsus lineatus*) (fourlined plant bug)、ブサルス・バッシニコラ (*Psallus vaccinica*)、プソイダシスタ・ペルセアエ (*Pseudacysta perseae*)、スカプトコリス・カスタネア (*Scaptocoris castanea*) 及びトリアトマ・エスピーピー (*Triatoma spp.*) (吸血サシガメ / オオサシガメ)。

【0104】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、同翅類 (Homoptera) (アブラムシ、カイガラムシ、コナジラミ、ヨコバイ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アクリトシホン・ピスム (*Acrythosiphon pisum*) (エンドウヒゲナガアブラムシ)、アデルゲス・エスピーピー (*Adelges spp.*) (カサアブラムシ)、アロイロデス・プロレテラ (*Aleurodes proletella*) (タマコナジラミ)、アロイロジクス・ジスペルセス (*Aleurodicus disperses*)、アロイロトリキス・フロッコスス (*Aleurothrixus floccosus*) (ミカンワタコナジラミ)、アルアカスピス・エスピーピー (*Aluacaspis spp.*)、アムラスカ・ビグテラ・ビグテラ (*Amrasca biguttella biguttella*)、アフロホラ・エスピーピー (*Aphrophora spp.*) (ヨコバイ)、アオニジエラ・アウランチイ (*Aonidiella aurantii*) (アカマルカイガラムシ)、アフィス・エスピーピー (*Aphis spp.*) (アブラムシ)、アフィス・ゴッシピイ (*Aphis gossypii*) (ワタアブラムシ)、アフィス・ポミ (*Aphis pomi*) (リンゴアブラムシ)、アウラコルツム・ソラニ (*Aulacorthum solani*) (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)、ベミシア・エスピーピー (*Bemisia spp.*) (コナジラミ)、ベミシア・アルゲンチホリイ (*Bemisia argentifolii*)、ベミシア・タバシ (*Bemisia tabaci*) (タバココナジラミ)、プラキコルス・ノキシウス (*Brachycolus noxioides*) (Russian aphid)、プラキコリネラ・アスパラギ (*Brachycorynella asparagi*) (asparagus aphid)、ブレベンニア・レヒ (*Brevennia rehi*)、ブレビコリネ・ブラッシカエ (*Brevicoryne brassicae*) (ダイコンアブラムシ)、セロプラステス・エスピーピー (*Ceroplastes spp.*) (カイガラムシ)、セロプラステス・ルベンス (*Ceroplastes rubens*) (ルビーロウカイガラムシ)、キオナスピス・エスピーピー (*Chionaspis spp.*) (カイガラムシ)、クリソンファルス・エスピーピー (*Chrysomphalus spp.*) (カイガラムシ)、コックス・エスピーピー (*Coccus spp.*) (カイガラムシ)、ジサフィス・プランタギネア (*Dysaphis plantaginea*) (オオバコアブラムシ)、エンポアスカ・エスピーピー (*Empoasca spp.*) (ヨコバイ)、エリオソマ・ラニゲルム (*Eriosoma lanigerum*) (リンゴワタムシ)、イセリア・ブルカシ (*Icerya purchasi*) (ワタフキカイガラムシ)、イジオスコプス・ニチズルス (*Idioscopus nitidulus*) (mango leafhopper)、ラオデルファキス・ストリアテルス (*Laodelphax striatellus*) (ヒメトビウンカ)、レピドサフェス・エスピーピー (*Lepidosaphes spp.*)、マクロシフム・エスピーピー (*Macrosiphum s*

10

20

30

40

50

pp.)、マクロシフム・オイホルビアエ (*Macrosiphum euphorbiae*) (チューリップヒゲナガアブラムシ)、マクロシフム・グラナリウム (*Macrosiphum granarium*) (ムギヒゲナガア布拉ムシ)、マクロシフム・ロサエ (*Macrosiphum rosae*) (イバラヒゲナガア布拉ムシ)、マクロステレス・クアドリリネアツス (*Macrosteles quadrilineatus*) (aster leafhopper)、マハナルバ・フリンビオラタ (*Mahanarva frimbiolata*)、メトポロフィウム・ジロズム (*Metopolophium dirhodum*) (ムギウスイロア布拉ムシ)、ミクチス・ロンギコルニス (*Mictis longicornis*)、ミズス・ペルシカエ (*Myzus persicae*) (モモアカア布拉ムシ)、ネホテッキス・エスピーピー (*Nephrotettix spp.*) (ヨコバイ)、ネホテッキス・シンクチペス (*Nephrotettix cinctipes*) (ツマグロヨコバイ)、ニラバルバタ・ルゲンス (*Nilaparvata lugens*) (トビイロウンカ)、パルラトリア・ペルガンジイ (*Parlatoria pergandii*) (マルクロホシカイガラムシ)、パルラトリア・ジジフィ (*Parlatoria ziziphi*) (ヒメクロカイガラムシ)、ペレグリヌス・マイジス (*Peregrinus maidis*) (トウモロコシウンカ)、フィラエヌス・エスピーピー (*Philaenus spp.*) (アワフキムシ)、フィロキセラ・ビチホリアエ (*Phylloxera vitifoliae*) (ブドウネア布拉ムシ)、フィソケルメス・ピセアエ (*Physokermes piceae*) (spruce bud scale)、プラノコックス・エスピーピー (*Planococcus spp.*) (コナカイガラムシ)、プソイドコックス・エスピーピー (*Pseudococcus spp.*) (コナカイガラムシ)、ブソイドコックス・ブレビペス (*Pseudococcus brevipes*) (パインアップルコナカイガラムシ)、クアドラスピジオツス・ペルニシオスス (*Quadrastriotus perniciosus*) (ナシマルカイガラムシ)、ラパロシフム・エスピーピー (*Rhopalosiphum spp.*) (ア布拉ムシ)、ラパロシフム・マイダ (*Rhopalosiphum maida*) (トウモロコシアブラムシ)、ラパロシフム・パジ (*Rhopalosiphum padi*) (ムギクビレア布拉ムシ)、サイッセチア・エスピーピー (*Saissetia spp.*) (カイガラムシ)、サイッセチア・オレアエ (*Saissetia oleae*) (オリーブカタカイガラムシ)、シザフィス・グラミヌム (*Schizaphis graminum*) (ムギミドリア布拉ムシ)、シトビオン・アベナエ (*Sitobion avenae*) (ムギヒゲナガア布拉ムシ)、ソガテラ・フルシフェラ (*Sogatella furcifera*) (セジロウンカ)、テリオアフィス・エスピーピー (*Therioaphis spp.*) (ア布拉ムシ)、トウメイエラ・エスピーピー (*Toumeyella spp.*) (カイガラムシ)、トキソプロテラ・エスピーピー (*Toxoptera spp.*) (ア布拉ムシ)、トリアロイロデス・エスピーピー (*Trialeurodes spp.*) (コナジラミ)、トリアロイロデス・バボラリオルム (*Trialeurodes vaporariorum*) (オンシツコナジラミ)、トリアロイロデス・アブチロネウス (*Trialeurodes abutiloneus*) (banded wing whitefly)、ウナスピス・エスピーピー (*Unaspis spp.*) (カイガラムシ)、ウナスピス・ヤノネンシス (*Unaspis yanonensis*) (ヤネノカイガラムシ) 及びズリア・エントレリアナ (*Zulia entreriana*)。

【0105】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、膜翅類 (Hymenoptera) (アリ、スズメバチ及びミツバチ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アクロミルメキス・エスピーピー (*Acromyrmex spp.*)、アタリア・ロサエ (*Athalia rosae*)、アッタ・エスピーピー (*Atta spp.*) (ハキリアリ)、カンボノツス・エスピーピー (*Camponotus spp.*) (オオアリ)、ジブリオン・エスピーピー (*Diprion spp.*) (ハバチ)、ホルミカ・エスピーピー (*Formica spp.*) (アリ)、イリドミルメキス・フミリス (*Iridomyrmex humilis*) (アルゼンチンアリ)、モノモリウム・エスピーピー (*Monomorium spp.*)、モノモリウム・ミニムム (*Monomorium minimum*) (イエヒメアリ)、モノモリウム・ファラオニス (*Monomorium pharaonis*) (ファラオアリ)、ネオジブリオン・エスピーピー (*Neodiprion spp.*) (ハバチ)、ポゴノミルメキス・エスピーピー (*Pogonomyrmex spp.*) (シュウカクアリ)、ポリステス・エスピーピー (*Polistes spp.*) (アシナガバチ)、ソレノプシス・エスピーピー (*Solenopsis spp.*) (カミアリ)、タボイノマ・セッシレ (*Tapinoma sessile*) (odorous house ant)、テトラノモリウム・エスピーピー (*Tetramorium spp.*) (pavement ant)、ベスプラ・エスピーピー (*Vespa spp.*) (スズメ

10

20

30

40

50

バチ) 及びキシロコパ・エスピーピー (*Xylocopa* spp.) (クマバチ)。

【0106】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、等翅類 (Isoptera) (シロアリ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：コプトテルメス・エスピーピー (*Coptotermes* spp.)、コプトテルメス・クルビグナツス (*Coptotermes curvignathus*)、コプトテルメス・フレンチイ (*Coptotermes frenchii*)、コプトテルメス・ホルモサヌス (*Coptotermes formosanus*) (イエシロアリ)、コルニテメス・エスピーピー (*Cornitermes* spp.) (nasute termite)、クリプトテルメス・エスピーピー (*Cryptotermes* spp.) (カンザイシロアリ)、ヘテロテルメス・エスピーピー (*Heterotermes* spp.) (desert subterranean termite)、ヘテロテルメス・アウレウス (*Heterotermes aureus*)、カロテルメス・エスピーピー (*Kalotermes* spp.) (カンザイシロアリ)、インシスチテルメス・エスピーピー (*Incisitermes* spp.) (カンザイシロアリ)、マクロテルメス・エスピーピー (*Macrotermes* spp.) (fungus growing termite)、マルギニテルメス・エスピーピー (*Marginitermes* spp.) (カンザイシロアリ)、ミクロセロテルメス・エスピーピー (*Microcerotermes* spp.) (harvester termite)、ミクロテルメス・オベシ (*Microtermes obesi*)、プロコルニテルメス・エスピーピー (*Procornitermes* spp.)、レチクリテルメス・エスピーピー (*Reticulitermes* spp.) (subterranean termite)、レチクリテルメス・バニウレンシス (*Reticulitermes banyulensis*)、レチクリテルメス・グラッセイ (*Reticulitermes grassei*)、レチクリテルメス・フラビペス (*Reticulitermes flavipes*) (eastern subterranean termite)、レチクリテルメス・ハゲニ (*Reticulitermes hageni*)、レチクリテルメス・ヘスペルス (*Reticulitermes hesperus*) (western subterranean termite)、レチクリテルメス・サントネンシス (*Reticulitermes santonensis*)、レチクリテルメス・スペラツス (*Reticulitermes speratus*)、レチクリテルメス・チビアリス (*Reticulitermes tibialis*)、レチクリテルメス・ビルギニクス (*Reticulitermes virginicus*)、スケドリノテルメス・エスピーピー (*Schedorhinotermes* spp.) 及びゾオテルモプシス・エスピーピー (*Zootermopsis* spp.) (rotten?wood termite)。

【0107】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、鱗翅類 (Lepidoptera) (ガ及びチョウ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：アコエア・ジャナタ (*Achoea janata*)、アドキソフィエス・エスピーピー (*Adoxophyes* spp.)、アドキソフィエス・オラナ (*Adoxophyes orana*)、アグロチス・エスピーピー (*Agrotis* spp.) (ネキリムシ)、アグロチス・イプシロン (*Agrotis ipsilon*) (タマナヤガ)、アラバマ・アルギラセア (*Alabama argillacea*) (cotton leafworm)、アモルビア・クネアナ (*Amorbia cuneana*)、アミエロシス・トランシテラ (*Amyelosis transitella*) (navel orangeworm)、アナカンプトデス・デフェクタリア (*Anacamptodes defectaria*)、アナルシア・リネアテラ (*Anarsia lineatella*) (モモキバガ)、アノミス・サブリフェラ (*Anomis sabulifera*) (jute looper)、アンチカルシア・ゲンマタリス (*Anticarsia gemmatalis*) (velvetbean caterpillar)、アルキップス・アルギロスピラ (*Archips argyrospila*) (fruittree leafroller)、アルキップス・ロサナ (*Archips rosana*) (rose leaf roller)、アルギロタエニア・エスピーピー (*Argyrotaenia* spp.) (ハマキガ)、アルギロタエニア・シトラナ (*Argyrotaenia citrana*) (ミカンコハマキ)、アウトグラファ・ガンマ (*Autographa gamma*)、ボナゴタ・クラナオデス (*Bonagota cranaodes*)、ボルボ・シンナラ (*Borbo cinnara*) (rice leaf folder)、ブックラトリキス・ツルベリエラ (*Bucculatrix thurberiella*) (cotton leafperforator)、カロプチリア・エスピーピー (*Caloptilia* spp.) (ハモグリムシ)、カプラ・レチクラナ (*Capua reticulana*)、カルポシナ・ニポンシス (*Carposina niponensis*) (モモシンクイガ)、キロ・エスピーピー (*Chilo* spp.)、クルメチア・トランスペルサ (*Chlumetia transversa*) (マンゴーフサヤガ)、コリストノイラ・ロサセアナ (*Choristoneura rosaceana*) (ハスオビハマキ)、クリソデ

10

20

30

40

50

イキシス・エスピーピー (*Chrysodeixis* spp.)、クナファロセルス・メジナリス (*Cnaphalocerus medinalis*) (grass leafroller)、コリアス・エスピーピー (*Colias* spp.)、コンポモルファ・クラメレラ (*Compromorpha cramerella*)、コッスス・コッスス (*Cossus cossus*) (オオボクトウ)、クランブス・エスピーピー (*Crambus* spp.) (Sod webworm)、シジア・フネブラナ (*Cydia funebrana*) (スモモヒメハマキ)、シジア・モレスタ (*Cydia molesta*) (ナシヒメシンクイ)、シジア・ニグニカナ (*Cydia nigrana*) (pea moth)、シジア・ポモネラ (*Cydia pomonella*) (コドリンガ)、ダルナ・ジズクタ (*Darna diducta*)、ジアファニア・エスピーピー (*Diaphania* spp.) (stem borer)、ジアトラエア・エスピーピー (*Diatraea* spp.) (stalk borer)、ジアトラエア・サッカラリス (*Diatraea saccharalis*) (sugarcane borer)、ジアトラエア・グランジオセラ (*Diatraea grandiosella*) (southwester corn borer)、エアリアス・エスピーピー (*Earias* spp.) (bollworm)、エアリアス・インスラタ (*Earias insulata*) (Egyptian bollworm)、エアリアス・ビテラ (*Earias vitella*) (rough northern bollworm)、エクジトポファ・アウランチアヌム (*Ecdytopophaga aurantianum*)、エラスモバルプス・リグノセルス (*Elasmopalpus lignosellus*) (モロコシマダラメイガ)、エピフィシアス・ポストルッタナ (*Epiphysias postruttana*) (light brown apple moth)、エフェスチア・エスピーピー (*Ephestia* spp.) (flour moth)、エフェスチア・カウテラ (*Ephestia cautella*) (スジマダラメイガ)、エフェスチア・エルテラ (*Ephestia elutella*) (チャマダラメイガ)、エフェスチア・クエニエラ (*Ephestia kuehniella*) (スジコナマダラメイガ)、エピメセス・エスピーピー (*Epimeces* spp.)、エピノチア・アポレマ (*Epinotia aporema*)、エリオノタ・トラキス (*Erionota thrax*) (トガリバナナセセリ)、オイポエシリア・アンビグエラ (*Eupoecilia ambiguella*) (ブドウホソハマキ)、オイキソア・アウキシリアリス (*Euxoa auxiliaris*) (army cutworm)、フェルチア・エスピーピー (*Feltia* spp.) (ネキリムシ)、ゴルチナ・エスピーピー (*Gortyna* spp.) (stemborer)、グラホリタ・モレスタ (*Grapholita molesta*) (ナシヒメシンクイ)、ヘジレプタ・インジカタ (*Hedylepta indicata*) (マエウスキノメイガ)、ヘリコベルパ・エスピーピー (*Helicoverpa* spp.) (ヤガ)、ヘリコベルパ・アルミゲラ (*Helicoverpa armigera*) (オオタバコガ)、ヘリコベルパ・ゼア (*Helicoverpa zea*) (アメリカタバコガ)、ヘリオチス・エスピーピー (*Heliothis* spp.) (ヤガ)、ヘリオチス・ビレセンス (*Heliothis virescens*) (ニセアメリカタバコガ)、ヘルラ・ウンダリス (*Hellula undalis*) (ハイマダラノメイガ)、インダルベラ・エスピーピー (*Indarbela* spp.) (ネクイムシ)、ケイフェリア・リコペルシセラ (*Keiferia lycopersicella*) (tomato pinworm)、ロイシノデス・オルボナリス (*Leucinodes orbonalis*) (ナスノメイガ)、ロイコプロテラ・マリホリエラ (*Leucoptera malifoliella*)、リトコレクチス・エスピーピー (*Litocranotis* spp.)、ロベシア・ボトラナ (*Lobesia botrana*) (grape fruit moth)、ロキサグロチス・エスピーピー (*Loxagrotis* spp.) (ヤガ)、ロキサグロチス・アルビコ스타 (*Loxagrotis albicosta*) (western bean cutworm)、リマントリア・ジスバル (*Lymantria dispar*) (マイマイガ)、リオネチア・クレルケラ (*Lyonetia clerkella*) (キンモンホソガ)、マハセナ・コルベッチ (*Mahasena corbetti*) (oil palm bagworm)、マラコソマ・エスピーピー (*Malacosoma* spp.) (テンマクケムシ)、マメストラ・ブラッシカエ (*Mamestra brassicae*) (ヨトウガ)、マルカ・テスツラリス (*Maruca testulalis*) (マメノメイガ)、メチサ・プラナ (*Metisa plana*) (ミノガ)、ミチムナ・ウニブンクタ (*Mythimna unipuncta*) (アメリカキヨトウ)、ネオロイシノデス・エレガントリス (*Neoleucinodes elegantalis*) (small tomato borer)、ニンフラ・デブンクタリス (*Nymphula depunctalis*) (rice caseworm)、オペロフテラ・ブルマタ (*Operophtera brumata*) (ナミスジフユナミシャク)、オストリニア・ヌビラリス (*Ostrinia nubilalis*) (ヨーロッパアワノメイガ)、オキシジア・ベスリア (*Oxydia vesulia*)、パンデミス・セラサナ (*Pandemis cerasana*) (common currant tortrix)、パンデミス・ヘバラナ (*Pandemis heparana*) (トビハマキ)、パピリオ・デモドクス (*Papilio demodocus*)、ペクチノホラ・ゴッシピエラ (*Pectinophora gossypiella*) (ワタアカミムシガ)

10

20

30

40

50

、ペリドロマ・エスピーピー (*Peridroma spp.*) (ネキリムシ)、ペリドロマ・サウシア (*Peridroma saucia*) (ニセタマナヤガ)、ペリロイコプテラ・コフェラ (*Perileucoptera coffeella*) (white coffee leafminer)、フトリマエア・オペルクレラ (*Phthorimaea operculella*) (potato tuber moth)、フィロクニシチス・シトレラ (*Phyllocoenisitis citrella*)、フィロノリクトル・エスピーピー (*Phyllonorycter spp.*) (ハモグリムシ)、ピエリス・ラパエ (*Pieris rapae*) (アオムシ)、プラチペナ・スカブラ (*Plathypena scabra*)、プロジア・インテルブンクテラ (*Plodia interpunctella*) (ノシメマダラメイガ)、ブルテラ・キシロステラ (*Plutella xylostella*) (コナガ)、ポリクロシス・ビテアナ (*Polychrosis viteana*) (ブドウヒメハマキ)、プライス・エンドカルバ (*Prays endocarpa*)、プライス・オレアエ (*Prays oleae*) (olive moth)、ブソイダレチア・エスピーピー (*Pseudaletia spp.*) (ヤガ)、ブソイダレチア・ウニブンクタタ (*Psuedaletia unipunctata*) (ヨトウムシ)、ブソイドブルシア・インクルデンス (*Pseudoplusia includens*) (soybean looper)、ラキブルシア・ヌ (*Rachiplusia nu*)、シルボファガ・インセルツラス (*Scirpophaga incertulas*)、セサミア・エスピーピー (*Sesamia spp.*) (stemborer)、セサミア・インフェレンス (*Sesamia inferens*) (イネヨトウ)、セサミア・ノナグリオイデス (*Sesamia nonagrioides*)、セトラ・ニテンス (*Setora nitens*)、シトトロガ・セレアレラ (*Sitotroga cerealella*) (バクガ)、スバルガノチス・ピレリアナ (*Sparganothis pilleriana*)、スポドブテラ・エスピーピー (*Spodoptera spp.*) (ヨトウムシ)、スポドブテラ・エキシグア (*Spodoptera exigua*) (シロイチモンジヨトウ)、スポドブテラ・フルギペルダ (*Spodoptera frugiperda*) (ツマジロクサヨトウ)、スポドブテラ・オリダニア (*Spodoptera oridania*) (southern armyworm)、シナンテドン・エスピーピー (*Synanthedon spp.*) (ネクイムシ)、テクラ・バシリデス (*Thecla basilides*)、テルミシア・ゲンマタリス (*Thermisia gemmatalis*)、チネオラ・ビッセリエラ (*Tineola bisselliella*) (コイガ)、トリコブルシア・ニ (*Trichoplusia ni*) (イラクサギンウワバ)、ツタ・アブソルタ (*Tuta absoluta*)、イポノモイタ・エスピーピー (*Yponomeuta spp.*)、ゾイゼラ・コフェアエ (*Zeuzera coffeae*) (コーヒーゴマフボクトウ) 及びゾイゼラ・ピリナ (*Zeuzera pyrina*) (leopard moth)。

【0108】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、食毛類 (*Mallophage*) (ハジラミ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、それらに限定されない：ボビコラ・オビス (*Bovicola ovis*) (ヒツジハジラミ)、メナカンツス・ストラミネウス (*Menacanthus stramineus*) (ニワトリオオハジラミ) 及びメノポン・ガリナエ (*Menopon gallinea*) (ニワトリハジラミ)。

【0109】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、直翅類 (*Orthoptera*) (バッタ、イナゴ及びコオロギ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：アナブルス・シンプレス (*Anabrus simplex*) (モルモンクリケット)、グリロタルピデア (*Gryllotalpidae*) (ケラ)、ロクスタ・ミグラトリア (*Locusta migratoria*)、メラノブルス・エスピーピー (*Melanoplus spp.*) (バッタ)、ミクロセントルム・レチネルベ (*Microcentrum retinerve*) (angularwinged katydid)、pteロフィラ・エスピーピー (*Pterophylla spp.*) (キリギリス)、シストセルカ・グレガリア (*Schistocerca gregaria*)、スクデリア・フルカタ (*Scudderia furcata*) (forktailed bush katydid) 及びバランガ・ニグリコルニス (*Valanga nigricornis*)。

【0110】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、シラミ目 (*Phthiraptera*) (シラミ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：ハエマトビヌス・エスピーピー (*Haematopinus spp.*) (ウシ及びブタのシラミ)、リノグナツス・オビルス (*Linognathus ovillus*) (ヒツジのシラミ)、ペジクルス・スマヌス・カピチス (*Pediculus humanus capitis*)

10

20

30

40

50

tis) (アタマジラミ)、ペジクルス・フマヌス・フマヌス (*Pediculus humanus humanus*) (コロモジラミ) 及びプチルス・ブビス (*Pthirus pubis*) (ケジラミ)。

【0111】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、隠翅目 (*Siphonaptera*) (ノミ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：クテノセファリデス・カニス (*Ctenocephalides canis*) (イヌノミ)、クテノセファリデス・フェリス (*Ctenocephalides felis*) (ネコノミ) 及びプレキス・イリタンス (*Pulex irritans*) (ヒトノミ)。

【0112】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、総翅類 (*Thysanoptera*) (アザミウマ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：フランクリニエラ・フスカ (*Frankliniella fusca*) (タバコアザミウマ)、フランクリニエラ・オッシデンタリス (*Frankliniella occidentalis*) (ミカンキイロアザミウマ)、フランクリニエラ・シュルツエイ (*Frankliniella shultzei*)、フランクリニエラ・ウィリアムシ (*Frankliniella williamsi*) (トウモロコシアザミウマ)、ヘリオトリップス・ハエモライダリス (*Heliothrips haemorrhoidalis*) (オンシツアザミウマ)、リフィホロトリップス・クルエンタツス (*Rhipiphorothrips cruentatus*)、シルトトリップス・エスピーピー (*Scirtothrips spp.*)、シルトトリップス・シトリ (*Scirtothrips citri*) (*citrus thrips*)、シルトトリップス・ドルサリス (*Scirtothrips dorsalis*) (チャノキイロアザミウマ)、タエニオトリップス・ローパランテンナリス (*Taeniothrips rhopalantennalis*) 及びトリップス・エスピーピー (*Thrips spp.*)。

【0113】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、総尾類 (*Thysanura*) (シミ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：レピスマ・エスピーピー (*Lepisma spp.*) (セイヨウシミ) 及びテルモビア・エスピーピー (*Thermobia spp.*) (マダラシミ)。

【0114】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、ダニ目 (*Acarina*) (ダニ及びマダニ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：アカラブシス・ウォオジ (*Acarapsis woodi*) (アカリンドダニ；ミツバチの気管ダニ)、アカルス・エスピーピー (*Acarus spp.*) (食品ダニ)、アカルス・シロ (*Acarus siro*) (アシブトコナダニ)、アセリア・マンギフェラエ (*Aceria mangiferae*) (*mango bud mite*)、アクロブス・エスピーピー (*Aculops spp.*)、アクロブス・リコベルシシ (*Aculops lycopersici*) (トマトサビダニ)、アクロブス・ペレカシ (*Aculops pelekasi*)、アクルス・ペレカッシ (*Aculus pelekassi*)、アクルス・スレクテンダリ (*Aculus schlechtendali*) (リンゴサビダニ)、アンブリオンマ・アメリカヌム (*Amblyomma americanum*) (アメリカキララマダニ)、ボオフィルス・エスピーピー (*Boophilus spp.*) (マダニ)、ブレビパルpus・オボバツス (*Brevipalpus obovatus*) (チャノヒメハダニ)、ブレビパルpus・ホエニシス (*Brevipalpus phoenicis*) (ミナミヒメハダニ)、デモデキス・エスピーピー (*Demodex spp.*) (ヒゼンダニ)、デルマセントル・エスピーピー (*Dermacentor spp.*) (カタダニ)、デルマセントル・バリアビリス (*Dermacentor variabilis*) (アメリカカイヌカクダニ)、デルマトファゴイデス・プテロニッシヌス (*Dermatophagoides pteronyssinus*) (ヒョウヒダニ)、エオテトラニクス・エスピーピー (*Eotetranychus spp.*)、エオテトラニクス・カルピニ (*Eotetranychus carpini*) (*yellow spider mite*)、エピチメルス・エスピーピー (*Epitimerus spp.*)、エリオフィエス・エスピーピー (*Eriophyes spp.*)、イキソデス・エスピーピー (*Ixodes spp.*) (マダニ)、メタテトラニクス・エスピーピー (*Metatetranychus spp.*)、ノトエドレス・カチ (*Notoedres cati*)、オリゴニクス・エスピーピー (*Oligonychus spp.*)、オリゴニクス・コフェ (*Oligonychus coffee*)、オリゴニク

10

20

20

30

40

40

50

ス・イリクス (*Oligonychus ilicus*) (southern red mite)、パノニクス・エスピーピー (*Panonychus spp.*)、パノニクス・シトリ (*Panonychus citri*) (ミカンハダニ)、パノニクス・ウルミ (*Panonychus ulmi*) (リンゴハダニ)、フィロコプトルタ・オレイボラ (*Phyllocoptrus oleivora*) (ミカンサビダニ)、ポリファゴタルソネムン・ラツス (*Polyphagotarsonemun latus*) (チャノホコリダニ)、リピセファルス・サンガイネウス (*Rhipicephalus sanguineus*) (クリイロコイタマダニ)、リゾグリフス・エスピーピー (*Rhizoglyphus spp.*) (ネダニ)、サルコプテス・スカビエイ (*Sarcopetes scabiei*) (ヒゼンダニ)、テゴロフス・ペルセアフロラエ (*Tegolophus perseae*)、テトラニクス・エスピーピー (*Tetranychus spp.*)、テトラニクス・ウルチカエ (*Tetranychus urticae*) (ナミハダニ) 及びバロア・デストルクトル (*Varroa destructor*) (ミツバチヘギイタダニ)。

【0115】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、線虫類 (*Nematoda*) (センチュウ) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、下記の害虫が含まれるが、これらに限定されない：アフェレンコイデス・エスピーピー (*Aphelenchoides spp.*) (芽及び葉 & 松材のセンチュウ)、ベロノライムス・エスピーピー (*Belonolaimus spp.*) (sting nematode)、クリコネメラ・エスピーピー (*Criconemella spp.*) (ring nematode)、ジロフィラリア・インミチス (*Dirofilaria immitis*) (犬糸状虫)、ジチレンクス・エスピーピー (*Ditylenchus spp.*) (茎及び球根のセンチュウ)、ヘテロデラ・エスピーピー (*Heterodera spp.*) (シストセンチュウ)、ヘテロデラ・ゼアエ (*Heterodera zeae*) (トウモロコシのシストセンチュウ)、ヒルスマニエラ・エスピーピー (*Hirschmanniella spp.*) (root nematode)、ホプロライムス・エスピーピー (*Hoplolaimus spp.*) (lance nematode)、メロイドギネ・エスピーピー (*Meloidogyne spp.*) (ネコブセンチュウ)、メロイドギネ・インコグニタ (*Meloidogyne incognita*) (ネコブセンチュウ)、オンコセルカ・ボルブルス (*Onchocerca volvulus*) (回施糸状虫)、プラチレンクス・エスピーピー (*Pratylenchus spp.*) (ネグサレセンチュウ)、ラドホルス・エスピーピー (*Radopholus spp.*) (ネモグリセンチュウ) 及びロチレンクス・レニホルミス (*Rotylenchus reniformis*) (ニセフクロセンチュウ)。

【0116】

別の実施形態において、本文書において開示される発明は、結合類 (*Symphyla*) (コムカデ類) を駆除するために使用することができる。これらの害虫の非網羅的列挙には、スクチゲレラ・インマクラタ (*Scutigerella immaculata*) が含まれるが、これに限定されない。

【0117】

より詳細な情報については、Arnold Mallisによる“Handbook of Pest Control - The Behavior, Life History, and Control of Household Pests”(第9版、著作権: GIE Media Inc. (2004年))を参照のこと。

【0118】

混合物

本文書において開示される発明との組合せで有益に用いることができる殺虫剤のいくつかには、下記の殺虫剤が含まれるが、それらに限定されない：

1, 2 - ジクロロプロパン、1, 3 - ジクロロプロペン、
アバメクチン、アセフェート、アセキノシル、アセタミブリド、アセチオン (acetion)、アセトプロール、アクリナトリン、アクリロニトリル、アラニカルブ、アルジカルブ、アルドキシカルブ、アルドリン、アレスリン、アロサミジン (allosamidin)、アリキシカルブ、アルファシペルメトリン、アルファエクジソン、アルファエンドスルファン、AKD-1022、アミジチオン、アミドフルメット、アミノカルブ、アミトン (amiton)、アミトラズ、アナバシン (anabasine)、三酸化ヒ素、アチダチオン、アザジラクチン (azadirachtin)、アザメチホス、アジンホスエチル、アジンホスメチル、アゾベンゼン、アゾシクロチン、アゾトエート、

10

20

30

40

50

バチルス・チューリンギエンシス (*Bacillus thuringiensis*)、ヘキサフルオロケイ酸バリウム、バルトリン (barthrin)、ベンクロチアズ、ベンジオカルブ、ベンフラカルブ、ベノミル、ベノキサホス (benoxafos)、ベンスルタップ、ベンゾキシメート、安息香酸ベンジル、ベータシフルトリン、ベータシペルメトリン、ビフェナゼート、ビフェントリン、ビナパクリル、ビオアレトリン (bioallethrin)、ビオエタノメトリン (bioethanomethrin)、ビオペルメトリン、ビストリフルロン、ホウ砂、ホウ酸、プロムフェンビンフォス、プロモ DDT、プロモシクレン、プロモホス、プロモホスエチル、プロモプロピレート、ブフェンカルブ、ブプロフェジン、ブタカルブ、ブタチオホス、ブトカルボキシム、ブトネート、ブトキシカルボキシム、

カズサホス、ヒ酸カルシウム、多硫化カルシウム、カンフェクロール、カーバノレート、カルバリル、カルボフラン、二硫化炭素、四塩化炭素、カルボフェノチオン、カルボスルファン、カルタップ、キノメチオナー、クロラントラニリプロール、クロルベンシド、クロルビシクレン、クロルデン、クロルデコン、クロルジメホルム、クロルエトキシホス、クロルフェナビル、クロルフェネトール、クロルフェンソン、クロルフェンスルフィド、クロルフェンビンホス、クロルフルアズロン、クロルメホス、クロロベンジレート、3 - (4 - クロロ - 2 , 6 - ジメチルフェニル) - 4 - ヒドロキシ - 8 - オキサ - 1 - アザスピロ [4 , 5] デカ - 3 - エン - 2 - オン、3 - (4' - クロロ - 2 , 4 - ジメチル [1 , 1' - ビフェニル] - 3 - イル) - 4 - ヒドロキシ - 8 - オキサ - 1 - アザスピロ [4 , 5] デカ - 3 - エン - 2 - オン、4 - [(6 - クロロ - 3 - ピリジニル)メチル]メチルアミノ] - 2 (5H) - フラノン、4 - [(6 - クロロ - 3 - ピリジニル)メチル]シクロプロピルアミノ] - 2 (5H) - フラノン、3 - クロロ - N2 - [(1S) - 1 - メチル - 2 - (メチルスルホニル)エチル] - N1 - [2 - メチル - 4 - [1 , 2 , 2 , 2 - テトラフルオロ - 1 - (トリフルオロメチル)エチル]フェニル] - 1 , 2 - ベンゼンジカルボキサミド、クロロホルム、クロロメブホルム、クロロメチウロン、クロロピクリン、クロロプロピレート、クロロホキシム、クロルプラゾホス、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルチオホス、クロマフェノジド、シネリン (cinerin) I、シネリン II、シスマトリシン、クロエトカルブ、クロフェンテジン、クロサンテル、クロチアニジン、アセトアヒ酸銅、ヒ酸銅、ナフテン酸銅、オレイン酸銅、クマホス、クミトエート、クロタミトン (crotamiton)、クロトキシホス、クルエンタレン (cruentaren) A 及びクルエンタレン B、クルホメート、クリオリト (cryolite)、シアノフェンホス、シアノホス、シアントエート、シアントラニリプロール、シクレトリン (cyclethrin)、シクロプロトリン、シエノピラフェン、シフルメトフェン、シフルトリン、シハロトリン、シヘキサチン、シペルメトリン、シフェノトリン、シロマジン、シチオエート (cythioate)、2 - シアノ - N - エチル - 4 - フルオロ - 3 - メトキシ - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - 3 - メトキシ - N - エチル - 3 - フルオロ - 3 - メトキシ - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - 3 - ジフルオロメトキシ - N - エチル - 4 - フルオロ - 3 - メトキシ - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - 3 - フルオロメトキシ - N - エチル - 4 - フルオロ - 3 - メトキシ - N , N - ジメチル - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - N - エチル - 6 - フルオロ - 3 - メトキシ - N , N - ジメチル - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - N - エチル - 6 - フルオロ - 3 - メトキシ - N - メチル - ベンゼンスルホニアミド、2 - シアノ - 3 - ジフルオロメトキシ - N , N - ジメチルベンゼンスルホニアミド、

d - リモネン、ダゾメット、DBCP、DCIP、DDT、デカルボフラン、デルタメトリン、デメフィオン、デメフィオンO、デメフィオンS、デメトン、デメトンメチル、デメトンO、デメトンOメチル、デメトンS、デメトンSメチル、デメトンSメチルスルホン、ジアフェンチウロン、ジアリホス、ジアミダホス、ダイアジノン、ジカプトン (dicapton)、ジクロフェンチオン、ジクロフルアニド、ジクロルボス、ジコホル、ジクレスル (dicresyl)、ジクロトホス、ジシクラニル、ディルドリン、ジエノクロル、ジフロビダジン、ジフルベンズロン、3 - (ジフルオロメチル) - N - [2 - (3 , 3 - ジメチルブチル)フェニル] - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、ジロール (dilor)、ジメフルトリン、ジメホックス、ジメタン (dimetan)、ジメトエート、ジメトリン、ジメチルビンホス、ジメチラン (dimetilan)、ジネックス、ジノブトン、ジノカ

ップ、ジノカップ4、ジノカップ6、ジノクトン、ジノペントン、ジノプロップ、ジノサム、ジノスルホン、ジノテフラン、ジノテルボン、ジオフェノラン、ジオキサベンゾホス、ジオキサカルブ、ジオキサチオン、ジフェニルスルホン、ジスルフィラム(disulfiram)、ジスルホトン、ジチクロホス、D N O C、ドフェナピン、ドラメクチン、

エクジステロン(ecdysterone)、エマメクチン、エマメクチンベンゾエート、E M P C、エムペントリン、エンドスルファン、エンドチオン、エンドリン、E P N、エボフェノナン、エブリノメクチン(eprinomectin)、エスフェンバレレート、エタホス(etaphos)、エチオフェンカルブ、エチオン、エチプロール、エトエートメチル、エトプロホス、エチルDDD、ギ酸エチル、エチレンジプロミド、エチレンジクロリド、エチレンオキシド、エトフェンプロックス、エトキサゾール、エトリムホス、EXD、

F 1050、ファムフル(famphur)、フェナミホス、フェナザフロル、フェナザキン、フェンブタチンオキシド、フェンクロルホス、フェネタカルブ、フェンフルトリン、フェニトロチオン、フェノブカルブ、フェノチオカルブ、フェノキサクリム、フェノキシカルブ、フェンピリトリン、フェンプロパトリン、フェンピロキシメート、フェンソン、フェンスルホチオン、フェンチオン、フェンチオンエチル、フェントリファニル、フェンバレート、フィプロニル、FKI-1033、フロニカミド、フルアクリピリム、フルアズロン、フルベンジアミド、フルベンジミン、フルコフロン、フルシクロクスロン、フルシリネート、フルエネチル、フルフェネリム、フルフェノクスロン、フルフェンプロックス、フルメトリン、フルオルベンシド、フルバリネット、ホノホス、ホルメタネット、ホルモチオン、ホルムパラネット、ホスメチラン、ホスピレート、ホスチアゼート、ホスチエタン、ホスチエタン、フラチオカルブ、フレトリン(furethrin)、フルフラール、

ガンマシハロトリン、ガンマHCH、

ハロフェンプロックス、ハロフェノジド、HCH、HEOD、ヘプタクロル、ヘプテノホス、ヘテロホス(heterophos)、ヘキサフルムロン、ヘキシチアゾックス、HHDN、ヒドラメチルノン、シアノ化水素、ヒドロブレン、ヒキンカルブ、

イミシアホス、イミダクロブリド、イミダクロチズ(imidaclothiz)、イミプロトリン、インドキサカルブ、ヨードメタン、IPSP、イサミドホス、イサゾホス、イソベンサン、イソカルボホス(isocarbophos)、イソドリン(isodrin)、イソフェンホス、イソプロカルブ、イソプロチオラン、イソチオエート、イソキサチオン、イベルメクチン、

ジャスモリン(jasmolin)I、ジャスモリンII、ジョードフェンホス、幼若ホルモンI、幼若ホルモンII、幼若ホルモンIII、JS118、

ケレバン、キノブレン、

ラムダシハロトリン、ヒ酸鉛、レピメクチン、レブトホス、リンデン、リリムホス、ルフェヌロン、リチダチオン、

マラチオン、マロノベン、マジドックス、メカルバム、メカルホン、メナゾン、メホスホラン、塩化第一水銀、メスルフェン(mesulfen)、メスルフェンホス、メタフルミゾン、メタム、メタクリホス、メタミドホス、メチダチオン、メチオカルブ、メトクロトホス、メソミル、メトブレン、メトキシクロル、メトキシフェノジド、メチルプロミド、メチルイソチオシアネット、メチルクロロホルム、メチレンクロリド、メトフルトリン、メトルカルブ、メトキサジアゾン、メビンホス、メキサカルベート、ミルベメクチン、ミルベマイシンオキシム(milbemycin oxime)、ミパホックス、ミレックス、MNAF、モノクロトホス、モルホチオン、モキシデクチン(moxidecthin)、

ナフタロホス(naftalofos)、ナレッド、ナフタレン、ネレイストキシン(nereistoxin)、N-エチル-2,2-ジメチルプロピオンアミド-2-(2,6-ジクロロ-, , -トリフルオロ-p-トリル)ヒドラゾン、N-エチル-2,2-ジクロロ-1-メチルシクロプロパンカルボキサミド-2-(2,6-ジクロロ-, , -トリフルオロ-p-トリル)ヒドラゾン、ニコチン、ニフルリジッド、ニッコマイシン(nikkomycin)類、ニテンピラム、ニチアジン、ニトリラカルブ、ノバルロン、ノビフルムロン、

オメトエート、オキサミル、オキシデメトンメチル、オキシデプロホス、オキシジスルホトン、

10

20

30

40

50

パラジクロロベンゼン、パラチオン、パラチオンメチル、ペンフルロン (penfluron) 、ペントクロロフェノール、ペントメトリン (pentmethrin) 、ペルメトリン、フェンカプトン、フェノトリン、フェントエート、ホレート、ホサロン、ホスホラン、ホスマット、ホスニクロル、ホスファミドン、ホスフィン、ホスホカルブ、ホキシム、ホキシムメチル、ピペロニルブトキシド、ピリメタホス、ピリミカルブ、ピリミホスエチル、ピリミホスメチル、亜ヒ酸カリウム、チオシアソ酸カリウム、 p,p' -DDT、プラレトリン、プレコセン (precocene) I 、プレコセン II 、プレコセン III 、プリミドホス、プロクロノール (procionol) 、プロフェノホス、プロフルトリン、プロマシル (promacyl) 、プロメカルブ、プロパホス、プロパルギット、プロペタンホス、プロポキスル、プロチダチオン、プロチオホス、プロトエート、プロトリフェンブト、ピラクロホス、ピラフルプロール、ピラゾホス、ピレスメトリノ、ピレトリン I 、ピレトリン II 、ピリダベン、ピリダリル、ピリダフェンチオン、ピリフルキナゾン、ピリミジフェン、ピリミテート、ピリブロール、ピリブロキシフェン、

Qcide、カッシア、キナルホス、キナルホスメチル、キノチオン (quinothion) 、クアンチオホス、

ラフォキサニド、レスメトリノ、ロテノン、リアニア、

サバジラ、シュラーダン、セラメクチン (selamectin) 、シラフルオフェン、亜ヒ酸ナトリウム、フッ化ナトリウム、ヘキサフルオロケイ酸ナトリウム、チオシアソ酸ナトリウム、ソファミド、スピネトラム、スピノサド、スピロジクロフェン、スピロメシフェン、スピロテトラマト、スルコフロン、スルフィラム (sulfiram) 、スルフラミド、スルホテップ、スルホキサフロル、イオウ、フッ化スルフリル、スルプロホス、

タウフルバリネット、タジムカルブ、TDE、テブフェノジド、テブフェンピラド、テブピリムホス、テフルベンズロン、テフルスリン、テメホス、TEPP、テラレトリン、テルブホス、テトラクロロエタン、テトラクロロビンホス、テトラジホン、テトラメトリノ、テトラメチルフルトリン、テトラナクチン (tetranactin) 、テトラスル、シータシペルメトリノ、チアクロブリド、チアメトキサム、チクロホス、チオカルボキシム、チオシクラム、チオジカルブ、チオファノックス、チオメトン、チオナジン、チオキノックス、チオスルタップ、チューリングエンシン (thuringiensin) 、トルフェンピラド、トライメトリノ、トランスフルトリン、トランスペルメトリノ、トリアラテン、トリアザメート、トリアゾホス、トリクロルホン、トリクロルメタホス 3 (trichlorometaphos 3) 、トリクロロナート、トリフェノホス、トリフルムロン、トリメタカルブ、トリブレン、

バミドチオン、バニリプロール、ベルチシリド (verticilide) 、

XMC、キシリルカルブ、

ゼータシペルメトリノ及びゾラプロホス。

【0119】

加えて、上記殺虫剤のどのような組合せも使用することができる。

【0120】

本文書において開示される発明はまた、効率的使用及び相乗作用の両方の理由で、除草剤及び殺カビ剤とともに使用することができる。

【0121】

本文書において開示される発明は、効率的使用及び相乗作用の理由で、抗菌剤、殺細菌剤、枯葉剤、毒性緩和剤、相乗剤、殺藻剤、誘引剤、乾燥剤、フェロモン、忌避剤、動物浸液、殺鳥剤、消毒剤、情報化学物質及び軟体動物駆除剤（これらの分類は必ずしも相互に排他的ではない）とともに用いることができる。

【0122】

加えて、下記の一般に公知な化合物を本発明とともに使用することができる：ルエンスルホン (luensulfone) 、フフェノジド (fufenozide) 、ピメトロジン、IKA-2002、IKI-2002、ZJ0967、IPP-10、JT-L001、N-エチル-2,2-ジクロロ-1-メチルシクロプロパンカルボキサミド-2-(2,6-ジクロロ-, -, -トリフルオロ-p-トリル)ヒドラゾン。

10

20

30

40

50

【0123】

さらに多くの情報については、本文書の出願日当時の <http://www.alanwood.net/pesticides/index.html> にある “Compendium of Pesticide Common Names” を参照のこと。“The Pesticide Manual”（第14版、編者：CDS Tomlin、著作権（2006年）：British Crop Production Council）もまた参照のこと。

【0124】

相乗作用混合物

本文書において開示される発明は、混合物における化合物の作用様式が同じであるか、又は類似しているか、又は異なる相乗作用混合物を形成するために、他の化合物とともに使用することができ、例えば、「混合物」の見出しのもとで述べられる化合物などとともに使用することができる。

10

【0125】

作用様式の例としては、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤、ナトリウムチャネル調節剤、キチン生合成阻害剤、GABA作動性塩素イオンチャネルアンタゴニスト、GABA作動性かつグルタミン酸作動性の塩素イオンチャネルアゴニスト、アセチルコリン受容体アゴニスト、MET I阻害剤、Mg刺激ATPas e阻害剤、ニコチン性アセチルコリン受容体、中腸膜破壊剤及び酸化的リン酸化破壊剤が含まれるが、これらに限定されない。

20

【0126】

加えて、下記の化合物が相乗剤として公知であり、本文書において開示される発明とともに使用することができる：ピペロニルブトキシド、ピプロタル（piprotal）、プロピルイソム（propyl isome）、セサメックス（sesamex）、セサモリン（sesamolin）及びスルホキシド。

【0127】

配合物

殺虫剤は、その純粋な形態で適用するために好適であることは希である。通常の場合には、他の物質を加え、その結果、殺虫剤が、要求される濃度で、かつ、適切な形態で使用され得るようにすることが必要であり、このことは、容易な適用、取り扱い、輸送、貯蔵及び最大の殺虫剤活性を可能にする。従って、殺虫剤は、例えば、餌、高濃度エマルション剤、粉剤、乳剤、燻蒸剤、ゲル剤、粒剤、マイクロカプセル封入剤、種子処理剤、懸濁高濃度剤、サスペンション剤、錠剤、水溶性液剤、水和性顆粒剤又はドライフロアブル剤、水和剤及び超低体積（ultra low volume）溶液に配合される。

30

【0128】

配合物タイプに関するさらなる情報については、“Catalogue of Pesticide Formulation Types and International Coding System”、Technical Monograph No.2（第5版、編集：CropLife International（2002））を参照のこと。

【0129】

殺虫剤は、ほとんどの場合、当該殺虫剤の高濃度配合物から調製される水性の懸濁物又はエマルションとして提供される。そのような水溶性配合物、水に懸濁可能な配合物又は乳化可能な配合物は、固体（これは通常、水和性粉末として公知である）、又は、水和性顆粒剤であるか、或いは、通常的には乳剤として公知である液体、又は、水性懸濁物であるかのどちらかである。水和性粉末は、水和性顆粒剤を形成するために圧縮成形され得ることがあるが、殺虫剤、担体及び界面活性剤の均質な混合物を含む。殺虫剤の濃度は通常、重量比で約10%～約90%である。担体は通常、アタパルジャイト粘土、モンモリロナイト粘土、珪藻土又は精製されたケイ酸塩の中から選ばれる。約0.5%～約10%の水和性粉末を含む場合、効果的な界面活性剤が、スルホン化リグニン、縮合ナフタレンスルホナート、ナフタレンスルホナート、アルキルベンゼンスルホナート、アルキルスルファート及び非イオン性界面活性剤（例えば、アルキルフェノールのエチレンオキシド付加物など）の中に見出される。

40

50

【0130】

殺虫剤の乳剤は、水混和性溶媒であるか、又は、水非混和性有機溶媒及び乳化剤の混合物であるかのどちらかである担体に溶解される殺虫剤の好都合な濃度（例えば、1リットルの液体あたり約50グラム～約500グラムなど）を含む。有用な有機溶媒には、芳香族系溶媒、とりわけ、キシレン系、及び、石油分画物、とりわけ、高沸点のナフタレン系、並びに、石油のオレフィン部分（例えば、重質芳香族ナフサなど）が含まれる。他の有機溶媒もまた使用することができ、例えば、テルペン系溶媒（ロジン誘導体を含む）、脂肪族ケトン（例えば、シクロヘキサンなど）及び複合アルコール（例えば、2-エトキシエタノールなど）を使用することができる。乳剤のための好適な乳化剤が、従来のアニオン性界面活性剤及び非イオン性界面活性剤から選ばれる。

10

【0131】

水性懸濁物は、水性担体に約5重量%～約50重量%の範囲における濃度で懸濁される水不溶性殺虫剤の懸濁物を含む。懸濁物が、殺虫剤を細かく粉碎し、粉碎物を、水及び界面活性剤から構成される担体に激しく混合することによって調製される。様々な成分、例えば、無機塩及び合成ゴム又は天然ゴムなどもまた、水性担体の密度及び粘度を増大させるために加えることができる。所定の装置（例えば、サンドミル、ポールミル又はピストン型ホモジナイザーなど）においてそのような水性混合物を調製し、それを均質化することによって殺虫剤を同時に粉碎及び混合する多くの場合、最も効果的である。

20

【0132】

殺虫剤はまた、土壤への適用のために特に有用である粒状組成物として適用することができる。粒状組成物は通常、約0.5重量%～約10重量%の殺虫剤を、粘土又は類似する物質を含む担体に分散されて含有する。そのような組成物は通常、殺虫剤を好適な溶媒に溶解し、それを、約0.5mm～3mmの範囲で、適切な粒子サイズに事前に形成されている粒状担体に加えることによって調製される。そのような組成物はまた、担体及び化合物の練り粉又はペーストを作製し、破碎及び乾燥して、所望される粒状粒子サイズを得ることによって配合することができる。

【0133】

殺虫剤を含有する粉剤が、粉末化形態の殺虫剤を好適な粉末状の農業用担体（例えば、カオリין粘土及び粉碎された火山岩など）と均質に混合することによって調製される。粉剤は好適には、約1%～約10%の殺虫剤を含有することができる。粉剤は種子粉衣剤（seed dressing）として適用することができ、又は、粉剤プロワー機器を用いて葉面適用剤として適用することができる。

30

【0134】

殺虫剤を適切な有機溶媒（通常的には石油、例えば、農業化学において広範囲に使用されるスプレー油など）における溶液の形態で適用することができる。同等に実用的である。

【0135】

殺虫剤はまた、エアロゾル組成物の形態で適用することができる。そのような組成物において、殺虫剤は、圧力発生用の噴射剤混合物である担体に溶解又は分散される。エアロゾル組成物は、混合物が噴霧バルブを介して施される容器に詰められる。

40

【0136】

殺虫剤が食物又は誘因剤又は両者と混合されるとき、殺虫剤餌が形成される。害虫がそのような餌を食べるととき、害虫は殺虫剤を摂取する。餌は、顆粒、ゲル、フロアブル粉末、液体又は固体の形態を取ることができる。餌は害虫の生息場所において使用される。

【0137】

燻蒸剤は、比較的高い蒸気圧を有し、従って、土壤又は閉ざされた空間において害虫を殺すために、十分な濃度でガスとして存在することができる殺虫剤である。燻蒸剤の毒性はその濃度及び暴露時間に比例する。燻蒸剤は、拡散についての良好な能力によって特徴づけられ、害虫の呼吸器系に浸透することによるか、又は、害虫の角皮から吸収されることによって作用する。燻蒸剤は、ガス不透過性シートの下、ガス封止された部屋又は建物の中、或いは、特別なチャンバーの中における貯蔵製造物の害虫を駆除するために適用さ

50

れる。

【0138】

殺虫剤は、殺虫剤の粒子又は液滴を様々なタイプの可塑性ポリマーに懸濁することによってマイクロカプセル化することができる。ポリマーの化学的性質を変えることによって、又は、加工における様々な要因を変化させることによって、様々なサイズ、溶解性、壁厚、及び、様々な程度の浸透性を有するマイクロカプセルを形成することができる。これらの要因により、内部の有効成分が放出される速度が決定され、このことは、その結果として、製造物の残留性能、作用速度及び臭気に影響を及ぼす。

【0139】

油性溶液の高濃度物が、殺虫剤を溶解状態で保ち得る溶媒に殺虫剤を溶解することによって作製される。殺虫剤の油性溶液は通常、溶媒自身が殺虫作用を有すること、及び、外皮のワックス様被覆の溶解が殺虫剤の取り込み速度を増大させることにより、他の配合物よりも速い害虫の撃退及び殺傷をもたらす。油性溶液の他の利点には、貯蔵安定性がより良好であること、隙間への浸透がより良好であること、及び、油で汚れた表面への付着がより良好であることが含まれる。

【0140】

別の実施形態が水中油型エマルションであり、この場合、エマルションは、それぞれがラメラ状の液晶被覆を備え、かつ、水相に分散される油性の小滴を含み、そして、それぞれの油性の小滴が、農業的に活性である少なくとも1つの化合物を含み、かつ、(1)少なくとも1つの非イオン性親油性表面活性剤、(2)少なくとも1つの非イオン性親水性表面活性剤、及び、(3)少なくとも1つのイオン性表面活性剤を含むモノラメラ層又はオリゴラメラ層により個々に覆われ、このとき、小滴は平均粒子直径が800ナノメートル未満である。この実施形態に関するさらなる情報が、特許出願番号第11/495,228号を有する2007年2月1日発行の米国特許出願公開第20070027034号に開示される。使用を容易にするために、この実施形態は「O I W E」と呼ばれる。

【0141】

さらなる情報については、D. Dentによる“*Insect Pest Management*”(第2版、著作権：CAB International (2000))を参照のこと。加えて、より詳細な情報については、Arnold Mallisによる“*Handbook of Pest Control - The Behavior, Life History, and Control of Household Pests*”(第9版、著作権(2004年)：GIE Media Inc.)を参照のこと。

【0142】

他の配合成分

一般に、本文書において開示される発明は、配合物で使用されるとき、そのような配合物はまた、他の成分を含有することができる。これらの成分には、湿潤剤、展着剤、固着剤、浸透剤、緩衝剤、金属イオン封鎖剤、ドリフト軽減剤、相容性薬剤、消泡剤、清浄化剤及び乳化剤が含まれるが、これらに限定されない(これは、非網羅的な、相互に排他的でない列挙である)。少数の成分が次に記載される。

【0143】

湿潤化剤は、液体に加えられたとき、液体と、液体が拡がりつつある表面との間の界面張力を低下させることによって、液体の拡がり又は浸透力を増大させる物質である。湿潤化剤が、農薬配合物における2つの大きな機能のために、すなわち、加工時及び製造時には、水における粉末の濡れ速度を増大させて、可溶性液剤のための高濃度物、又は、懸濁高濃度物を作製するために、そして、製造物をスプレータンクにおいて水と混合しているときには、水和性粉末の湿潤時間を短くし、かつ、水和性顆粒剤の中への水の浸透を改善するために使用される。水和性粉末配合物、懸濁高濃度物配合物及び水和性顆粒剤配合物において使用される湿潤化剤の例が、ラウリル硫酸ナトリウム、ジオクチルスルホコハク酸ナトリウム、アルキルフェノールエトキシラート及び脂肪族アルコールエトキシラートである。

【0144】

10

20

30

40

50

分散化剤は、粒子の表面に吸着し、粒子の分散状態を保つことを助け、かつ、粒子が再凝集することを防止する物質である。分散化剤が、製造時における分散及び懸濁を容易にするために、また、粒子がスプレータンクにおいて水に再分散することを保証するために農薬配合物に加えられる。分散化剤が、水和性粉末、懸濁高濃度物及び水和性顆粒剤において広範囲に使用される。分散化剤として使用される界面活性剤は、粒子表面に強く吸着し、粒子の再凝集に対する電荷バリア又は立体的バリアを提供することができる。最も一般に使用されている界面活性剤が、アニオン性、又は、非イオン性、又は、これら2つのタイプの混合物である。水和性粉末配合物については、最も一般的な分散化剤がリグノスルホン酸ナトリウムである。懸濁高濃度物については、非常に良好な吸着及び安定化が、高分子電解質を使用して、例えば、ナフタレンスルホン酸ナトリウムホルムアルデヒド縮合物などを使用して得られる。トリスチリルフェノールエトキシラートホスファートエステルもまた使用される。非イオン性のもの、例えば、アルキルアリールエチレンオキシド縮合物及びEO-POブロックコポリマーなどが時には、懸濁高濃度物のための分散化剤としてアニオン性のものと組み合わされる。近年では、新しいタイプの非常に高分子量のポリマー界面活性剤が分散化剤として開発されている。これらは、非常に長い疎水性「骨格」と、「くし」型界面活性剤の「歯」を形成する多数のエチレンオキシド鎖とを有する。これらの高分子量ポリマーは、疎水性骨格が粒子表面への多くの固定点を有するので、非常に良好な長期間安定性を懸濁高濃度物に与えることができる。農薬配合物において使用される分散化剤の例が、リグノスルホン酸ナトリウム、ナフタレンスルホン酸ナトリウムホルムアルデヒド縮合物、トリスチリルフェノールエトキシラートホスファートエステル、脂肪族アルコールエトキシラート、アルキルエトキシラート、EO-POブロックコポリマー及びグラフトコポリマーである。

10

20

30

【0145】

乳化剤は、1つの液相の液滴の、別の液相における懸濁を安定化する物質である。乳化剤を用いない場合、これら2つの液体は2つの非混和性の液相に分離すると考えられる。最も一般に使用されている乳化剤ブレンド混合物は、12以上のエチレンオキシドユニットを有するアルキルフェノール又は脂肪族アルコールと、ドデシルベンゼンスルホン酸の油溶性カルシウム塩とを含有する。8から18までの範囲の親水性親油性比（「HLB」）値が通常、良好な安定エマルションをもたらし得る。エマルションの安定性を時には、少量のEO-POブロックコポリマー界面活性剤の添加によって改善することができる。

【0146】

可溶化剤は、臨界ミセル濃度を超える濃度で水においてミセルを形成する界面活性剤である。その場合、ミセルは、水不溶性物質をミセルの疎水性部分の内部に溶解又は可溶化することができる。可溶化のために通常に使用されるタイプの界面活性剤が非イオン性のものであり、例えば、ソルビタンモノオレアート、ソルビタンモノオレアートエトキシラート及びメチルオレアートエステルである。

【0147】

界面活性剤は時には、標的にに対する殺虫剤の生物学的成績を改善するために、スプレータンクミックスに対する補助剤として単独で使用されるか、又は、他の添加剤（例えば、鉛油又は植物油など）とともに使用される。生物学的強化のために使用される界面活性剤のタイプは、一般には殺虫剤の性質及び作用様式に依存する。しかしながら、生物学的強化のために使用される界面活性剤は多くの場合、非イオン性のものであり、例えば、アルキルエトキシラート、線状脂肪族アルコールエトキシラート、脂肪族アミンエトキシラートである。

40

【0148】

農業用配合物における担体又は希釈剤は、要求される強さの製造物を与るために殺虫剤に加えられる物質である。担体は通常、大きい吸収能を有する物質であり、一方、希釈剤は通常、小さい吸収能を有する物質である。様々な担体及び希釈剤が、粉剤、水和性粉末、粒剤及び水和性顆粒剤の配合において使用される。

【0149】

50

有機溶媒が、乳剤、U L V配合物の配合において主に使用され、また、より少ない程度であるが、粒状配合物において使用される。時には、溶媒の混合物が使用される。溶媒の第1の主要な群が、脂肪族パラフィン油、例えば、ケロシン又は精製パラフィンなどである。第2の主要な群、すなわち、最も一般的な群が、芳香族溶媒、例えば、キシレン、並びに、C₉芳香族溶媒及びC₁₀芳香族溶媒のより高分子量の分画物などである。塩素化炭化水素が、配合物が水に乳化されるとき、殺虫剤の結晶化を防止するための共溶媒として有用である。アルコールが時には、溶媒力を増大させるために共溶媒として使用される。

【0150】

増粘剤又はゲル化剤が、液体のレオロジー又は流動特性を改変するために、また、分散された粒子又は液滴の分離及び沈降を防止するために、懸濁高濃度物、エマルション剤及びサスポエマルション剤の配合において主に使用される。増粘剤、ゲル化剤及び沈降防止剤は一般に、2つのカテゴリーに、すなわち、水不溶性粒状物と、水溶性ポリマーとに分けられる。粘土及びシリカを使用して懸濁高濃度物配合物を製造することが可能である。これらのタイプの物質の例としては、モンモリロナイト（例えば、ベントナイト）、ケイ酸アルミニウムマグネシウム及びアタパルジャイトが挙げられるが、これらに限定されない。水溶性多糖が、長年にわたって増粘剤／ゲル化剤として使用されている。最も一般に使用される多糖のタイプが種子及び海草の天然抽出物であり、又は、セルロースの合成誘導体である。これらのタイプの物質の例としては、グアーゴム、ローカストビーンガム、カラギーナン、アルギン酸塩、メチルセルロース、ナトリウムカルボキシメチルセルロース（SCMC）、ヒドロキシエチルセルロース（HEC）が挙げられるが、これらに限定されない。他のタイプの沈降防止剤が、修飾デンプン、ポリアクリラート、ポリビニルアルコール及びポリエチレンオキシドに基づく。別の良好な沈降防止剤がキサンタンガムである。

10

20

30

40

【0151】

様々な微生物が、配合された製造物を損なう原因となる。従って、保存剤が、それらの影響を除くために、又は、それらの影響を軽減するために使用される。そのような薬剤の例としては、プロピオン酸及びそのナトリウム塩、ソルビン酸及びそのナトリウム塩又はカリウム塩、安息香酸及びそのナトリウム塩、p-ヒドロキシ安息香酸ナトリウム塩、p-ヒドロキシ安息香酸メチル、並びに、1,2-ベンゾイソチアゾリン-3-オン（BIT）が挙げられるが、これらに限定されない。

【0152】

界面活性剤の存在は、界面張力を低下させるが、多くの場合、水系配合物が、製造における混合操作の期間中に、また、スプレータンクからの適用における混合操作の期間中に泡立つことを生じさせる。発泡傾向を軽減するために、消泡剤が多くの場合、製造段階の期間中に、又は、瓶に充填する前に、そのどちらかで加えられる。一般に、2つのタイプの消泡剤が存在する。すなわち、シリコーン系消泡剤と、非シリコーン系消泡剤とが存在する。シリコーン系消泡剤は通常、ジメチルポリシロキサンの水性エマルションであり、一方、非シリコーン系消泡剤は水不溶性オイル（例えば、オクタノール及びノナノールなど）又はシリカである。両方の場合において、消泡剤の機能は、界面活性剤を空気・水の境界から追い出すことである。

【0153】

さらなる情報については、“Chemistry and Technology of Agrochemical Formulations”（D. A. Knowles編集、著作権（1998年）：Kluwer Academic Publishers）を参照のこと。“Insecticides in Agriculture and Environment - Retrospects and Prospects”（A. S. Perry、I. Yamamoto、I. Ishaya及びR. Perry、著作権（1998年）：Springer-Verlag）もまた参考のこと。

【0154】

適用

50

害虫の場所に適用されるべき殺虫剤の実際の量は重要でなく、当業者によって容易に決定することができる。一般には、1ヘクタールあたり約0.01グラムの殺虫剤から1ヘクタールあたり約5000グラムの殺虫剤までの濃度が、良好な駆除をもたらすことが予想される。

【0155】

殺虫剤が適用される場所は、害虫が生息するどのような場所も可能であり、例えば、野菜作物、果樹及び堅果樹、ブドウのツル、観賞植物、家畜、建物の室内面又は屋外面、並びに、建物の周りの土壤が可能である。

【0156】

一般に、餌に関しては、餌が、例えば、シロアリが餌と接触し得る地面に置かれる。餌はまた、例えば、アリ、シロアリ、ゴキブリ及びハエが餌と接触し得る建物の表面（水平表面、垂直表面又は傾斜表面）に適用することができる。

【0157】

一部の害虫は、その卵が殺虫剤に抵抗し得る特異な能力を有するので、反復適用が、新たに現れた幼虫を駆除するために望ましい場合がある。

【0158】

植物における殺虫剤の全身移行を、植物の1つの部分における害虫を、殺虫剤をその植物の異なる部分に適用することによって駆除するために利用することができる。例えば、葉を食べる昆虫の駆除を、点滴灌漑又は畦間適用によって、或いは、種子を種まき前に処理することによって管理することができる。種子処理を、特殊化された形質を発現するために遺伝子的に形質転換された植物が成長する種子を含めて、すべてのタイプの種子に対して適用することができる。代表的な例としては、無脊椎動物害虫に対して毒性のあるタンパク質及び/又は二本鎖RNA（例えば、バチルス・チューリングエンシス、Bt Cryトキシン、Bt Vipトキシン、又は、他の殺昆虫性トキシンなど）を発現する種子又は植物、除草剤抵抗性を発現する種子又は植物（例えば、「Roundup Ready」種子など）、或いは、殺昆虫性トキシン、除草剤抵抗性、栄養強化又は何らかの他の有益な形質を発現する「積み重ねられた」外来遺伝子を有する種子又は植物が含まれる。その上、本文書において開示される発明によるそのような種子処理は、ストレスが多い生育条件により良く耐える植物の能力をさらに高めることができる。この結果、より健康で、より元気な植物がもたらされ、このような植物は収穫期においてより大きい収穫量をもたらすことができる。

【0159】

本発明が、特殊化された形質（例えば、バチルス・チューリングエンシス、RNAi又は他の殺昆虫性トキシンなど）を発現するために遺伝子的に形質転換された植物、除草剤抵抗性を発現する植物、或いは、殺昆虫性トキシン、除草剤抵抗性、栄養強化又は何らかの他の有益な形質を発現する「積み重ねられた」外来遺伝子を有する植物とともに使用されることは容易に明らかであるに違いない。

【0160】

本文書において開示される発明は、動物医療部門において、又は、動物飼育の分野（これには、疑いを避けるために、ペット、例えば、ネコ、イヌ及び鳥類が含まれる）において内部寄生虫及び外部寄生虫を駆除するために好適である。本発明による化合物は、この場合、公知である様式で適用され、例えば、錠剤、カプセル、飲料物、顆粒の形態での経口投与、及び、例えば、浸漬、噴霧、浴びせること、スポットティング及び粉散布の形態での皮膚投与、及び、例えば、注射の形態での非経口投与などによって適用される。

【0161】

本文書において開示される発明はまた、家畜飼育において、例えば、ウシ、ヒツジ、ブタ、ニワトリ及びガチョウにおいて都合良く用いることができる。好適な配合物が、飲料水又は飼料とともに動物に経口投与される。好適である投薬量及び配合物は動物種に依存する。

【0162】

10

20

30

40

50

殺虫剤が使用され得るか、又は、商業的に販売され得る前に、当該殺虫剤は、様々な政府当局（地方、地域、州、国家及び国家間）による長期の評価プロセスを受ける。膨大なデータ要求が規制当局によって定められており、製造物登録者によるか、又は、製造物登録者に代わる他者によるデータ作製及びデータ提出によって取り扱われなければならない。その後、これらの政府当局は当該データを検討し、安全であるという決定が結論される場合、可能性のある使用者又は販売者に製造物登録承認を与える。その後、製造物登録が与えられ、かつ、支持される地方において、当該使用者又は販売者は当該殺虫剤を使用又は販売することができる。

【0163】

本文書における見出しあは便宜的なものにすぎず、従って、どのような一部分であれ、その一部分を解釈するために使用してはならない。 10

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/US2010/023852

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER INV. C07H15/02 A01N43/16 ADD.

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) C07H A01N
--

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)
--

EPO-Internal, BEILSTEIN Data, CHEM ABS Data, WPI Data

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT
--

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 98/47894 A1 (DOW AGROSCIENCES LLC [US]) 29 October 1998 (1998-10-29) the whole document -----	1-10

<input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C.

<input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.
--

* Special categories of cited documents :

- "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- "E" earlier document but published on or after the international filing date
- "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art.

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

Date of mailing of the international search report
--

15 April 2010

03/05/2010

Name and mailing address of the ISA/

European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel. (+31-70) 340-2040, Fax: (+31-70) 340-3016
--

Authorized officer

Nikolai, Joachim

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No PCT/US2010/023852

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
WO 9847894	A1 29-10-1998	AU 730027 B2	22-02-2001
		AU 6865898 A	13-11-1998
		BR 9804865 A	24-08-1999
		CA 2259246 A1	29-10-1998
		CN 1228089 A	08-09-1999
		CO 5200831 A1	27-09-2002
		EP 0922043 A1	16-06-1999
		ES 2167882 T3	16-05-2002
		JP 4306806 B2	05-08-2009
		JP 2000516260 T	05-12-2000
		KR 20000022164 A	25-04-2000
		MX 9810849 A	20-08-2002
		TR 9802691 T1	21-07-1999

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW,GH,GM,KE,LS,MW,MZ,NA,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,MD,RU,TJ,TM),EP(AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MK,MT,NL,NO,PL,PT,RO,SE,SI,S,K,SM,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AO,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BH,BS,BW,BY,BZ,CA,CH,CL,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,GT,HN,HR,HU,ID,IL,IN,IS,JP,KE,KG,KM,KN,KP,KR,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LY,MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PE,PG,PH,PL,PT,RO,RS,RU,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SM,ST,SV,SY,TH,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VC,VN,ZA,ZM,ZW

(74)代理人 100104282

弁理士 鈴木 康仁

(72)発明者 クラウス , ガリー

アメリカ合衆国 インディアナ州 46062 , ノブレスビレ , イースト 146 ストリート
5069

(72)発明者 スパークス , トーマス

アメリカ合衆国 インディアナ州 46140 , グリーンフィールド , グリーンヒルズ ロード
1322

(72)発明者 マクラウド , カサンドラ

アメリカ合衆国 インディアナ州 46220 , インディアナポリス , ハーバーフォード アベニ
ュー 6034

(72)発明者 ブラウン , アネット

アメリカ合衆国 インディアナ州 46268 , インディアナポリス , ショットテリー テラス
8132

(72)発明者 シッドル , トーマス

アメリカ合衆国 インディアナ州 46077 , ジオンズビル , サウス 900 イースト 19
25

F ターム(参考) 4C057 BB02 DD02 JJ03

4H011 AC01 BA01 BB08 BC05 DA13 DD03